

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	アジアの企業と文化	後期	月5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桑原 浩	3年	e9wahara@gmail.com	

学びの準備	ねらい 日本企業と多国籍企業が東南アジア、東アジア諸国でマーケティング活動を行った事例に焦点を当て、特に各地域の文化的背景とマーケティングとの関係を議論しながら、グローバルマーケティング論の基礎的概念の習得を目指します。	メッセージ 日本企業のアジア圏でのマーケティング活動のリアルな現実を、事例を通じて学ぶ授業です。そのために、現地で日系企業が実際に製造販売している製品のいくつかを、体験してもらう予定です。
	到達目標 1. グローバルマーケティングに関する基盤的知識を理解できること。 2. 実際のアジア地域のマーケティング活動に対して、活用可能なマーケティング概念を理解できること。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	消費者行動への越境的な視点（1）；「カップヌードル」他を事例として	第一回宿題
	3	消費者行動への越境的な視点（2）；「TOTO」を事例として 第1回宿題の発表あり	
	4	国のセグメンテーションとターゲット（1）；「かっぱえびせん」他を事例として	
	5	国のセグメンテーションとターゲット（2）；「かっぱえびせん」他を事例として	
	6	国内市場のセグメンテーションとターゲット（1）；「大戸屋」他を事例として	
	7	国内市場のセグメンテーションとターゲット（2）；「大戸屋」他を事例として	
	8	前半期間(2-7回)の補足とまとめ、中間テスト	
9	ポジショニング（1）；緑茶飲料他を事例として		
10	ポジショニング（2）；緑茶飲料他を事例として	第二回宿題	
11	ブランディング（1）；「スターバックス」他を事例として		
12	ブランディング（2）；「スターバックス」他を事例として		
13	市場参入（1）；「吉野家」他を事例として		
14	市場参入（2）；「大戸家」他を事例として		
15	沖縄県企業のアジアマーケティング	期末課題	
16			
	テキスト・参考文献・資料など 資料、講義ノート等をテキストとし、プリントで提供します。以下、参考文献です。 『グローバル・マーケティング入門』 相原 修・嶋 正・三浦 俊彦 著、2009年発行、日本経済新聞出版社 『日本企業のグローバル・マーケティング』 グローバルマーケティング研究会著、大石芳裕（編集）、2009年発行、白桃書房		
	学びの手立て マーケティングの入門科目が履修済みの学生を想定して授業が行われます。これまでマーケティング関係の科目を履修していないが本科目を履修したいと望む学生は、必ず初回授業でそのことを教員に連絡し、適当な指示を受けてください。		
	評価 1) 中間テスト 25% 2) 期末課題 25% 3) 宿題(2回) 50%		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	eコマース・マーケティング	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮森 正樹	3年	miyamori@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業を通して、eコマース・マーケティングの成り立ちとその活用方法を学ぶ。そしていかにして企業が自社の商品・サービスをeコマースを通して消費者の元に届けるかを知る。	メッセージ 専門科目を単なる単位・学ぶべきものとするのではなく、授業を通してその科目の楽しさ、面白さ、社会への影響に気づくことが大切です。
	到達目標 1. eコマース・マーケティングの概要を知る。 2. マーケティングとウェブの基本理論を学ぶ。 3. インターネットとマーケティングの関係性を知る。 4. 基本的なウェブ・マーケティングの企画が作成できるようになる。	

学びの準備	到達目標 1. eコマース・マーケティングの概要を知る。 2. マーケティングとウェブの基本理論を学ぶ。 3. インターネットとマーケティングの関係性を知る。 4. 基本的なウェブ・マーケティングの企画が作成できるようになる。
-------	---

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	eコマース・マーケティングとは	eコマースの内容等調査
	3	インターネットとマーケティングとの関係	eコマースの内容等調査
	4	eコマース事例研究1	eコマースの内容等調査
	5	eコマース事例研究2	eコマースの内容等調査
	6	eコマース事例研究3	eコマースの内容等調査
	7	ネット通販とは	eコマースの内容等調査
	8	ネット通販の現状と将来	eコマースの内容等調査
	9	ネット通販への提言	eコマースの内容等調査
	10	eコマースの流通戦略	eコマースの内容等調査
	11	eコマースの販売促進政策	eコマースの内容等調査
	12	eコマースの価格政策	eコマースの内容等調査
	13	eコマース実習1	eコマースの内容等調査
	14	eコマース実習2	eコマースの内容等調査
	15	eコマース実習3	eコマースの内容等調査
16	期末試験		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：授業にて指定する。また、必要に応じて授業の中でプリントを配布する。参考文献も必要な時に発表する。
-------	---

学びの実践	学びの手立て 履修の心構え： ①出席・授業への積極的参加を強く求める、②自分から動く、③課題提出は期日を守る、④他の学生に迷惑を掛けない。  学びを深めるために： ①マーケティングとウェブの関係を知る、②議論に積極的に参加する、③日経MJを読む。
-------	--

学びの実践	評価 評価は次の項目の総合的な観点から行われる。 ①出席、②期末試験、③レポート、④授業での態度、⑤課題提出物。
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 ビジネス関連科目を多く受講すること。マーケティングに関連した書籍を読むこと。一般教養科目をしっかりと学ぶこと。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英文簿記・会計	後期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	清村 英之	2年	・研究室：5627室 ・メール：hkiyomura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	企業活動・ビジネスに国境がないように、簿記・会計の世界でも徐々に国境がなくなりつつあります。国境がなくなった時、世界標準の貸借対照表や損益計算書は、当然ながら英語で作成されます。この講義では、「商業簿記Ⅰ」「同Ⅱ」で学んだ簿記一巡の手続を英語で行えるようになることを目指します。	英文簿記・会計に関する資格として、東京商工会議所主催の国際会計検定BATIC (Bookkeeping and Accounting Test for International Communication) があります。この講義はSubject1に対応しています。直前対策講座も実施する予定なので、是非、チャレンジしてください。
到達目標	① 商品売買取引、手形取引、資金調達取引などの諸取引を英語で仕訳（記録）できる。 ② 上記①の諸取引を英語でSpecialized journal（特殊仕訳帳）へ記帳し、Ledger（元帳）に転記できる。 ③ 決算を行い、Income statement（損益計算書）とBalance sheet（貸借対照表）を英語で作成できる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Guidance（ガイダンス）	—
	2	Basic Concepts of Bookkeeping and Accounting（簿記・会計の基礎概念）	講義内容の復習
	3	Transactions and Journal Entries（取引と仕訳）	同上
	4	Transactions and Journal Entries（取引と仕訳）	同上
	5	Journals and Ledgers（仕訳帳と元帳）	同上
	6	Journals and Ledgers（仕訳帳と元帳）	同上
	7	Trial Balance（試算表）	同上
8	Test①（中間テスト）	—	
9	Adjusting Entries（決算整理仕訳）	講義内容の復習	
10	Worksheet（精算表）	同上	
11	Closing Entries（帳簿の締切り）	同上	
12	Financial Statements（財務諸表）	同上	
13	Financial Statements（財務諸表）	同上	
14	Financial Statement Analysis（財務諸表分析）	同上	
15	Internal Control（内部統制）	同上	
16	Test②（期末テスト）	—	
テキスト・参考文献・資料など	・テキスト：清村英之『英文会計が基礎からわかる本』同文館出版，平成27年10月，2,200円＋税。 ・参考文献：講義中に紹介します。		
学びの手立て	履修上の注意事項／心構え： ・「商業簿記Ⅰ」を履修済みの学生（またはそれと同等の能力を持つ学生）しか登録できません。 ・例年、遅刻や欠席の多い学生は単位を修得できていません。遅刻・欠席をしないよう心がけてください。 学びを深めるために： ・映画、音楽、雑誌等、日常的に英語に触れる機会を作るといいでしょう。		
評価	・平常点……20点（講義中の取組みを評価します） ・テスト……80点（上記「到達目標」を評価します）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 国際会計検定BATICは、7月と11月に行われます。「メッセージ」にも書いたように、検定試験の前には直前対策講座を実施する予定です。是非、チャレンジを！
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	オフィス・マネジメント I	前期	木 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-及川 卓郎	2年	下記のE-mailで質問を受け付けます。tkroikawa@gmail.com	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>社会に出てからは、いろいろな場面で指導的な立場で人を引っ張っていくことが多くなると思います。その時、人に自分の主張を理解してもらうためには表現力、説得力が重要です。具体的には客観的な結果の導入とそのプレゼンテーションです。この講義では、エクセルを学ぶことでこの2点について基本的な技術を身に付けることができます。</p>	<p>エクセルの利用を主題にしている科目です。そのほか、場合によってはワードやパワーポイントも使います。</p>
到達目標	実社会で利用可能かエクセルによる分析能力、プレゼンテーション能力を身につけることを目標としています。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	授業ガイダンス	
2	エクセルの成り立ち		
3	エクセルの基本操作		
4	エクセルによる文字列操作		
5	エクセルによる関数計算		
6	エクセルがもつデータベース機能		
7	ケーススタディー 1		
8	中間試験		
9	ピボットテーブルの利用方法		
10	ケーススタディー 2		
11	ケーススタディーのまとめ		
12	関数の利用		
13	ケーススタディー 3		
14	グラフ機能の利用		
15	ケーススタディー 4		
16	期末試験		
実践	テキスト・参考文献・資料など プリントを配付して授業を行います。		
学びの手立て	できるだけ前の席にすわるようにしてください。前に座っている人の方が学習効果が高い結果が出ています。		
評価			

学びの継続	次のステージ・関連科目 本講義の内容は、経営情報処理 I と II で必要になります。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	オフィス・マネジメントⅡ	後期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-及川 卓郎	2年	下記のE-mailで質問を受け付けます。tkroikawa@gmail.com	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>社会に出てからは、いろいろな場面で指導的な立場で人を引っ張っていくことが多くなると思います。その時、人に自分の主張を理解してもらうためには表現力、説得力が重要です。具体的には客観的な結果の導入とそのプレゼンテーションです。この講義では、エクセルを学ぶことでこの2点について基本的な技術を身に付けることができます。</p>	<p>エクセルの利用を主題にしている科目です。そのほか、場合によってはワードやパワーポイントも使います。</p>
到達目標	実社会で利用可能かエクセルによる分析能力、プレゼンテーション能力を身につけることを目標としています。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	授業ガイダンス	
2	エクセルの成り立ち		
3	エクセルの基本操作		
4	エクセルによる文字列操作		
5	エクセルによる関数計算		
6	エクセルがもつデータベース機能		
7	ケーススタディー1		
8	中間試験		
9	ピボットテーブルの利用方法		
10	ケーススタディー2		
11	ケーススタディーのまとめ		
12	関数の利用		
13	ケーススタディー3		
14	グラフ機能の利用		
15	ケーススタディー4		
16	期末試験		
実践	<p>テキスト・参考文献・資料など プリントを配付して授業を行います。</p>		
学びの手立て	<p>できるだけ前の席にすわるようにしてください。前に座っている人の方が学習効果が高い結果が出ています。</p>		
評価			

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目 本講義の内容は、経営情報処理ⅠとⅡで必要になります。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性 キャリア教育の一環として、会計監査の実務経験に基づく講義により、実践的な知識や経験を学びます。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	会計監査	前期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-友利 健太	3年	授業終了後に教室で受け付けます。 tomori@umuyasu-law.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この講義では、会計監査と、これを担う公認会計士とその仕事内容について、公認会計士である講師の実務経験を交えて解説します。メッセージに記載したツールとなるように、会計監査の特に「考え方」と「社会的な役割」を理解してもらいます。	学生みなさんが、将来社会人となって触れることとなる情報（特に財務情報）の信頼性がどのように担保されているのかを理解することは、さまざまな分野で活躍するうえで活用できるツールになると思います。

到達目標
①会計監査の「背景」、「内容」、「考え方」、「手法」、「社会的な役割」が理解できる。 ②公認会計士の「社会的な役割」と「仕事内容」が理解できる。 ③上記のことを、社会人となったときにどのように活用するかイメージできる。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	監査とは何か？	講義内容の復習
	2	監査はなぜ必要なのか？	同上
	3	監査の基礎概念「監査意見」	同上
	4	監査の基礎概念「重要な虚偽の表示」ほか	同上
	5	身の回りの監査「会社法監査」、「金融商品取引法監査」	同上
	6	広がる監査&公認会計士のニーズ	同上
	7	監査制度を支える要件	同上
	8	監査基準について	同上
	9	内部統制とは何か？	同上
	10	監査の手法「リスクアプローチ」とは何か？	同上
	11	監査計画	同上
	12	監査の実施（監査手続の基本とこれから）	同上
	13	同上	同上
	14	公認会計士とはどのような人？（試験内容、勉強方法を含む）	同上
15	監査報告書	同上	
16	期末テスト		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	<p>テキストとして以下の書籍を使用します。</p> <p>「監査論を学ぶ」</p> <p>著者：蟹江 章、高原 利栄子、藤岡 英治</p> <p>出版社：税務経理協会</p> <p>出版年：2009年8月（2017年1月に予定されている第2版が出版された場合はこれを使用します。）</p> <p>価格：1,800円（税抜）（第2版は1,900円（税抜）の予定）</p>

学びの実践	学びの手立て
	<p>①履修上の心構え</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「商業簿記Ⅰ」程度の簿記の知識があると望ましいですが、無くても受講できます。</li> <li>・遅刻、欠席をしないよう心がけてください。</li> </ul> <p>②学びを深めるために</p> <p>以下のことを並行して行うことで講義内容の理解が深まります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の興味のある会社や組織の「財務諸表」（決算書）を入手して、中身を見てみてください。</li> <li>・経済やビジネスに関する新聞記事・ニュースに目を向けてみてください。</li> </ul>

学びの実践	評価
	<p>平常点20%：講義中の取り組み・姿勢を評価します。</p> <p>テスト80%：上記「到達目標」を評価します。</p>

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<p>関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会計コースの諸科目</li> </ul>

※ポリシーとの関連性

企業の経営活動が、どのような理論・技法に基づいて写体化されるかをテーマに、理解力を深める学習を展開し、学士力を高める。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	会計学 I	前期	木 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-上江洲 由正	2年	uezu@tm.u-ryukyu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 企業の経営活動は体系的・組織的に貸借対照表や損益計算書などの財務諸表に写体化される。したがって、財務諸表は企業の姿が映し出された大変重要な情報である。本講義では、このような財務諸表の作成原理や技法を学び、情報から実態を的確に捉える洞察力・観察力および情報処理能力を涵養する。	メッセージ 本講義は暗記の学習ではなく理解の学習をねらいとしている。したがって、一方通行的な講義ではなく、ケース・スタディーを取り入れ、質問に答えてもらいながらの講義展開という双方向的な授業を行う。
	到達目標 財務諸表から企業の収益力や財務内容などを的確に把握できるようになり、対企業との関係において適切な意思決定を下せるようになる。また、本講義で学んだ学習内容は地方自治体・NPOなどの非営利組織にも応用できるので、非営利組織の実態もかなりの確に把握できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	会計とは何か、会計学とは何か。	テキスト第1章を読んでおくこと
	2	会計基準と一般原則（その1）	講義内容の復習
	3	一般原則（その2）	講義内容の復習
	4	一般原則（その3）	講義内容の復習
	5	資産の意義と評価	講義内容の復習
	6	当座資産	関連する簿記問題を解いておくこと
	7	棚卸資産（その1）	関連する簿記問題を解いておくこと
	8	棚卸資産（その2）	関連する簿記問題を解いておくこと
	9	中間テスト	
	10	固定資産会計（その1）	関連する簿記問題を解いておくこと
	11	固定資産会計（その2）	関連する簿記問題を解いておくこと
	12	繰延資産会計	関連する簿記問題を解いておくこと
	13	負債会計（その1）	関連する簿記問題を解いておくこと
	14	負債会計（その2）	関連する簿記問題を解いておくこと
	15	純資産会計	関連する簿記問題を解いておくこと
	16	期末テスト	
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：『財務会計の基礎理論と展開』上江洲由正、大城建夫編著、同文館		
	学びの手立て 簿記の基礎知識が必要となります。毎回の授業は理論と計算を融合したケース・スタディーを中心としたものとなるため、欠席するとその授業内容を全く理解していないものとなるので、遅刻することなく毎回出席するという心構えが求められる。また、理論問題・計算問題は解くにあたっては授業中や休み時間に積極的に質問したり、クラスメートとディスカッションするということを推奨する。		
	評価 成績の評価は中間テスト40%、期末テスト40%、受講態度20%で行う。講義内容の理解度を理論および計算の両面から評価するため、中間テスト、期末テストとも理論問題および計算問題を中心とした出題となる。受講態度はテキストを持参し、まじめに受講しているかどうかを中心に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 会計学 I の発展的学習として上位科目である財務会計 I の履修を推奨する。
-------	---

※ポリシーとの関連性 企業の経営活動が、どのような理論・技法に基づいて写体化されるかをテーマに、理解力を深める学習を展開し、学士力を高める。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	会計学Ⅱ	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-上江洲 由正	2年	uezu@tm.u-ryukyu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 企業の経営活動は体系的・組織的に貸借対照表、損益計算書およびキャッシュ・フロー計算書などの財務諸表に写体化される。したがって、財務諸表は企業の姿が映し出された大変重要な情報である。本講義では、このような財務諸表の作成原理や技法を学び、情報から実態を的確に捉える洞察力・観察力および情報処理能力を涵養する。	メッセージ 本講義は暗記の学習ではなく理解の学習をねらいとしている。したがって、一方通行的な講義ではなく、ケース・スタディーを取り入れ、質問に答えてもらいながらの講義展開という双方向的な授業を行う。
	到達目標 財務諸表から企業の収益力や財務内容などを的確に把握できるようになり、対企業との関係において適切な意思決定を下せるようになる。また、本講義で学んだ学習内容は地方自治体・NPOなどの非営利組織にも応用できるので、非営利組織の実態もかなりの確に把握できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	損益会計（その1）	関連する簿記問題を解いておくこと
	2	損益会計（その2）	関連する簿記問題を解いておくこと
	3	損益会計（その3）	関連する簿記問題を解いておくこと
	4	財務諸表の作成（その1）	会計学Ⅰを復習しておくこと
	5	財務諸表の作成（その2）	損益会計を復習しておくこと
	6	連結会計（その1）	講義内容を復習しておくこと
	7	連結会計（その2）	講義内容を復習しておくこと
	8	連結会計（その3）	講義内容を復習しておくこと
	9	中間テスト	
	10	金融商品会計（その1）	講義内容を復習しておくこと
	11	金融商品会計（その2）	講義内容を復習しておくこと
	12	外貨建取引会計（その1）	講義内容を復習しておくこと
	13	外貨建取引会計（その2）	講義内容を復習しておくこと
	14	外貨建取引会計（その3）	講義内容を復習しておくこと
	15	わが国の会計基準と国際会計基準	講義内容を復習しておくこと
	16	期末テスト	
	テキスト・参考文献・資料など	テキスト：『財務会計の基礎理論と展開』上江洲由正、大城建夫編著、同文館	
	学びの手立て	簿記の基礎知識が必要となります。毎回の授業は理論と計算を融合したケース・スタディーを中心としたものとなるため、欠席するとその授業内容を全く理解していないものとなるので、遅刻することなく毎回出席するという心構えが求められる。また、理論問題・計算問題は解くにあたっては授業中や休み時間に積極的に質問したり、クラスメートとディスカッションするということを推奨する。	
	評価	成績の評価は中間テスト40%、期末テスト40%、受講態度20%で行う。講義内容の理解度を理論および計算の両面から評価するため、中間テスト、期末テストとも理論問題および計算問題を中心とした出題となる。受講態度はテキストを持参し、まじめに受講しているかどうかを中心に評価する。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 会計学Ⅱの発展的学習として上位科目である財務会計Ⅱおよび資金会計の履修を推奨する。
-------	--



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	外書講読 I	前期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	佐久本 朝一	2年		

学びの準備	ねらい ビジネスに関する英文の読解力を養成する。具体的には大学院進学のために経営に関する専門書を翻訳できる技術を学ぶことにある。	メッセージ
	到達目標	

学びの準備	到達目標
-------	------

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Management of Carlos Ghoson	
	2	Management of Jack Welch	
	3	Management of Bill Gates	
	4	Management of Robert Iger	
	5	Management of Nevill Isdell Predident of Coca-Cola company	
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
15			
16			

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
-------	----------------

学びの実践	学びの手立て
-------	--------

学びの実践	評価 各自が毎回出席し専門書を翻訳し、教員の翻訳を照合をするチェックを行う。
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	外書講読Ⅱ	後期	金1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	佐久本 朝一	2年		

学びの準備	ねらい ビジネスに関する専門書を翻訳する。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む) Japan Economic in Every life edited by James Mak
	テキスト・参考文献・資料など テキストは適時プリントして配布する。

学びの実践	学びの手立て
	評価 毎回、チェックするので予習をしていくことが必要である。

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	企業者史	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩橋 建治	2年	kiwahashi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 「ひと」としての企業者に注目し、そこから学ぶ。授業ではさまざまな企業者を取りあげる。	メッセージ 企業者の活動（経営戦略、経営管理、人材育成など）は、どのような時代的・社会的環境のもとで行われたのか。それにより彼らはいかにして社会を変えていったのか。さらに、困難におちいった彼らを支え続けてきた経営理念、あるいは夢や信念とは、何だったのか。主に以上の問いかけから学んでいく。
	到達目標 時代がひとをつくることと、ひとが時代をつくることを、中長期的な視野でとらえられること。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 主に以下の企業者について議論していく。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・鈴木敏文（セブン－イレブン・ジャパン）</li> <li>・松下幸之助（松下電器産業、現・パナソニック）</li> <li>・小倉昌男（ヤマト運輸）</li> <li>・カルロス・ゴーン（日産自動車）</li> <li>・稲盛和夫（京セラ・KDDI）</li> <li>・スティーブ・ジョブズ（アップル）</li> <li>・南場智子（DeNA）</li> <li>・安藤百福（日清食品）</li> <li>・本田宗一郎（本田技研工業）</li> <li>・孫正義（ソフトバンク）</li> <li>・山田昭男（未来工業）</li> </ul>
	テキスト・参考文献・資料など 適宜紹介する。
	学びの手立て この講義は受講生の意見や質問から展開していく。そのため常に考えることが必要とされる。
	評価 期末試験（80%）、中間レポート（20%）

学びの継続	次のステージ・関連科目 経営コースの各科目。
-------	---------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	企業の成長戦略と税務	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	堀江 徹、一藤 隆弘、大竹 明子、板橋 靖久、片岡 輝男、毛利 隆、金城 久美子	2年	070-2161-0745	

学びの準備	ねらい グローバルプロフェッショナルファームでの数多くの事例に基づき、日本企業のグローバル展開の動向と、税を中心とした経済の動向を学ぶ。BEPS、海外相続税等、グローバル展開する日系企業にとってホットなトピックスを織り交ぜながら、いかに税務が企業の成長戦略に貢献できるかを議論します。	メッセージ 会計、税務、プロフェッショナルファームの仕事の面白さをグローバル企業のビジネスと税務の観点からお伝えしたいと考えています。 ※受講対象：企業システム学科2年次以上
	到達目標 各税務領域について、日系企業がかかえる代表的な課題を理解したうえで、論理的にソリューションを想定できる。現在の日本経済やクロスボーダーなビジネス背景の中での税のあり方を理解した上で、常に変動する最先端の税の状況を理解する。プロフェッショナルファームの役割を理解する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	オリエンテーション
	2	グローバルマインドと国際間異動
	3	給与の仕組み
	4	所得税の仕組みと申告納税の基本
	5	暮らしの中の税①
	6	暮らしの中の税②
	7	外国人と税
	8	国際間人材交流と税
	9	決算書と税
	10	税とは
	11	法人税の仕組み
	12	法人税申告の基本
	13	相続税
	14	消費税
	15	プロフェッショナルファームでのキャリア
	16	
	テキスト・参考文献・資料など 各回の講義ごとに、講師から準備された資料が配布されます。また、この講義に関する参考書はありません。適宜指示します。	
	学びの手立て 授業は、講義と対話/ケーススタディ等の組み合わせで構成されます。感じたことをその場でオープンに発言していただくことを期待しています。	
	評価 レポート 【100%】・・・レポート課題（2回）に対する課題抽出、分析、提案の質	

学びの継続	次のステージ・関連科目 講義で学習した会計・事務に関わるビジネスソリューションに関わる知識を持ち、経営分析、財務会計、税務会計、戦略会計などへ学習を展開していきましょう。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習 I	前期	木 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	李 相典	2年	sangjeon1120@gmail.com または授業終了後	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	1. マーケティング理論に基づいた様々な事例(ケース)について、受講生が自らその事例(ケース)の意義や示唆を把握できるような能力を育成する。	マーケティング・コース科目の履修において、基礎演習 I は、事例(ケース)分析とその情報のまとめ方について学習します。マーケティングの分野で活躍するためには、事例(ケース)分析やそれに関する情報をまとめることが非常に重要なスキルとなります。本講義では、テキストの多様な事例を自分の情報にする方法を演習します。
到達目標	1. 様々なマーケティングデザインの事例(ケース)から、重要なポイントを見出すスキルを養成する。 2. プレゼンテーションに必要な基礎技術(ソフトウェアの操作方法など)について演習を通じて学習する。 3. グループワークのやり方について学習する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション、グループ分け	
	2	事例分析(ケーススタディ)のとは何か	
	3	事例分析(ケーススタディ)の枠組み I	
	4	事例分析(ケーススタディ)の枠組み II	
	5	事例分析(ケーススタディ)の枠組み III。グループ別、事例選択	グループ別討議
	6	事例分析(ケーススタディ)の報告の方式の演習 I	ソフトウェアの操作方法演習
	7	事例分析(ケーススタディ)の報告の方式の演習 II	同上
	8	事例分析(ケーススタディ)の報告の方式の演習 III	同上
	9	事例発表1。グループ1と2	グループ間ディスカッション
	10	事例発表2。グループ3と4	同上
	11	事例発表3。グループ5と6	同上
	12	事例発表4。グループ7と8	同上
	13	事例発表5。グループ9と10	同上
	14	事例発表6。グループ11と12	同上
15	事例発表7。グループ13と14	同上。個人レポート提出	
16	基礎演習 I のまとめ。		

実践	テキスト・参考文献・資料など
	1. テキスト：石井淳蔵・廣田章光・坂田隆文編著『1からのマーケティング・デザイン』碩学舎、2016年。 2. 参考文献：池尾恭一『マーケティング・ケーススタディ』碩学舎、2015年。 *テキストのほかに、適宜プリント資料を配布します。

学びの手立て	1. 遅刻や無断欠席は成績評価に積極的に反映しますので、ご注意ください。 (やむを得ず遅刻・欠席の場合、事前にメールで連絡してください) 2. テキストを熟読し、積極的に講義に参加してください。 3. グループの事例発表1回、そして他グループの発表についての個人の鑑賞レポート1回で評価します。
--------	--

評価	1. 出席・受講態度50%：5回以上の遅刻や無断欠席の場合は履修できません。授業中またはディスカッションへの積極的な参加には加点があります。 2. 発表とレポート50%：グループ発表30%。個別レポート20%。 [報告内容の水準と、グループ活動での参与・貢献などを総合的に評価します]
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：マーケティング・リサーチの内容で進める『基礎演習 II』を通じて、より多様なマーケティング調査・研究の方法を学習してください。 次のステージ：『市場調査総論』や『市場調査演習』のようなマーケティング分析方法について学習することも検討してみてください。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習 I	前期	水 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩橋 建治	2年	kiwahashi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業では、国内・国外の企業研究を中心に、経営学に関する予備知識を身につけます。その過程で、大学で学ぶための、さらには実社会の現場での実践に役立つ、さまざまな方法を習得します。	メッセージ 経営学は、ヒト（人材育成）・モノ（商品やサービス）・カネ（資金の流れ）・情報などの経営資源を、総合的にどう組み合わせれば、組織としてより効果的な働きをもたらすのかを考える学問です。
-------	--	---

到達目標	①テキストの輪読を通じて、問題と課題を見いだすためのトレーニングを行います。②討論を通じて、他者と共同して問題解決にあたるプロセスを学びます。
------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	はじめに： 班分けなど	
	2	グループワーク(1)： ビジネスアイデアの探求	
	3	グループワーク(2)： ビジネスプランの作成	
	4	グループワーク(3)： 業界研究	
	5	企業経営の全体像	
	6	経営学の全体像	
	7	企業とインプット（金融資本・労働）市場との関わり： パナソニック	
	8	企業とアウトプット（製品・サービス）市場との関わり： 富士フイルム	
	9	競争戦略のマネジメント(1)： ソフトバンク	
	10	競争戦略のマネジメント(2)： ドトールとスターバックス	
	11	多角化戦略のマネジメント： キヤノン	
	12	国際化のマネジメント： ホンダ	
	13	マクロ組織のマネジメント： 3M	
	14	ミクロ組織のマネジメント： 未来工業	
15	前期のまとめ		
16			

実践	テキスト・参考文献・資料など 加護野忠男・吉村典久 編著（2012）『1からの経営学 [第2版]』碩学舎（発売元：中央経済社）。
----	---

学びの手立て	討論では積極的な発言を求めます。積極的な発言は、みんなの理解を助けるだけでなく、発言者の表現力も高めます。
--------	---

評価	出席、演習への貢献度、および課題の完成度などにより総合的に評価します。なお、自分の班が報告班または討論班のときに正当な理由なく欠席した場合は、大きくペナルティーがつきます。
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 基礎演習Ⅱ、および経営コースの各科目。
-------	------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習 I	前期	火 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	清村 英之	2年	・研究室：5627室 ・メール：hkiyomura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	簿記の技能は、会計コースで様々な専門科目を履修するに当たって不可欠です。したがって、この演習では、第一に日商簿記検定試験2級取得を目指します。また、会計学の全容を明らかにし、それぞれの領域を紹介することによって会計学への興味を喚起する、つまり会計学への誘いが第二の目的です。	現時点では、「簿記=会計」と理解をしている皆さんが多いと思いますが、簿記だけが会計ではありません。もっと様々な分野の会計があります。この演習では、会計に興味を持った皆さんに、これらを紹介するとともに、今後、会計学を深く学んでいくための基礎を提供します。
到達目標	① リース取引や外貨建取引などの高度な諸取引、株式会社に固有の諸取引を仕訳（記録）できる。 ② 株式会社の損益計算書と貸借対照表を作成できる。 ③ 連結会計の必要性を理解し、連結財務諸表を作成できる。 ④ 会計学の各領域を理解し、説明できる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	—
	2	会計学の全体像	講義内容の復習
	3	会計学の全体像	同上
	4	会計の歴史	同上
	5	会計の歴史	同上
	6	日商簿記検定試験 6月試験に向けての学習	同上
	7	日商簿記検定試験 6月試験に向けての学習	同上
8	日商簿記検定試験 6月試験に向けての学習	同上	
9	財務諸表の作り方	同上	
10	財務諸表の作り方	同上	
11	財務諸表の読み方	同上	
12	財務諸表の読み方	同上	
13	財務諸表の読み方	同上	
14	損益分岐点分析	同上	
15	損益分岐点分析	同上	
16	まとめ	同上	
テキスト・参考文献・資料など	テキスト・参考文献・資料など ・テキスト：使用しません。プリントを配布します。 ・参考文献：講義中に紹介します。		
学びの手立て	履修上の注意事項／心構え： ・会計コースを選択した学生しか登録できません。 ・2年次になると大学生活にも慣れて、気が緩みがちです。遅刻・欠席のないよう心がけてください。 学びを深めるために： ・経済やビジネスに関する新聞記事・ニュースに興味を持ちましょう（新聞は図書館に各紙揃っています）。 会計の知識が付くにつれて、これらの記事・ニュースが理解できるようになります。		
評価	・平常点……20点（講義中の取組みを評価します） ・レポート……80点		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：工業簿記 I II（2年次）、会計学 I II（2年次）など、会計コースの諸科目
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅱ	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	李 相典	2年	sangjeon1120@gmail.com または授業終了後	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	1. マーケティング・リサーチについて学習し、受講生が自ら簡単な調査分析が実施できるように育成する。	マーケティングの研究ならびにマーケティングの実務において、マーケティング・リサーチの重要性はますます高まっています。したがって、将来マーケティングの分野で活躍する際に、マーケティング・リサーチのスキルは長所になると予想されます。本講義では、マーケティング・リサーチに関する基礎的な知識を学習し、実際のデータの収集と分析方法について演習します。

学びの準備	到達目標
	1. マーケティング・リサーチの基礎的な知識を学習する。 2. マーケティング・リサーチの基礎的な分析方法について学習する。 3. マーケティング・リサーチの報告書の作成方法について学習する。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション、グループ分け	
	2	マーケティング・リサーチの意義と重要性	
	3	マーケティング・リサーチ・デザイン	
	4	母集団と標本の意味、そして標本抽出法	
	5	尺度の意味と分類とアンケートの設計	課題①グループ・アンケート
	6	仮説検証の意味と手順	
	7	マーケティング・リサーチ報告書の作成方法	グループ・アンケート提出
	8	グループ・アンケート(リサーチ用アンケート)の口頭報告	グループ・アンケート内容の修正
	9	フィールドワークⅠ。グループ別アンケート調査実施	
	10	フィールドワークⅡ。グループ別アンケート調査データのコーディング	課題②グループ別報告書
	11	基礎統計分析Ⅰ。記述統計とクロス表	
	12	基礎統計分析Ⅱ。平均値の差の検定	
	13	基礎統計分析Ⅲ。相関関係分析と回帰分析	
	14	グループ別リサーチ報告発表Ⅰ	
15	グループ別リサーチ報告発表Ⅱ		
16	授業のまとめ		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	1. テキスト：使用しません。適宜にプリントを配布します。 2. 参考文献：①恩蔵直人・富田健司編著『1からのマーケティング分析』碩学会、2011年 ②岸学『SPSSによるやさしい統計学 第2版』オーム社、2012年

学びの実践	学びの手立て
	1. 遅刻や無断欠席は成績評価に積極的に反映しますので、ご注意ください。 (やむを得ず遅刻・欠席の場合、事前にメールで連絡してください) 2. 実際の分析方法など、自らの演習や復習が重要な授業です。積極的に講義に参加してください。

学びの実践	評価
	1. 出席・受講態度50%：5回以上の遅刻や無断欠席の場合は履修できません。授業中またはディスカッションへの積極的な参加には加点があります。 2. レポート50%：課題①20%。課題②30%。[リサーチ・テーマの面白さ、調査過程の適合性、報告内容の水準などを総合的に評価します]

学びの継続	次のステージ・関連科目
	関連科目：ブランド・マーケティングの面白さを感じられる『マーケティング演習』や観光ビジネスに関する『グローバル観光ビジネス』など、より多様なマーケティングの知識を学習してください。 次のステージ：『サービス・マーケティング』のような特別なマーケティング分野について学習することも検討してみてください。



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅱ	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩橋 建治	2年	kiwahashi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業では、国内・国外の企業研究を中心に、経営学に関する予備知識を身につけます。その過程で、大学で学ぶための、さらには実社会の現場での実践に役立つ、さまざまな方法を習得します。	メッセージ 経営学は、ヒト（人材育成）・モノ（商品やサービス）・カネ（資金の流れ）・情報などの経営資源を、総合的にどう組み合わせれば、組織としてより効果的な働きをもたらすのかを考える学問です。
	到達目標 ①資料収集とパワーポイント作成を通じて情報の取捨選択と要約の仕方を理解します。②報告を通じて「自分が伝えたいこと」を簡潔かつ的確に伝えるためのスキルを高めます。③討論を通じて他者と共同して問題解決にあたるプロセスを学びます。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	はじめに： 班分けなど	
	2	企業を起こす： 大学発ベンチャー	
	3	環境・戦略・組織： フォード、GM	
	4	企業の知識体系： シャープ	
	5	いかに競争するか： マクドナルド、モスバーガー	
	6	事業のリストラクチャリングと組織改革： GE	
	7	M&Aと外部資源の利用： ソニー	
	8	いかに国際化するか： ノキア	
	9	日本的生産システム： トヨタ	
	10	組織の革新と再生： 松下電器産業（現・パナソニック）	
	11	日本的経営と人事管理制度： ブラザー工業	
	12	消費者の変化に対応する事業システム： セブン-イレブン・ジャパン	
	13	ニーズの絞り込みによる市場創造： ライオン	
	14	ビジネスの倫理： 三菱ふそう	
	15	後期のまとめ	
	16		
	テキスト・参考文献・資料など 東北大学経営学グループ（2008）『ケースに学ぶ経営学 [新版]』有斐閣ブックス。		
	学びの手立て 積極的な発言を求めます。各班のパワーポイント報告では、ビジュアルに関する効果的手法や、聴き手に関心をもたせる話し方など、プレゼンテーションのスキルについても適宜指導していきます。		
	評価 出席、演習への貢献度、および課題の完成度などにより総合的に評価します。なお、自分の班が報告班または討論班のときに正当な理由なく欠席した場合は、大きくペナルティーがつきます。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習Ⅰ、および経営コースの各科目。
-------	------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅱ	後期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	清村 英之	2年	・研究室：5627室 ・メール：hkiyomura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	簿記の技能は、会計コースで様々な専門科目を履修するに当たって不可欠です。したがって、この演習では、第一に日商簿記検定試験2級取得を目指します。また、会計学の全容を明らかにし、それぞれの領域を紹介することによって会計学への興味を喚起する、つまり会計学への誘いが第二の目的です。	現時点では、「簿記=会計」と理解をしている皆さんが多いと思いますが、簿記だけが会計ではありません。もっと様々な分野の会計があります。この演習では、会計に興味を持った皆さんに、これらを紹介するとともに、今後、会計学を深く学んでいくための基礎を提供します。

到達目標
① リース取引や外貨建取引などの高度な諸取引、株式会社に固有の諸取引を仕訳（記録）できる。 ② 株式会社の損益計算書と貸借対照表を作成できる。 ③ 連結会計の必要性を理解し、連結財務諸表を作成できる。 ④ 会計学の各領域を理解し、説明できる。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	—
	2	貨幣の時間価値	講義内容の復習
	3	貨幣の時間価値	同上
	4	設備投資意思決定	同上
	5	設備投資意思決定	同上
	6	日商簿記検定試験11月試験に向けての学習	同上
	7	日商簿記検定試験11月試験に向けての学習	同上
	8	日商簿記検定試験11月試験に向けての学習	同上
	9	会計の国際化	同上
	10	会計の国際化	同上
	11	会計の国際化	同上
	12	キャッシュ・フロー計算書の作成	同上
	13	キャッシュ・フロー計算書の作成	同上
	14	会計監査	同上
15	会計監査	同上	
16	まとめ	同上	

実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：使用しません。プリントを配布します。 参考文献：講義中に紹介します。
----	--

学びの手立て	履修上の注意事項／心構え： ・会計コースを選択し、「基礎演習Ⅰ」を履修済みの学生しか登録できません。 ・2年次になると大学生活にも慣れて、気が緩みがちです。遅刻・欠席のないよう心がけてください。 学びを深めるために： ・経済やビジネスに関する新聞記事・ニュースに興味を持ちましょう（新聞は図書館に各紙揃っています）。 会計の知識が付くにつれて、これらの記事・ニュースが理解できるようになります。
--------	--

評価	・平常点……20点（講義中の取組みを評価します） ・レポート……80点
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：工業簿記ⅠⅡ（2年次）、会計学ⅠⅡ（2年次）など、会計コースの諸科目
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	業績管理会計	前期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	菅森 聡	3年		

学びの準備	ねらい 管理会計は経営管理を能率的に実施できるように、会計情報を提供することで、経営管理活動を支援します。本講義では管理会計の練習問題を解くことで、各種の管理会計技法の習得を目的とします。	メッセージ 管理会計は経営管理のための会計です。経営管理を行う経営者の立場を想像しながら受講するとよいでしょう。
	到達目標 ・マネジメントの会計である管理会計に関する知識を習得する。 ・管理会計技法を習得し、実際に計算できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	該当する章の予習と復習
	2	管理会計のフレームワーク I	
	3	原価概念 I	
	4	原価概念 II	
	5	標準原価計算 I	
	6	標準原価計算 II	
	7	標準原価計算 III	
	8	利益計画 I	
9	利益計画 II		
10	利益計画 III		
11	予算管理 I		
12	予算管理 II		
13	設備投資 I		
14	設備投資 II		
15	まとめ		
16	テスト		
	テキスト・参考文献・資料など 『管理会計入門ゼミナール』高栢真一編著、創成社、2012年		
	学びの手立て ・毎回、練習問題を解いてもらいますので計算機を持ってくるようにしてください。 ・小テストを2回行う予定ですのでしっかり復習するようにしてください。		
	評価 小テスト30%とテスト70%で評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目 工業簿記、原価計算
-------	----------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	グローバル観光ビジネス	後期	月 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	李 相典	2年	sangjeon1120@gmail.com または授業終了後	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代の観光産業を実質的に引っ張っていく様々な観光ビジネスの状況とその特徴に関して基礎的な知識を習得する。</li> <li>2. 世界の多様な観光目的地の環境と観光資源によって、観光ビジネスはどのような違いがあるのかを理解する。</li> </ol>	<p>本講義を履修する学生は、自分が興味を持っている世界の様々な観光地へ旅行に行くことを想像しながら、自分の旅行であったら嬉しい観光サービスについて考えてみてください。本講義は観光ビジネスが観光客に利便性と楽しさを伝えるための多様な活動について説明します。</p>

到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 多様で複雑になっている現在の観光ビジネスに関する基礎的な知識を習得する</li> <li>2. 世界の重要な観光目的地の観光ビジネスの特徴を学習する</li> <li>3. 観光分野で活躍できるような力を得ることを講義の目標とする。</li> </ol>
------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	観光資源の意味と種類	
	3	世界観光産業の流れとトレンド(観光産業の規模・最近トレンド)	
	4	観光ビジネスの概観と観光商品の構成・特徴	レポート①の課題
	5	観光ビジネスⅠ. 旅行業と航空業	
	6	観光ビジネスⅡ. ホテル・宿泊業	レポート①の提出
	7	観光ビジネスⅢ. テーマパーク業とリゾート業	
	8	観光ビジネスⅣ. 観光施設業とエンタテインメント業	
	9	観光マーケティング戦略Ⅰ. インバウンド・マーケティング	
	10	観光マーケティング戦略Ⅱ. MICE	
	11	観光マーケティング戦略Ⅲ. 観光ブランド	
	12	観光マーケティング戦略Ⅳ. ストーリーテリングと体験プログラム	レポート②の課題
	13	ケース研究Ⅰ. ヨーロッパの観光ビジネス	
	14	ケース研究Ⅱ. 米国地域の観光ビジネス	レポート②の提出
15	ケース研究Ⅲ. 日本とアジア地域の観光ビジネス		
16	期末テスト		

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. テキスト：基本的にテキストは使用しません。各講義の資料を事前にオンライン上でアップロードまたは授業で配布する。</li> </ol>
----	--

学びの手立て	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 遅刻や無断欠席は成績評価に積極的に反映しますので、ご注意ください。(やむを得ず遅刻・欠席の場合、事前にメールで連絡してください)</li> <li>2. レポートの作成の場合、情報のみの編集ではなく、集めた情報に基づいた自分の意見を提示することが重要である。</li> </ol>
--------	--

評価	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 出席・受講態度50%： *5回以上の遅刻や無断欠席の場合は履修できません。授業中またはディスカッションへの積極的な参加には加点があります。</li> <li>2. 期末テスト30%</li> <li>3. レポート①10%、レポート②10%</li> </ol>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：『消費者行動概論』科目の履修を通じて、観光客行動とを消費者行動との違いを勉強してみることも、いい勉強になると思います。</p> <p>次のステージ：『観光マーケティング』や『サービス・マーケティング』のような科目を履修すると、さらに観光ビジネスや観光マーケティングの面白さを感じられると思います。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	グローバル・マーケティング演習	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-董 宜嫻	2年	ptt801@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	授業プリントを自分で読んで内容を理解できる。県系企業の海外進出に興味を持ち、各事例の内容を大まかに理解できる。沖縄企業のブランド戦略を理解できる。	毎回、簡単なプリントを配布します。

到達目標	初歩的な国際ビジネスの実際を理解できる。現実の国際的なマーケティング活動について自分で調べ、レポートを作成できる。
------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	クラス予定やレポート・テーマの説明(県産品の国際マーケティング)	課題の報告手法を検討する
	2	講義・討論(沖縄特産品のルーツ)(国際観光都市化と沖縄物産革命の課題)	プリント読み&報告の準備
	3	講義・討論(ソフトパワーと沖縄物産&文化マーケティング戦略)	プリント読み&報告の準備
	4	講義・討論(沖縄ウェルネス・アイランドー健康美容産業のケース)	プリント読み&報告の準備
	5	講義・報告(差別化と沖縄自然派コスメのコンセプト)	プリント読み&報告の準備
	6	講義・報告(沖縄ブランドの確立ー黒糖・塩産業のケース)	プリント読み&報告の準備
	7	講義・報告(島おこしと地域ブランドのマーケティング戦略)	プリント読み&報告の準備
	8	講義・報告(沖縄スタイルのブランド化ー泡盛&オリオンビールのケース)	プリント読み&報告の準備
	9	講義・報告(沖縄スタイルのブランド化ーかりゆしウェア産業のケース)	プリント読み&報告の準備
	10	講義・報告(世界へのクリエイション発信と沖縄のフアッション文化戦略)	プリント読み&報告の準備
	11	講義・報告(沖縄伝統文化の復活戦略ー伝統工芸・建築資材業界のケース)	プリント読み&報告の準備
	12	講義・報告(沖縄料理・食材のマーケティング法ー差別化&地域ブランドのグローバル化)	プリント読み&報告の準備
	13	講義・報告(差別化と新しい商品の開発ー食品産業のケース)	レポートの作成
	14	講義・報告(訪沖外国人観光客の滞在中消費行動の分析)	レポートの作成
15	レポートの最終提出(県産品の国際マーケティング)	レポートの作成	
16	期末テスト		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 参考文献①宮城弘岩(2010)『沖縄物産の展開』ポーターインク
-------	---

学びの手立て	①テキスト指定しないので、必ず授業プリントを持参する。②レポート提出前に、関連する授業プリントを再確認しておくこと。③レポートは個別に行う(グループ報告は行わない)。④『グローバル・マーケティング総論』の受講を前提とせずに補足説明を加える。
--------	--

評価	レポート・期末テストと出席状況で総合的に評価する。レポート50点・期末テスト30点・平常点20点の割合で評価する。無断欠席が5回以上になると、期末テストの参加を認めない。平常点は出席・授業態度を確認する。
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目としては、「アジアビジネス事情」 次のステージ：授業で学んだ実践と知識は現実のビジネス世界に応用できる。マーケティング、沖縄の地域産業について、全般に知識を高められる。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	グローバル・マーケティング総論	前期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-董 宜嫻	2年	ptt801@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 入門的なマーケティングのテキストを自分で読んで内容を理解できる。現実の国際的なマーケティング活動に興味を持ち、全体像を一通り理解できる。	メッセージ 教科書と時事的な教材を併用し、プリントを配布します。各国で実際に行われているマーケティングの手法を写真等を用いて学習します。初学者も十分、理解できるように配慮します。
	到達目標 入門的なマーケティングの用語を自分で説明できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスをよく読むこと
	2	グローバル・マーケティング戦略の枠組み&グローバル経営の考え方	テキスト3章&参②1. 2章
	3	グローバルSTPの決定(進出国&当該国でのターゲット市場の決定)	テキスト6章&参①4章
	4	グローバル・マーケットとSTPの決定(進出国でのポジショニング戦略)	テキスト6章&参①2章4章
	5	外部環境分析(BOP 新興国中間層の市場)	テキスト5章&参考①2章5章
	6	グローバル市場参入戦略&折衷理論	テキスト7章&参考①1章5章
	7	マーケティング理論の説明(グローバル活動の配置と調整)	テキスト8章&参考②7章
	8	経営理論の説明(グローバル・マーケティングの組織)	テキスト9章&参②4章
	9	経営理論の説明(多国籍企業の経営志向&本社一海外子会社関係)	参②2章5章
	10	グローバル・マーケティング戦略1(グローバル企業のナレッジ・マネジメント)	参②7章12章9章
	11	グローバル・マーケティング戦略2(多国籍企業製品開発の類型)	藤澤7章
	12	グローバル・マーケティング戦略3(消費者のブランド選択&企業のブランド戦略)	参①2章3章4章
	13	グローバル・マーケティング・プランの設定1(グローバル製品の選定・グローバル価格競争)	テキスト5章&参①2章3章
	14	グローバル・マーケティング・プランの設定2(4Pの流通&販売促進)	参②7章
15	ビューティー・ビジネスのグローバル化(花王と資生堂のケース)	参②9章	
16	テスト		
	テキスト・参考文献・資料など テキスト①丸谷雄一郎(2010)『グローバル・マーケティング』創成社。参考文献①相原修等(2009)『グローバル・マーケティング・入門』日本経済新聞社②浅川和宏(2003)『グローバル経営入門』日本経済新聞社		
	学びの手立て ①テキストを購入しない人は必ず授業プリントを毎回持参する。②自力でテキストを理解するのは難しいので、毎回出席することが肝要である。		
	評価 期末テストと出席・質問状況で総合的に評価する。期末テスト70点・平常点30点の割合で評価する。無断欠席が5回以上になると、期末テストの参加を認めない。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目としては、「アジアビジネス事情」、「グローバル・マーケティング演習」がある。次のステージ：授業で学んだ知識と理論は現実のビジネス世界に応用できる。マーケティング、経営学について、全般に知識が高められる。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経営管理論 I	前期	水 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	天野 敦央	2年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	年間テーマを「経営計画と経営統制」とする。本科目は、通年科目（全年科目）合計4.00単位に相当する。経営管理は①生産管理、②労務管理、③販売管理、④財務管理、および⑤経営組織の、各部に分かち把握せられる。前期は、このなかでも、①生産管理と②労務管理の部分に、おおくの時間をさいて論じていく。（なお各学期の初回講義(4,9月)には必ず出席し、登録手続を行なってください）	
到達目標		

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>授業の展開計画 なお、本講義においては、ビデオやチャートなどの教材を多用するなどして学生諸君が興味をもって研究にとりくめるような運用をめざしていきたい。</p> <p>講義の展開計画</p> <p>回数 内容</p> <p>1回 講義のすすめ方、評価のしかた</p> <p>2回 経営概念</p> <p>3回 企業概念</p> <p>4回 経営職能</p> <p>5回 テーラー＝システム</p> <p>6回 フォード＝システム</p> <p>7回 オートメーション</p> <p>8回 労働科学</p> <p>9回 人間関係論</p> <p>10回 行動科学</p> <p>11回 テーラー式組織</p> <p>12回 伝統的組織論</p> <p>13回 自生組織と成分組織</p> <p>14回 まとめ講義</p> <p>15回 講評</p> <p>16回 (予備日)</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>(テキスト) 未定</p> <p>(参考文献) 小松『経営学』サイエンス社／占部都美『新訂経営管理論』白桃書房／藻利重隆『経営管理総論』千倉書房。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>遅刻・私語は控えてもらいたい。定期試験は今のところ予定していないが、講義中1～3回程度のショートの実施を計画している。実施日時などは開講時に指示するので、準備不足・受験忘れ等なきよう注意されたい。</p>
	<p>評価</p> <p>概ね次の通りとする。</p> <p>出席点が15%、平常点(発言・質問・課題・ショートテストの達成度)が 85%。</p>

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経営管理論Ⅱ	後期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	天野 敦央	2年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	年間テーマを「経営計画と経営統制」とする。本科目は、通年科目（全年科目）合計4.00単位に相当する。経営管理は①生産管理、②労務管理、③販売管理、④財務管理、および⑤経営組織の、各部に分かち把握せられる。前期は、このなかでも、①生産管理と②労務管理の部分に、おおくの時間をさいて論じていく。（なお各学期の初回講義(4,9月)には必ず出席し、登録手続を行なってください）	
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント																																		
	<p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>なお、本講義においては、ビデオやチャートなどの教材を多用するなどして、学生諸君が興味をもって研究にとりくめるような運用をめざしていきたい。</p> <p>講義の展開計画</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>16</td><td>経営戦略概論</td></tr> <tr><td>17</td><td>戦略的組織</td></tr> <tr><td>18</td><td>企業成長</td></tr> <tr><td>19</td><td>生存領域の規定（1）</td></tr> <tr><td>20</td><td>生存領域の規定（2）</td></tr> <tr><td>21</td><td>生存領域の規定（3）</td></tr> <tr><td>22</td><td>資源展開の戦略（1）</td></tr> <tr><td>23</td><td>資源展開の戦略（2）</td></tr> <tr><td>24</td><td>競争の戦略（1）</td></tr> <tr><td>25</td><td>競争の戦略（2）</td></tr> <tr><td>26</td><td>競争の戦略（3）</td></tr> <tr><td>27</td><td>組織間関係の戦略（1）</td></tr> <tr><td>28</td><td>組織間関係の戦略（2）</td></tr> <tr><td>29</td><td>教材学習（1）</td></tr> <tr><td>30</td><td>教材学習（2）・ショートテスト</td></tr> <tr><td>31</td><td>[予備日]</td></tr> </tbody> </table>	回数	内容	16	経営戦略概論	17	戦略的組織	18	企業成長	19	生存領域の規定（1）	20	生存領域の規定（2）	21	生存領域の規定（3）	22	資源展開の戦略（1）	23	資源展開の戦略（2）	24	競争の戦略（1）	25	競争の戦略（2）	26	競争の戦略（3）	27	組織間関係の戦略（1）	28	組織間関係の戦略（2）	29	教材学習（1）	30	教材学習（2）・ショートテスト	31	[予備日]
	回数	内容																																	
	16	経営戦略概論																																	
17	戦略的組織																																		
18	企業成長																																		
19	生存領域の規定（1）																																		
20	生存領域の規定（2）																																		
21	生存領域の規定（3）																																		
22	資源展開の戦略（1）																																		
23	資源展開の戦略（2）																																		
24	競争の戦略（1）																																		
25	競争の戦略（2）																																		
26	競争の戦略（3）																																		
27	組織間関係の戦略（1）																																		
28	組織間関係の戦略（2）																																		
29	教材学習（1）																																		
30	教材学習（2）・ショートテスト																																		
31	[予備日]																																		
テキスト・参考文献・資料など																																			
<p>（テキスト）未定</p> <p>（参考文献）小松『経営学』サイエンス社／占部都美『新訂経営管理論』白桃書房／藻利重隆『経営管理総論』千倉書房。</p>																																			
<p>学びの手立て</p> <p>遅刻・私語は控えてもらいたい。定期試験は今のところ予定していないが、講義中1～3回程度のショートテストの実施を計画している。実施日時などは開講時に指示するので、準備不足・受験忘れ等なきよう注意されたい。</p>																																			
<p>評価</p> <p>概ね次の通りとする。</p> <p>出席点が15%、平常点(発言・質問・課題・ショートテストの達成度)が85%。</p>																																			

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経営学総論 I	前期	月 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	佐久本 朝一	1年		

学びの準備	ねらい 経営学に関する基礎的な知識を学ぶ	メッセージ
	到達目標	

学びの準備	
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む) 日本人の集団意識と行動特性 2 日本的経営と経営理念 1 日本的経営と経営理念 2 日本型組織におけるコミュニケーション 1 日本型組織におけるコミュニケーション 2 日本的経営の普遍性と特殊性 1 日本的経営の普遍性と特殊性 2 日本的経営の問題点 1 日本的経営の問題点 2
	テキスト・参考文献・資料など 佐久本朝一著『能力主義管理の国際比較』東京都図書出版会, 2010.

学びの実践	
-------	--

学びの実践	学びの手立て
-------	--------

学びの実践	評価
-------	----

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経営学総論 I	前期	月 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	天野 敦央	1年		

学びの準備	ねらい 企業は、これまで生成、発展の過程をたどり、今日では社会に多大な影響を及ぼしている。経営学は、そうした企業の歩み（経営活動）について学ぶ学問である。なお本講義は抽選科目である。各学期の初回講義(4,9月)では面談のうえ、受講許可者(抽選結果)を発表するので必ず出席されたい。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>講義の展開計画 回数 内容</p> <p>1回 経営学という学問 2回 イギリスにおける企業の発展 3回 アメリカにおける企業の発展 4回 日本における企業の発展 5回 科学的管理法 6回 フォードシステム 7回 人間関係論 8回 意思決定論 9回 動機付け理論 10回 欲求5段階説 11回 単位組織と複合組織 12回 経営組織の基本形態 13回 経営組織の階層と機能 14回 経営組織の応用形態 15回 教材学習</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>(テキスト) 適宜紹介する。 (参考文献) 佐久間『経営学概論』創成社。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>遅刻・私語は控えてもらいたい。定期試験は今のところ予定していないが、講義中1～3回程度のショートの実施を計画している。実施日時などは開講時に指示するので、準備不足・受験忘れ等なきよう注意されたい。</p>
	<p>評価</p> <p>概ね次の通りとする。 出席点が15%、平常点(発言・質問・課題・ショートテストの達成度)が 85%。</p>

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経営学総論Ⅱ	後期	月1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	佐久本 朝一	1年		

学びの準備	ねらい 日本の経営(日本的経営)がどのようなものであるのかを理解するために、前期は日本の経営システムの実態析を行う。特に日本企業の文化や経営理念などの観点から、日本の企業者活動について述べ、日本的経営が成立する条件とは何であるのかについて、先行研究やケーススタディから理解していく。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画(テーマ・時間外学習の内容含む) オリエンテーション(本講義の概要・授業の進め方・成績評価・その他) 日本型雇用システムの特質 日本的経営の編成原理1 日本的経営の編成原理2 日本人の集団意識と行動特性1 日本人の集団意識と行動特性2 日本的経営と経営理念1 日本的経営と経営理念2 日本型組織におけるコミュニケーション1 日本型組織におけるコミュニケーション2 日本的経営の普遍性と特殊性1 日本的経営の普遍性と特殊性2 日本的経営の問題点1 日本的経営の問題点2 まとめ・その他
	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経営学総論Ⅱ	後期	月1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	天野 敦央	1年		

学びの準備	ねらい 企業は、これまで生成、発展の過程をたどり、今日では社会に多大な影響を及ぼしている。経営学は、そうした企業の営み（経営活動）について学ぶ学問である。なお本講義は抽選科目である。各学期の初回講義(4,9月)では面談のうえ、受講許可者(抽選結果)を発表するので必ず出席されたい。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>講義の展開は、つぎのとおり予定している。</p> <p>回数 内容</p> <p>16 環境の変化と経営戦略</p> <p>17 多角化戦略</p> <p>18 競争戦略</p> <p>19 グローバル戦略</p> <p>20 アメリカにおける経営者の形成</p> <p>21 日本における経営者の形成</p> <p>22 所有と経営の分離</p> <p>23 経営者の職能</p> <p>24 コーポレート・ガバナンス理論</p> <p>25 アメリカのコーポレート・ガバナンス</p> <p>26 日本のコーポレート・ガバナンス</p> <p>27 アメリカの経営理念</p> <p>28 日本の経営理念</p> <p>29 日本の経営課題</p> <p>30 日本の経営課題(2)・ショートテスト</p> <p>31 [予備日]</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>(テキスト) 適宜紹介する。</p> <p>(参考文献) 佐久間『経営学概論』創成社。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>遅刻・私語は控えてもらいたい。定期試験は今のところ予定していないが、講義中1～3回程度のショートテストの実施を計画している。実施日時などは開講時に指示するので、準備不足・受験忘れ等なきよう注意されたい。</p>
	<p>評価</p> <p>概ね次の通りとする。</p> <p>出席点が15%、平常点(発言・質問・課題・ショートテストの達成度)が85%。</p>

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経営学特別講義	集中		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-吉田 洋	2年	質問は、開講時に受付ける。	

学びの準備	ねらい 本年度の特別講義は、講義テーマを「情報経営論」とする。	メッセージ 「みなさん、情報経営論（情報システム監査）を、たのしく学習していきましょう。」（吉田）
	到達目標 事例研究などを通じて、システム監査の計画と実践方法が、具体的に理解できるようにする。	

学びの準備	到達目標 事例研究などを通じて、システム監査の計画と実践方法が、具体的に理解できるようにする。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	情報システム経営とシステム監査
	2	監査の種類と監査人、システム監査の歴史
	3	企業改革法、コーポレートガバナンス、システム監査、管理基準
	4	企業改革法、コーポレートガバナンス、システム監査、管理基準（2）
	5	システム監査関連基準・関連法規
	6	内部統制概念、情報システムの内部統制
	7	リスク・アセスメント、ITガバナンス、COBITフレームワーク
	8	リスク・アセスメント、ITガバナンス、COBITフレームワーク（2）
	9	システム監査の実施体制
	10	システム監査の導入、計画、実施
	11	事例研究1、情報システム運営、アプリケーションシステムとそれらの監査
	12	事例研究1、情報システム運営、アプリケーションシステムとそれらの監査（2）
	13	事例研究2、情報セキュリティとその監査
	14	まとめ
	15	講評
16	(8/26[土]を予定。これは緊急[台風休校などの]時に限り実施。)	
	時間外学習の内容 (開講時に、適宜指示する。)	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など ・テキスト 堀江正之『ITのリスク統制監査（監査研究会リサーチシリーズ）』同文館、¥3240。 ・参考書 吉田洋『情報システム監査』税務経理協会、アイテック編『システム監査予想問題集』アイテック、監査人協会『ここから始めるIT監査』同文館出版。
-------	---

学びの実践	学びの手立て 遅刻・私語は控えてもらいた。定期試験は今のところ予定していないが、講義中1～3回程度のショートテストの実施を計画している。実施日時などは開講時に指示するので、準備不足・受験忘れ等なきよう注意されたい。集中講義であるので、追試験再試験などは実施しない。
-------	---

学びの実践	評価 概ね次の通りとする。出席点が15%、平常点（発言・質問・課題・ショートテストの達成度）が85%。
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経営情報処理 I	前期	木 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-及川 卓郎	2年	Email:tkroikawa@gmail.com	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この授業では皆さんが、卒業し企業に勤めた場合に必要になってくる品質管理(QC)の基礎的手法について身につけることおよびこの品質管理手法を発展させた統計的品質管理手法(TQC)について理解することを目的に講義と演習で進めていきます。なお、統計的品質管理は、統計的な分析により作業工程や生産システムの見直しを通して、品質の向上を図る手法のことであります。	多くの人に調査や分析の結果を納得してもらうためには、結果を客観的に説明する必要があります。この客観的分析に威力を発揮するのが、数理的な処理であり、グラフ表現を使った結果の視覚化です。これにより、だれでも同じ判断ができることとなります。この授業で経営分析の基礎的手法を身につけましょう。
到達目標	エクセルを使った分析を通じて、エクセルによる数値処理、データ変換、並べ替え、項目抽出、グラフ化、ピボットテーブル、関数計算、分析ツールを使えるようになる。QCに関する基本的手法、7つの手法について分析、作成をできるようにする。統計的な指標を読み取ることができるようになる。TQCの基礎となる統計手法について分析できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント	授業計画	
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	エクセルの基礎	配布資料に基づく復習と予習
	3	エクセルによる文字列処理	配布資料に基づく復習と予習
	4	エクセルによる数値処理	配布資料に基づく復習と予習
	5	度数分布表の作成	演習問題の実施
	6	ヒストグラムの作成	演習問題の実施
	7	QC 7つ道具による分析	これまでの学習内容の復習
	8	中間テスト	
9	中心極限定理と正規分布	資料にもとづく演習の実施	
10	正規分布の利用	学習内容の復習	
11	記述統計	自分のパソコンを使った復習	
12	回帰分析と相関分析	自分のパソコンを使った復習	
13	エクセルによる有意差検定	自分のパソコンを使った復習	
14	初歩的な分散分析の利用	これまでの学習内容の復習	
15	テスト		
16			
学びの実践	テキスト・参考文献・資料など	配布資料で学習します。適宜、授業中に参考文献は紹介します。	
学びの手立て	これまでの担当経験から、教室の前の席に座る人と後ろの席に座る人では学習成果に違いがありますことがわかります。ひとり残らず前の席から座るようにしましょう。		
評価	中間試験40%、期末試験40%、平常点20%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 調査研究授業や卒業論文を通じて、学習内容を自分で利用することにより、身に付けることを望みます。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経営情報処理Ⅱ	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-及川 卓郎	2年	Email:tkroikawa@gmail.com	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この授業では皆さんが、卒業し企業に勤めた場合に必要になってくる品質管理(QC)の基礎的手法について身につけることおよびこの品質管理手法を発展させた統計的品質管理手法(TQC)について理解することを目的に講義と演習で進めていきます。なお、統計的品質管理は、統計的な分析により作業工程や生産システムの見直しを通して、品質の向上を図る手法のことであります。	多くの人に調査や分析の結果を納得してもらうためには、結果を客観的に説明する必要があります。この客観的分析に威力を発揮するのが、数理的な処理であり、グラフ表現を使った結果の視覚化です。これにより、だれでも同じ判断ができることとなります。この授業で経営分析の基礎的手法を身につけましょう。
到達目標	エクセルを使った分析を通じて、エクセルによる数値処理、データ変換、並べ替え、項目抽出、グラフ化、ピボットテーブル、関数計算、分析ツールを使えるようになる。QCに関する基本的手法、7つの手法について分析、作成をできるようにする。統計的な指標を読み取ることができるようになる。TQCの基礎となる統計手法について分析できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	エクセルの基礎	配布資料に基づく復習と予習
	3	エクセルによる文字列処理	配布資料に基づく復習と予習
	4	エクセルによる数値処理	配布資料に基づく復習と予習
	5	度数分布表の作成	演習問題の実施
	6	ヒストグラムの作成	演習問題の実施
	7	QC7つ道具による分析	これまでの学習内容の復習
	8	中間テスト	
9	中心極限定理と正規分布	資料にもとづく演習の実施	
10	正規分布の利用	学習内容の復習	
11	記述統計	自分のパソコンを使った復習	
12	回帰分析と相関分析	自分のパソコンを使った復習	
13	エクセルによる有意差検定	自分のパソコンを使った復習	
14	初歩的な分散分析の利用	これまでの学習内容の復習	
15	テスト		
16			
学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 配布資料で学習します。適宜、授業中に参考文献は紹介します。		
学びの手立て	これまでの担当経験から、教室の前の席に座る人と後ろの席に座る人では学習成果に違いがありますことがわかります。ひとり残らず前の席から座るようにしましょう。		
評価	中間試験40%、期末試験40%、平常点20%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 調査研究授業や卒業論文を通じて、学習内容を自分で利用することにより、身に付けることを望みます。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経営数学	後期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	仲地 健	2年		

学びの準備	ねらい Excelを用いて、線形計画法、日程計画、在庫管理および待ち行列について学ぶ。	メッセージ 現代の企業経営においては、経営上の意思決定を下すために、大量な情報の処理が必要とされている。このような情報の処理をおこなうには、統計的および数学的な分析の考え方と方法を学ばなければならない。そのためのひとつの手法が経営数学である。
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	
	2	線形計画法	
	3	線形計画法	
	4	線形計画法	
	5	線形計画法	
	6	日程計画	
	7	日程計画	
	8	日程計画	
	9	日程計画	
	10	在庫管理	
	11	在庫管理	
	12	在庫管理	
	13	待ち行列	
	14	待ち行列	
	15	待ち行列	
	16	期末試験	
	テキスト・参考文献・資料など 適宜指定する。		
	学びの手立て		
	評価 試験結果で判断する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経営戦略論	前期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-與那原 建	3年	yonahara@tm.u-ryukyu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 競争優位につながる経営戦略はいかなる内容をもつかを明らかにする	メッセージ 経営戦略というテーマに関心を持ち、真剣に講義に取り組める学生を歓迎します
	到達目標 ①経営戦略にかかわるテーマに対して、自分自身の意見や考え方を論ずることができる ②経営戦略の解明に必要な情報を収集・活用することができる ③経営戦略の考え方や思考方法を通じて経営現象をとらえることができる	

学びの準備	ねらい 競争優位につながる経営戦略はいかなる内容をもつかを明らかにする	メッセージ 経営戦略というテーマに関心を持ち、真剣に講義に取り組める学生を歓迎します
	到達目標 ①経営戦略にかかわるテーマに対して、自分自身の意見や考え方を論ずることができる ②経営戦略の解明に必要な情報を収集・活用することができる ③経営戦略の考え方や思考方法を通じて経営現象をとらえることができる	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション - 本講義の概要説明	
	2	経営戦略とは何か	事後学習と疑問等の確認
	3	経営戦略の決定と不確実性	事後学習と疑問等の確認
	4	経営戦略と経営資源	事後学習と疑問等の確認
	5	経営戦略のレベル - 全社レベルの戦略（企業戦略）	事後学習と疑問等の確認
	6	経営戦略のレベル - 事業レベルの戦略（競争戦略）	事後学習と疑問等の確認
	7	まとめ①	
	8	ドメインの定義 - 望ましいドメインの条件	事後学習と疑問等の確認
	9	経営資源の展開 - 資源の獲得・蓄積	事後学習と疑問等の確認
	10	経営資源の配分 - PPM	事後学習と疑問等の確認
	11	業界構造分析 - ファイブ・フォース・モデル	事後学習と疑問等の確認
	12	業界構造の事例分析	事後学習と疑問等の確認
	13	競争戦略の基本型とトレードオフ - 戦略グループと移動障壁	事後学習と疑問等の確認
	14	ビジネスシステムの構築と持続的競争優位	事後学習と疑問等の確認
	15	ビジネスシステムの事例分析	事後学習と疑問等の確認
16	まとめ②		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは使用せず、適宜プリントを配付する。参考文献・資料については、講義の中で紹介していく。
-------	---

学びの実践	学びの手立て 事後学習（復習）をしっかりと行い、学んだ内容を整理するとともに、疑問等があれば積極的に質問すること。
-------	--

学びの実践	評価 クラスへの貢献度（到達目標①）、小レポート（到達目標②、③）、学期末試験（到達目標①、②、③）で評価する。
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経営分析	前期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	清村 英之	3年	・研究室：5627室 ・メール：hkiyomura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この講義では、会社が公表する会計データの集め方と、その利用の仕方を解説します。具体的には、実際にインターネット等を通じて入手した実際の会社情報（会計データ）を、様々な分析手法を用いて計算し、それを解釈することによって、会計データの使い方を修得します。	イメージだけで会社を判断すると、「就職先、失敗だった」「取引先に裏切られた」「株式投資で大損した」など、痛い目に遭うことが多々あります。そうならないためには、会社の本当の姿を知らなければなりません。そのために必要なツールが経営分析です。

到達目標
① 会社が公表する会社情報（会計データ）を入手できる。 ② 上記①で入手した会計データを様々な分析手法を用いて計算できる。 ③ 上記②で計算した結果を解釈し、会社の成長性、収益性、効率性、安全性等を評価できる。

学びの実践	学びのヒント																																																			
	授業計画																																																			
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>テーマ</th> <th>時間外学習の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>ガイダンス</td><td>—</td></tr> <tr><td>2</td><td>経営分析の意義</td><td>講義内容の復習</td></tr> <tr><td>3</td><td>会計情報（会計データ）の集め方</td><td>同上</td></tr> <tr><td>4</td><td>貸借対照表の見方</td><td>同上</td></tr> <tr><td>5</td><td>損益計算書の見方</td><td>同上</td></tr> <tr><td>6</td><td>キャッシュ・フロー計算書の見方</td><td>同上</td></tr> <tr><td>7</td><td>会社の全体像をつかむ</td><td>同上</td></tr> <tr><td>8</td><td>中間テスト</td><td>—</td></tr> <tr><td>9</td><td>会社の成長性をつかむ</td><td>同上</td></tr> <tr><td>10</td><td>会社の収益力をはかる</td><td>同上</td></tr> <tr><td>11</td><td>安全な会社の見分け方</td><td>同上</td></tr> <tr><td>12</td><td>会社の資金運用力を見る</td><td>同上</td></tr> <tr><td>13</td><td>損益分岐点を計算する</td><td>同上</td></tr> <tr><td>14</td><td>会社を総合的に評価する</td><td>同上</td></tr> <tr><td>15</td><td>分析をする際の留意点</td><td>同上</td></tr> <tr><td>16</td><td>期末テスト</td><td>—</td></tr> </tbody> </table>	回	テーマ	時間外学習の内容	1	ガイダンス	—	2	経営分析の意義	講義内容の復習	3	会計情報（会計データ）の集め方	同上	4	貸借対照表の見方	同上	5	損益計算書の見方	同上	6	キャッシュ・フロー計算書の見方	同上	7	会社の全体像をつかむ	同上	8	中間テスト	—	9	会社の成長性をつかむ	同上	10	会社の収益力をはかる	同上	11	安全な会社の見分け方	同上	12	会社の資金運用力を見る	同上	13	損益分岐点を計算する	同上	14	会社を総合的に評価する	同上	15	分析をする際の留意点	同上	16	期末テスト	—
	回	テーマ	時間外学習の内容																																																	
	1	ガイダンス	—																																																	
	2	経営分析の意義	講義内容の復習																																																	
	3	会計情報（会計データ）の集め方	同上																																																	
	4	貸借対照表の見方	同上																																																	
	5	損益計算書の見方	同上																																																	
	6	キャッシュ・フロー計算書の見方	同上																																																	
	7	会社の全体像をつかむ	同上																																																	
	8	中間テスト	—																																																	
	9	会社の成長性をつかむ	同上																																																	
	10	会社の収益力をはかる	同上																																																	
	11	安全な会社の見分け方	同上																																																	
	12	会社の資金運用力を見る	同上																																																	
	13	損益分岐点を計算する	同上																																																	
14	会社を総合的に評価する	同上																																																		
15	分析をする際の留意点	同上																																																		
16	期末テスト	—																																																		

テキスト・参考文献・資料など ・テキスト：使用しません。プリントを配布します。 ・参考文献：講義中に紹介します。
--

学びの手立て 履修上の注意事項／心構え： ・「商業簿記Ⅰ」「同Ⅱ」（8単位分）を履修済みの学生（またはそれと同等の能力を持つ学生）しか登録できません。 ・例年、遅刻や欠席の多い学生は単位を修得できていません。遅刻・欠席をしないよう心がけてください。 学びを深めるために： ・経済やビジネスに関する新聞記事・ニュースに興味を持ちましょう（新聞は図書館に各紙揃っています）。経営分析の知識が付くにつれて、これらの記事・ニュースが理解できるようになります。
--

評価 ・平常点……20点（講義中の取組みを評価します） ・テスト……80点（上記「到達目標」を評価します）
---

次のステージ・関連科目 関連科目：経営分析演習（3年次）、財務会計ⅠⅡ（3年次）など、会計コースの諸科目
---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経営分析演習	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	清村 英之	3年	・研究室：5627室 ・メール：hkiyomura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この講義では、前期の「経営分析」で学んだ会計データの集め方・利用の仕方を活かして、実際に経営分析を行います。具体的には、受講生各自が分析対象企業を選択し、インターネット等を通じて会社情報（会計データ）を入手し、様々な分析手法を用いて計算し、それを解釈し、レポートにまとめます。	2016年度はサンエー、イオン、セブン&HD、ファミマ、ローソン、ANA、JAL、江崎グリコ、明治HDなど、受講生各自がそれぞれ興味を持った企業を分析しました。分析結果を就活に活用する学生もいるようです。
到達目標	① 会社が公表する会社情報（会計データ）を入手できる。 ② 上記①で入手した会計データを様々な分析手法を用いて計算できる。 ③ 上記②で計算した結果を解釈し、会社の成長性、収益性、効率性、安全性等を評価できる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	—
	2	分析企業の選択	講義内容の復習
	3	会社情報（会計データ）の収集	同上
	4	会社の全体像をつかむ：①平均貸借対照表の作成	同上
	5	” ②平均損益計算書の作成	同上
	6	” ③平均キャッシュ・フロー計算書の作成	同上
	7	会社の成長性をつかむ：伸び率の計算	同上
	8	会社の収益力をはかる：①資本利益率の計算	同上
	9	” ②売上高利益率の計算	同上
	10	” ③資本回転率の計算	同上
	11	” ④損益分岐点の計算	同上
	12	安全な会社の見分け方：①短期的な安全性の分析	同上
	13	” ②長期的な安全性の分析	同上
14	会社の資金運用力を見る	同上	
15	会社を総合的に評価する	同上	
16	レポート提出	—	
テキスト・参考文献・資料など	・テキスト：使用しません。プリントを配布します。 ・参考文献：講義中に紹介します。		
学びの手立て	履修上の注意事項／心構え： ・「経営分析」を履修済みの学生しか登録できません。 ・例年、遅刻や欠席の多い学生は単位を修得できていません。遅刻・欠席をしないよう心がけてください。 学びを深めるために： ・経済やビジネスに関する新聞記事・ニュースに興味を持ちましょう（新聞は図書館に各紙揃っています）。 経営分析の知識が付くにつれて、これらの記事・ニュースが理解できるようになります。		
評価	・平常点……20点（講義中の取組みを評価します） ・レポート……80点（上記「到達目標」を評価します）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：財務会計ⅠⅡ（3年次）、資金会計（3年次）など、会計コースの諸科目
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経済原論Ⅰ	前期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	仲地 健	1年		

学びの準備	ねらい 経済学はミクロ経済学とマクロ経済学の二つに大きく分けられるが、「経済原論Ⅰ」ではミクロ経済学を学ぶ。具体的には、経済を構成する個々の消費者や企業はどのような行動をとるのか、市場において財・サービスの価格や数量はどのように決定されるのかを学ぶ。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義内容と講義の進め方、成績評価方法などを説明する	
	2	需要曲線と供給曲線	
	3	市場均衡と均衡の安定性	
	4	需要曲線・供給曲線のシフト	
	5	価格弾力性	
	6	余剰分析①	
	7	余剰分析②	
8	消費者行動の理論①		
9	消費者行動の理論②		
10	消費者行動の理論③		
11	生産者行動の理論①		
12	生産者行動の理論②		
13	生産者行動の理論③		
14	パレート最適		
15	市場の失敗と独占		
16	期末試験		
	テキスト・参考文献・資料など 特に指定しない。		
	学びの手立て		
	評価 試験結果で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 経済原論Ⅱ
-------	----------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経済原論Ⅱ	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	仲地 健	1年		

学びの準備	ねらい マクロ経済学とは、一国の経済を個人の総体である家計部門、企業の総体である企業部門および政府部門の3つの主体による活動と捉え、社会全体を包括的に分析する学問である。マクロ経済学を学ぶ目的は、国民所得はどのように決定されるのか、デフレや失業といった経済現象がなぜ生じるのか、といったことを理解することにある。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	講義内容と講義の進め方、成績評価方法などを説明する
	2	国民所得の諸概念
	3	均衡所得の決定① 有効需要の原理、消費関数、投資関数
	4	均衡所得の決定② 消費・投資需要と均衡国民所得
	5	均衡所得の決定③ 需要の変化と乗数効果
	6	均衡所得の決定④ 需要の変化と乗数効果
	7	IS-LM分析① IS曲線①
	8	IS-LM分析② LM曲線②
9	IS-LM分析② LM曲線①	
10	IS-LM分析② LM曲線②	
11	財政政策①	
12	財政政策②	
13	金融政策①	
14	金融政策②	
15	講義の総括	
16	期末試験	
	テキスト・参考文献・資料など 特に指定しない。	
	学びの手立て	
	評価 試験の結果で評価する。	

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	原価計算 I	前期	水 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	菅森 聡	3年		

学びの準備	ねらい 利益は売上から原価を引くことで導出される。そのため、原価計算は企業経営の基本である。本講義では、原価計算の基礎的な知識を理解し、練習問題を解くことで、各種の原価計算の習得を目的とします。	メッセージ 企業会計の中の原価計算に焦点を当てる講義です。原価計算の仕組みを理解し、企業の経営を想像しながら受講するとよいでしょう。
	到達目標 ・企業会計の基礎となる原価に関する知識の習得する。 ・原価計算技法を習得し、実際に計算をできるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	該当する章の予習と復習
	2	原価および原価計算の基礎知識 I	
	3	原価および原価計算の基礎知識 II	
	4	原価の費目別計算 I	
	5	原価の費目別計算 II	
	6	原価の費目別計算 III	
	7	製造間接費の計算 I	
	8	製造間接費の計算 II	
	9	製造間接費の計算 III	
	10	単純個別原価計算 I	
	11	単純個別原価計算 II	
	12	原価の部門別計算と部門別個別原価計算 I	
	13	原価の部門別計算と部門別個別原価計算 II	
	14	単純総合原価計算 I	
15	単純総合原価計算 II		
16	テスト		
テキスト・参考文献・資料など 『テキスト原価計算（第二版）』高橋賢、中央経済社、2015年			
学びの手立て ・毎回、練習問題を解いてもらいますので計算機を持ってくるようにしてください。 ・小テストを2回行う予定ですのでしっかり復習するようにしてください。			
評価 小テスト30%とテスト70%で評価します。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目 工業簿記、業績管理会計、戦略管理会計
-------	---



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	工業簿記 I	前期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	菅森 聡	2年		

学びの準備	ねらい 工業簿記は製造業における帳簿の記入の方法であり、商業簿記と同様に企業会計の基礎です。本講義では日商簿記2級程度の工業簿記の習得を目的とします。	メッセージ 工業簿記はシステムを理解したうえで、具体的な問題を繰り返し解く作業をすることで習得できるものです。工業簿記を習得するには復習をしっかりと行うことが近道となります。
	到達目標 ・工業簿記の基本的な知識と技法を習得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	該当する章の予習と復習
	2	工業簿記とは何か	
	3	工業簿記のしくみ	
	4	材料費計算 I	
	5	材料費計算 II	
	6	労務費計算 I	
	7	労務費計算 II	
	8	経費計算	
	9	製造間接費計算 I	
	10	製造間接費計算 II	
	11	部門費計算 I	
	12	部門費計算 II	
	13	個別原価計算 I	
	14	個別原価計算 II	
	15	まとめ	
	16	テスト	
	テキスト・参考文献・資料など <ul style="list-style-type: none"> <li>『検定簿記講義/2級工業簿記』中央経済社</li> <li>『工業簿記の基礎問題集』相川奈美、創成社、2015年</li> </ul>		
	学びの手立て <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回、練習問題を解いてもらいますので計算機を持ってくるようにしてください。</li> <li>・工業簿記はシステムを理解するだけでなく、具体的な問題を繰り返し解くことで習得するものです。授業でやった内容をしっかりと復習するようにしてください。</li> </ul>		
	評価 小テスト30%とテスト70%で評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目 原価計算、業績管理会計、戦略管理会計
-------	---



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	工業簿記Ⅰ	前期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	菅森 聡	2年		

学びの準備	ねらい 工業簿記は製造業における帳簿の記入の方法であり、商業簿記と同様に企業会計の基礎です。本講義では日商簿記2級程度の工業簿記の習得を目的とします。	メッセージ 工業簿記はシステムを理解したうえで、具体的な問題を繰り返し解く作業をすることで習得できるものです。工業簿記を習得するには復習をしっかりと行うことが近道となります。
	到達目標 ・工業簿記の基本的な知識と技法を習得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	該当する章の予習と復習
	2	工業簿記とは何か	
	3	工業簿記のしくみ	
	4	材料費計算Ⅰ	
	5	材料費計算Ⅱ	
	6	労務費計算Ⅰ	
	7	労務費計算Ⅱ	
	8	経費計算	
	9	製造間接費計算Ⅰ	
	10	製造間接費計算Ⅱ	
	11	部門費計算Ⅰ	
	12	部門費計算Ⅱ	
	13	個別原価計算Ⅰ	
	14	個別原価計算Ⅱ	
	15	まとめ	
	16	テスト	
	テキスト・参考文献・資料など <ul style="list-style-type: none"> <li>『検定簿記講義2級工業簿記』中央経済社</li> <li>『工業簿記の基礎問題集』相川奈美、創成社、2015年</li> </ul>		
	学びの手立て ・この講義（水曜日3校時）は前期にⅠ・Ⅱを同時に開講する形態です。受講する学生は金曜日の2校時の工業簿記Ⅱも必ず同時に履修してください。 ・毎回、練習問題を解いてもらいますので計算機を持ってくるようにしてください。 ・工業簿記はシステムを理解するだけでなく、具体的な問題を繰り返し解くことで習得するものです。授業でやった内容をしっかりと復習するようにしてください。		
	評価 小テスト30%とテスト70%で評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目 原価計算、業績管理会計、戦略管理会計
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	工業簿記Ⅱ	後期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	菅森 聡	2年		

学びの準備	ねらい 工業簿記は製造業における帳簿の記入の方法であり、商業簿記と同様に企業会計の基礎です。本講義では日商簿記2級程度の工業簿記の習得を目的とします。	メッセージ 工業簿記はシステムを理解したうえで、具体的な問題を繰り返し解く作業をすることで習得できるものです。工業簿記を習得するには復習をしっかりと行うことが近道となります。
	到達目標 ・工業簿記の基本的な知識と技法を習得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	該当する章の予習と復習
	2	総合原価計算Ⅰ	
	3	総合原価計算Ⅱ	
	4	総合原価計算Ⅲ	
	5	総合原価計算Ⅳ	
	6	標準原価計算Ⅰ	
	7	標準原価計算Ⅱ	
	8	標準原価計算Ⅲ	
9	原価・営業量・利益関係の分析Ⅰ		
10	原価・営業量・利益関係の分析Ⅱ		
11	原価の予測の方法		
12	直接原価計算Ⅰ		
13	直接原価計算Ⅱ		
14	本社・工場会計		
15	まとめ		
16	テスト		
	テキスト・参考文献・資料など <ul style="list-style-type: none"> <li>『検定簿記講義/2級工業簿記』中央経済社</li> <li>『工業簿記の基礎問題集』相川奈美、創成社、2015年</li> </ul>		
	学びの手立て <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回、練習問題を解いてもらいますので計算機を持ってくるようにしてください。</li> <li>・工業簿記はシステムを理解するだけでなく、具体的な問題を繰り返し解くことで習得するものです。授業でやった内容をしっかり復習するようにしてください。</li> </ul>		
	評価 小テスト30%とテスト70%で評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目 原価計算、業績管理会計、戦略管理会計
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	工業簿記Ⅱ	前期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	菅森 聡	2年		

学びの準備	ねらい 工業簿記は製造業における帳簿記入の方法であり、商業簿記と同様に企業会計の基礎です。本講義では日商簿記2級程度の工業簿記の習得を目的とします。	メッセージ 工業簿記はシステムを理解したうえで、具体的な問題を繰り返し解く作業をすることで習得できるものです。工業簿記を習得するには復習をしっかりと行うことが近道となります。
	到達目標 ・工業簿記の基本的な知識と技法を習得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	該当する章の予習と復習
	2	総合原価計算Ⅰ	
	3	総合原価計算Ⅱ	
	4	総合原価計算Ⅲ	
	5	総合原価計算Ⅳ	
	6	標準原価計算Ⅰ	
	7	標準原価計算Ⅱ	
	8	標準原価計算Ⅲ	
	9	原価・営業量・利益関係の分析Ⅰ	
	10	原価・営業量・利益関係の分析Ⅱ	
	11	原価の予測の方法	
	12	直接原価計算Ⅰ	
	13	直接原価計算Ⅱ	
	14	本社・工場会計	
	15	まとめ	
	16	テスト	
	テキスト・参考文献・資料など <ul style="list-style-type: none"> <li>『検定簿記講義/2級工業簿記』中央経済社</li> <li>『工業簿記の基礎問題集』相川奈美、創成社、2015年</li> </ul>		
	学びの手立て <ul style="list-style-type: none"> <li>この講義は前期にⅠ・Ⅱを同時に開講する形態です。受講する学生は水曜日3校時の工業簿記Ⅰも必ず同時に履修してください。</li> <li>毎回、練習問題を解いてもらいますので計算機を持ってくるようにしてください。</li> <li>工業簿記はシステムを理解するだけでなく、具体的な問題を繰り返し解くことで習得するものです。授業でやった内容をしっかりと復習するようにしてください。</li> </ul>		
	評価 小テスト30%とテスト70%で評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目 原価計算、業績管理会計、戦略管理会計
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	広告論	後期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮森 正樹	3年	miyamori@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業を通して、広告の成り立ちとその活用方法学び、いかにして企業が自社の商品・サービスの情報を必要とされている消費者の元に届けるかを知る。	メッセージ 専門科目を単なる単位・学ぶべきものとするのではなく、授業を通してその科目の楽しさ、面白さ、社会への影響に気づくことが大切です。
	到達目標 1. 広告の概要を知る。 2. マーケティング・コミュニケーションの基本理論を学ぶ。 3. 広告とマーケティングの関係性を知る。 4. 基本的な広告の企画が作成できるようになる。	

学びの準備	到達目標 1. 広告の概要を知る。 2. マーケティング・コミュニケーションの基本理論を学ぶ。 3. 広告とマーケティングの関係性を知る。 4. 基本的な広告の企画が作成できるようになる。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	広告とは	テキストを読む
	3	マーケティングミックス	テキストを読む
	4	マーケティング・コミュニケーション	テキストを読む
	5	広告のコミュニケーション的役割	テキストを読む
	6	マスコミュニケーション4媒体	テキストを読む
	7	テレビCM	テキストを読む
	8	ラジオ広告	テキストを読む
	9	新聞広告	テキストを読む
	10	雑誌広告	テキストを読む
	11	ウェブ広告	テキストを読む
	12	レスポンス広告	テキストを読む
	13	広告企画と戦略	テキストを読む
	14	広告会社と関連組織	テキストを読む
	15	まとめ	
16	期末試験		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：授業にて指定する。また、必要に応じて授業の中でプリントを配布する。参考文献も必要な時に発表する。
-------	---

学びの実践	学びの手立て 履修の心構え： ①出席・授業への積極的参加を強く求める、②自分から動く、③課題提出は期日を守る、④他の学生に迷惑を掛けない。 学びを深めるために： ①マーケティングと広告の関係を学ぶ、②議論に積極的に参加する、③日経MJを読む。
-------	---

学びの実践	評価 評価は次の項目の総合的な観点から行われる。 ①出席、②期末試験、③レポート、④授業での態度、⑤課題提出物。
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 ビジネス関連科目を多く受講すること。マーケティングに関連した書籍を読むこと。一般教養科目をしっかりと学ぶこと。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	小売流通論 I	前期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	髭白 晃宜	3年	t.higeshiro@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>①小売流通に関する知識を得て、今日の流通実態を理解する。                  ②生活との関わりから、流通業の役割をより深く理解する。                  ③小売業態の発展について考えることができる。</p>	<p>小売業は、われわれ消費者に最も近い販売業者です。消費者の欲しいものを仕入れ販売する代理購買の機能をはじめとして、社会から求められる役割が日増しに大きくなってきています。                  本講義では、今日の成熟した市場において小売業が果たす役割とその重要性について学んでいきます。</p>
到達目標	<p>①日本の小売流通の全体像を俯瞰できる。                  ②小売業態についての知見を広げ、日本型流通システムの特徴を理解することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	小売業とは何か	
	3	日本の小売業の構造	日本小売業の特徴について
	4	流通における小売業の役割	小売業の役割について
	5	業種と業態	中間試験①対策
	6	中間試験①	中間試験①の見直し
	7	業界別流通経路の基本知識①：生鮮食品と加工食品	生鮮三品の流通について
8	業界別流通経路の基本知識②：医薬品	薬局とドラッグストアについて	
9	業界別流通経路の基本知識③：衣料品	衣料小売の仕入方法について	
10	業界別流通経路の基本知識④：化粧品と日用雑貨	一般品と制度品について	
11	業界別流通経路の基本知識⑤：まとめ	中間試験②対策	
12	中間試験②	中間試験②の見直し	
13	卸売業の役割	卸売業の機能について	
14	製造業のチャネル戦略		
15	流通系列化のメリットとデメリット	期末試験対策	
16	期末試験		
実践	テキスト・参考文献・資料など ※以下のテキストを講義の際に必ず持参すること。 使用テキスト： 番場博之編著『基礎から学ぶ流通の理論と政策（新版）』八千代出版，2016年		
	学びの手立て ①テキストは必ず購入して、時間外に必ず予習・復習ができる態勢を整えてください。 ②欠席5回以上で成績評価は「不可」となります。また、30分以上の遅刻は欠席扱いとします。 ③「流通総論」と「マーケティング総論」の事前履修を推奨。講義内容をより深く理解できます。 ④スーパー、コンビニ、ドラッグストアなどをよく観察し、社会における小売業の役割を学ぶこと。		
	評価 ◆中間試験①：25点 ◆中間試験②：30点 ◆期末試験：30点 ◆ミニレポート：15点（毎講義中に課すレポートのこと：講義数15回×各回1点） 合計：100点満点		

学びの継続	次のステージ・関連科目 小売業の機能や役割を知ることで、小売流通業が生活に密着したものであることを理解する。 また、販売実務や店舗運営の知識を得ることで、小売業やサービス業への関心を喚起する。 関連科目には「販売管理論」がある。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	小売流通論Ⅱ	後期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	髭白 晃宜	3年	t.higeshiro@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>①小売流通に関する知識を得て、今日の流通実態を理解する。                  ②生活との関わりから、流通業の役割をより深く理解する。                  ③小売業態の発展について考えることができる。</p>	<p>小売業は、われわれ消費者に最も近い販売業者です。消費者の欲しいものを仕入れ販売する代理購買の機能をはじめとして、社会から求められる役割が日増しに大きくなってきています。                  本講義では、今日の成熟した市場において小売業が果たす役割とその重要性について学んでいきます。</p>
到達目標	<p>①日本の小売流通の全体像を俯瞰できる。                  ②小売業態についての知見を広げ、日本型流通システムの特徴を理解することができる。                  ③小売業の事例研究から、小売業態の多様性と柔軟性について考えることができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	小売流通論Ⅰを振り返る	小売流通論Ⅰの復習
	3	組織小売業①：ボランティアチェーンと生協	卸売業と生協について
	4	組織小売業②：レギュラーチェーンとフランチャイズチェーン	
	5	店舗販売と無店舗販売	中間試験対策
	6	中間試験	中間試験の見直し
	7	小売業態の種類と特徴①：百貨店	
	8	小売業態の種類と特徴②：GMSとスーパーマーケット	チェーンオペレーションについて
	9	小売業態の種類と特徴③：コンビニエンスストア	フランチャイズチェーンの復習
	10	小売業態の種類と特徴④：ドラッグストアその他	
	11	中小小売業と商店街	期末試験対策
	12	期末試験	期末試験
	13	小売流通事例研究①：準備作業	研究報告にむけて準備作業
	14	小売流通事例研究②：グループ報告【前編】	事例研究
15	小売流通事例研究③：グループ報告【中編】	同上	
16	小売流通事例研究④：グループ報告【後編】	同上	

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>※以下のテキストを講義の際に必ず持参すること。                  使用テキスト：                  番場博之編著『基礎から学ぶ流通の理論と政策（新版）』八千代出版，2016年</p>
----	--

学びの手立て	<p>①テキストは必ず購入して、時間外に必ず予習・復習ができる態勢を整えてください。                  ②欠席5回以上で成績評価は「不可」となります。また、30分以上の遅刻は欠席扱いとします。                  ③「流通総論」と「マーケティング総論」の事前履修を推奨。講義内容をより深く理解できます。                  ④スーパー、コンビニ、ドラッグストアなどをよく観察し、社会における小売業の役割を学ぶこと。                  ⑤時間外にグループ作業を行います。各自協力して作業に取り組むように。</p>
--------	---

評価	<p>◆中間試験：25点                  ◆期末試験：30点                  ◆グループ報告：30点                  ◆ミニレポート：15点（毎講義中に課すレポートのこと：講義数15回×各回1点）                  合計：100点満点</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>小売業の機能や役割を知ることで、小売流通業が生活に密着したものであることを理解する。                  また、販売実務や店舗運営の知識を得ることで、小売業やサービス業への関心を喚起する。                  関連科目には「販売管理論」がある。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性 国際政治経済を理解するために必要な基礎知識を勉強する。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国際関係論	前期	金 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-安座間 喜松	3年	授業終了後、教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい この講義は、国際関係学の初歩的および基本的なことを勉強する。従って、この講義を理解するためには国際関係の専門的な知識を必ずしも必要としない。この講義はいわば国際関係論の「入門編」であり、特にこれまで政治学やその他国際関係を専門的に勉強したことのない人を対象としている。	メッセージ この科目は国際関係論の入門学科です。したがって、国際関係論を初めて学ぶ人に対してもわかりやすく教えます。他学科の学生も歓迎します。
	到達目標 1. この科目は、学生が国際社会の仕組みを国際政治学、国際経済学、社会学等の視点から理解の一助なることを目標とする。 2. この科目は、国際関係論の入門科目と位置づけており、国際関係学あるいは政治学を専攻する学生のみならず、それらを専攻しない学生を対象としたクラスとする。 3. この科目では、広くWebclass、スライド、動画映像等を利用する講義を行い、受講生が国際関係論への理解を深めることを目標とする。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	1. 講義および講師紹介	
	2	2. 序論 国際関係とは	
	3	分析のレベル	
	4	無政府状態	
	5	3. 国際関係の諸理論	
	6	4. 各論 国際社会の活動主体	
	7	国家	
	8	国際組織	
	9	IGO N I G O	
	10	国連 多国籍企業	
	11	5. EU	
	12	6. 国家下位組織	
	13	7. 南北問題	
	14	8. 軍拡*軍縮	
	15	9. 米ソミサイル開発競争 (ビデオ)	
	16	10. インド・パキスタンの核開発 (ビデオ)	
	テキスト・参考文献・資料など 教科書の指定はありません。授業に必要な項目はすべてWebclassに掲載します。講義はほぼ毎回パワーポイントスライドを使用して行われる。		
	学びの手立て 成績は上記の学期末試験に出席率を加味し、次のように決定される100-90点優 90-80点良 80-60点可 60点以下不可 59点以下不可		
	評価 試験は、学期末試験だけを行う。最終的な成績はこの学期末試験と出欠状況を加味して与えられる。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 このクラスは将来の就職試験の準備のためにも非常に役立つであろう。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国際経営論 I	前期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	天野 敦央	3年	第5-603番教室(研究室)	

学びの準備	ねらい 年間テーマを「中国経営」とする。本講義は、通年科目（全年科目）合計4.00単位に相当する。外国研究にあつては、国内研究と同様に、体系的に知識把握することが比較的有効であると思われる。たとえば経営管理を理解したいのであれば、①生産管理、②労働管理、③販売管理、④財務管理、および⑤経営組織といったような諸部分にそつて把握していくのである。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>上の「ねらい」で記したことは、どこの国 地域の経済・経営・商業・ビジネスを理解するうえでも妥当することといえよう。本講義では、中国本土（中華人民共和国）の工場管理を例にとり、外国経営研究にとりくんでいく。東側国家や、発展途上国に特有の事象についても言及したい。 (なお本講義は抽選科目である。各学期の初回講義(4,9月)では面談のうえ、受講許可者(抽選結果)を発表するので必ず出席されたい。)</p> <p>講義の展開計画</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>講義のすすめ方、評価のしかた</td></tr> <tr><td>2</td><td>経営・企業概念</td></tr> <tr><td>3</td><td>外国経営研究</td></tr> <tr><td>4</td><td>中国経営研究</td></tr> <tr><td>5</td><td>経済回復期</td></tr> <tr><td>6</td><td>第1次五カ年計画の時期</td></tr> <tr><td>7</td><td>大躍進の時期</td></tr> <tr><td>8</td><td>経済調整政策の時期</td></tr> <tr><td>9</td><td>プロレタリア文化大革命の時期</td></tr> <tr><td>10</td><td>第4次五カ年計画の時期</td></tr> <tr><td>11</td><td>華国鋒政権の時期</td></tr> <tr><td>12</td><td>経済改革政策への着手期</td></tr> <tr><td>13</td><td>経済改革政策の停滞期</td></tr> <tr><td>14</td><td>まとめ</td></tr> <tr><td>15</td><td>講評、ショートテスト</td></tr> </tbody> </table>	回数	内容	1	講義のすすめ方、評価のしかた	2	経営・企業概念	3	外国経営研究	4	中国経営研究	5	経済回復期	6	第1次五カ年計画の時期	7	大躍進の時期	8	経済調整政策の時期	9	プロレタリア文化大革命の時期	10	第4次五カ年計画の時期	11	華国鋒政権の時期	12	経済改革政策への着手期	13	経済改革政策の停滞期	14	まとめ	15	講評、ショートテスト
	回数	内容																															
	1	講義のすすめ方、評価のしかた																															
	2	経営・企業概念																															
3	外国経営研究																																
4	中国経営研究																																
5	経済回復期																																
6	第1次五カ年計画の時期																																
7	大躍進の時期																																
8	経済調整政策の時期																																
9	プロレタリア文化大革命の時期																																
10	第4次五カ年計画の時期																																
11	華国鋒政権の時期																																
12	経済改革政策への着手期																																
13	経済改革政策の停滞期																																
14	まとめ																																
15	講評、ショートテスト																																
<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>(テキスト) 未定 (参考文献) 小川英次ほか(編)『経営学の基礎知識』有斐閣、伊丹敬之ほか『ゼミナール経営学入門』日本経済新聞社、芝川林也(編)『経営学演習』同文館。</p>																																	
<p>学びの手立て</p> <p>遅刻・私語は控えてもらいたい。定期試験は今のところ予定していないが、講義中1～3回程度のショートの実施を計画している。実施日時などは開講時に指示するので、準備不足・受験忘れ等なきよう注意されたい。</p>																																	
<p>評価</p> <p>概ね次の通りとする。 出席点が15%、平常点(発言・質問・課題・ショートテストの達成度)が 85%。</p>																																	

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国際経営論Ⅱ	後期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	天野 敦央	3年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>年間テーマを「中国経営」とする。本講義は、通年科目（全年科目）合計4.00単位に相当する。外国研究にあつては、国内研究と同様に、体系的に知識把握することが比較的有効であると思われる。たとえば経営管理を理解したいのであれば、①生産管理、②労働管理、③販売管理、④財務管理、および⑤経営組織といったような諸部分にそつて把握していくのである。</p> <p>到達目標</p>	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>上の「ねらい」で記したことは、どこの国 地域の経済・経営・ビジネス・商業を理解するうえでも妥当なことといえよう。本講義では、中国本土（中華人民共和国）の工場管理を例にとり、外国経営研究にとりくんでいく。東側国家や、発展途上国に特有の事象についても言及したい。                  （なお本講義は抽選科目である。各学期の初回講義（4,9月）では面談のうえ、受講許可者（抽選結果）を発表するので必ず出席されたい。）</p> <p>講義の展開計画</p> <table border="0"> <tr><td>回数</td><td>内容</td></tr> <tr><td>16</td><td>経営管理原則</td></tr> <tr><td>17</td><td>内部経営管理組織</td></tr> <tr><td>18</td><td>上級経営管理組織</td></tr> <tr><td>19</td><td>経営管理制度（1）</td></tr> <tr><td>20</td><td>経営管理制度（2）</td></tr> <tr><td>21</td><td>国営工場の生産管理</td></tr> <tr><td>22</td><td>国営工場の労働管理</td></tr> <tr><td>23</td><td>国営工場の販売管理</td></tr> <tr><td>24</td><td>国営工場の財務管理</td></tr> <tr><td>25</td><td>企業形態</td></tr> <tr><td>26</td><td>工場におけるイデオロギー的活動</td></tr> <tr><td>27</td><td>工場における政治活動</td></tr> <tr><td>28</td><td>教材学習（1）</td></tr> <tr><td>29</td><td>教材学習（2）</td></tr> <tr><td>30</td><td>教材学習（3）・ショートテスト</td></tr> <tr><td>31</td><td>[予備日]</td></tr> </table>	回数	内容	16	経営管理原則	17	内部経営管理組織	18	上級経営管理組織	19	経営管理制度（1）	20	経営管理制度（2）	21	国営工場の生産管理	22	国営工場の労働管理	23	国営工場の販売管理	24	国営工場の財務管理	25	企業形態	26	工場におけるイデオロギー的活動	27	工場における政治活動	28	教材学習（1）	29	教材学習（2）	30	教材学習（3）・ショートテスト	31	[予備日]
	回数	内容																																	
	16	経営管理原則																																	
	17	内部経営管理組織																																	
18	上級経営管理組織																																		
19	経営管理制度（1）																																		
20	経営管理制度（2）																																		
21	国営工場の生産管理																																		
22	国営工場の労働管理																																		
23	国営工場の販売管理																																		
24	国営工場の財務管理																																		
25	企業形態																																		
26	工場におけるイデオロギー的活動																																		
27	工場における政治活動																																		
28	教材学習（1）																																		
29	教材学習（2）																																		
30	教材学習（3）・ショートテスト																																		
31	[予備日]																																		
<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>（テキスト） 未定                  （参考文献） 小川英次ほか（編）『経営学の基礎知識』有斐閣、伊丹敬之ほか『ゼミナール経営学入門』日本経済新聞社、芝川林也（編）『経営学演習』同文館。</p>																																			
<p>学びの手立て</p> <p>遅刻・私語は控えてもらいたい。定期試験は今のところ予定していないが、講義中1～3回程度のショートテストの実施を計画している。実施日時などは開講時に指示するので、準備不足・受験忘れ等なきよう注意されたい。</p>																																			
<p>評価</p> <p>概ね次の通りとする。                  出席点が15%、平常点（発言・質問・課題・ショートテストの達成度）が 85%。</p>																																			

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国際経済学	前期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	仲地 健	3年		

学びの準備	ねらい 世界的に進展している経済活動のグローバル化の現状を把握し、その背後にあるメカニズムを理解するための国際経済学の基礎的理論を学習し習得すること。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	
	2	国際貿易と日本の経済成長①	
	3	国際貿易と日本の経済成長②	
	4	貿易の基礎理論① 貿易の基本的メカニズム	
	5	貿易の基礎理論② 比較優位と絶対優位・為替レート調整	
	6	貿易の基礎理論③ ヘクシャー＝オリーンの命題、プロダクト・サイクル理論、雁行形態論	
	7	貿易政策と経済厚生① 消費者余剰と生産者余剰、輸入関税、輸入割当	
	8	貿易政策と経済厚生② 輸出自主規制、輸出税、輸出補助金	
	9	為替レートの決定①	
	10	為替レートの決定②	
	11	IS-LM分析① IS曲線とLM曲線	
	12	IS-LM分析② 固定相場制における財政・金融政策	
	13	IS-LM分析③ 変動相場制における財政・金融政策	
	14	ポリシーミックス	
	15	まとめ	
	16	期末試験	
	テキスト・参考文献・資料など 特に指定しない。 その都度紹介する。		
	学びの手立て		
	評価 試験結果で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

※ポリシーとの関連性

ビジネスでの実践的な理解と実践力のため企業活動を記録する簿記システムをコンピュータ処理、報告する理論、方法を学習する。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名 コンピュータ会計	期別	曜日・時限	単位
		前期	水 1	2
	担当者 -上原 香代子	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		2年	講義終了後及びメール等	

学びの準備	ねらい 商業簿記を通して、学習、理解した企業活動の基礎的な簿記処理をコンピュータを通じた処理を実践し現代の企業活動を系統的に処理する能力を高める	メッセージ 毎時の課題に積極的に取り組んでください。
	到達目標 小売商業ないしは中規模企業における日常的な会計処理を理解し、コンピュータ上で行えるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス及び簿記の基礎確認	商業簿記の復習
	2	企業活動と会計処理	前講義の確認復習
	3	会計ソフトの操作と会計処理	前講義の確認復習
	4	現預金、売上の会計処理	前講義の確認復習
	5	仕入、経費の会計処理	前講義の確認復習
	6	人件費の会計処理	前講義の確認復習
	7	日常的処理と試算表の作成	前講義の確認復習
	8	企業に関わる税の会計処理	前講義の確認復習
	9	日常活動の入力処理と試算表の作成①	前講義の確認復習
	10	日常活動の入力処理と試算表の作成②	前講義の確認復習
	11	決算手続きと会計処理	前講義の確認復習
	12	月次活動の入力処理と財務諸表の作成①	前講義の確認復習
	13	月次活動の入力処理と財務諸表の作成②	前講義の確認復習
	14	会計データの新規作成	前講義の確認復習
	15	実践的データ処理と財務諸表の作成	前講義の確認復習
	16	期末テスト	
	テキスト・参考文献・資料など コンピュータ会計基本テキスト 実教出版 コンピュータ会計基本問題集 実教出版		
	学びの手立て 1年次に学習する商業簿記をよく復習するとともに、毎時の課題を積極的に行い、簿記システムの理解を深めてください。		
	評価 出席状況・課題提出状況及び期末テストの総合評価		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	関連科目 商業簿記Ⅰ 商業簿記Ⅱ 会計学 財務会計
	現代ビジネスに必須である帳簿の会計処理の実践力を高め、財務報告等が作成できるようになる。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	コンピュータ会計	後期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-上原 香代子	2年	講義終了後及びメール	

学びの準備	ねらい 企業会計に欠かせない会計ソフトの演習を通して、現代の会計実務の基本を学習する。	メッセージ 企業人としての一般的な知識、特に事務系の職種に、必要な学習です。
	到達目標 1年次で学習した簿記会計の知識を会計ソフトを使って、実務面でも活かせるようにします。各種のコンピュータ会計検定資格も取得可能となります。	

学びの準備	到達目標 1年次で学習した簿記会計の知識を会計ソフトを使って、実務面でも活かせるようにします。各種のコンピュータ会計検定資格も取得可能となります。

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・簿記の基礎確認	商業簿記の基礎復習
	2	企業活動と会計処理	前講義の復習
	3	会計ソフトの操作と会計処理	前講義の復習
	4	現預金、売上の会計処理	前講義の復習
	5	仕入、経費の会計処理	前講義の復習
	6	人件費の会計処理	前講義の復習
	7	日常的処理と試算表の作成	前講義の復習
	8	起業に関わる税の会計処理	前講義の復習
	9	日常活動の入力処理と試算表の作成①	前講義の復習
	10	日常活動の入力処理と試算表の作成②	前講義の復習
	11	決算手続きと会計処理	前講義の復習
	12	月次活動の入力処理と財務諸表の作成①	前講義の復習
	13	月次活動の入力処理と財務諸表の作成②	前講義の復習
	14	会計データの新規作成	前講義の復習
	15	実践的データ処理と財務諸表の作成	前講義の復習
16	期末テスト		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：(時間内使用) 『コンピュータ会計基本テキスト』実教出版 (時間外使用) 『コンピュータ会計基本問題』実教出版 参考文献：『電子会計 実務検定試験 公式ガイドブック』初級・中級 日本商工会議所編集

学びの実践	学びの手立て 基本的な簿記の知識を前提にしています。 各項目での講義の後、知識の問題と会計ソフト入力問題を行います。 講義は、テキストに沿って進めますので、欠席する場合、講義範囲を確認し、理解するようにしてください。 またパソコン操作の習得のため、練習量も確保してください。

学びの実践	評価 出席状況・課題提出状況及び期末テストの総合評価

学びの継続	次のステージ・関連科目 「関連科目」会計学、原価計算、財務会計、管理会計、経営分析、資金会計
-------	---

※ポリシーとの関連性 学ぶ姿勢と学ぶ力を付ける。自分で考えて、自ら動いていく力を付ける。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	サービス・マーケティング	前期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮森 正樹	3年	miyamori@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業を通して、サービス・マーケティングの成り立ちとその活用方法学び、いかにして企業が自社のサービス商品の付加価値を必要とされている消費者の元に届けるかを知る。	メッセージ 専門科目を単なる単位・学ぶべきものとするのではなく、授業を通してその科目の楽しさ、面白さ、社会への影響に気づくことが大切です。
	到達目標 1. サービスの概要を知る。 2. サービス・マーケティングの基本理論を学ぶ。 3. サービスとマーケティングの関係性を知る。 4. 基本的なサービス・マーケティングのビジネスモデルが説明できるようになる。	

学びの準備	到達目標 1. サービスの概要を知る。 2. サービス・マーケティングの基本理論を学ぶ。 3. サービスとマーケティングの関係性を知る。 4. 基本的なサービス・マーケティングのビジネスモデルが説明できるようになる。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	サービスとは	テキストを読む
	3	経済のサービス化	テキストを読む
	4	消費者の変化	テキストを読む
	5	サービス・マーケティングの概要	テキストを読む
	6	モノとサービスの違い	テキストを読む
	7	製造業とサービスの関係	テキストを読む
	8	サービス品質の考え方	テキストを読む
	9	品質評価の方法1	テキストを読む
	10	品質評価の方法2	テキストを読む
	11	サービス商品のプロモーション	テキストを読む
	12	サービス商品の流通	テキストを読む
	13	サービス商品の価格	テキストを読む
	14	サービスエンカウンターとは	課題発表の準備
	15	課題の発表	
16	期末試験		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：サービス・マーケティング入門。必要に応じて授業の中でプリントを配布する。参考文献も必要な時に発表する。
-------	--

学びの実践	学びの手立て 履修の心構え： ①出席・授業への積極的参加を強く求める、②自分から動く、③課題提出は期日を守る、④他の学生に迷惑を掛けない。 学びを深めるために： ①マーケティングとサービスの関係を知る、②議論に積極的に参加する、③日経MJを読む、④サービス企業のサービスを受けてみて感じた課題の改善策を考えてみる。
-------	---

学びの実践	評価 評価は次の項目の総合的な観点から行われる。 ①出席、②期末試験、③レポート、④授業での態度、⑤課題提出物。
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 ビジネス関連科目を多く受講すること。マーケティングに関連した書籍を読むこと。一般教養科目をしっかりと学ぶこと。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	財務会計 I	前期	木 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	鶴池 幸雄	3年	uike@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 企業活動の把握、報告を行う財務報告会計の中で概論と損益計算書について理解し、解題できる事を目指します	メッセージ 簿記・会計の知識を生かして、企業の利益獲得に関わる行動について理解できるようにしましょう
	到達目標 日本の会計原則の基礎理論の理解 企業の営利活動をあらわす損益計算書の理解	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	会計主体論	
	3	会計公準論	
	4	企業会計原則と会社法	
	5	企業会計の一般原則 I	
	6	企業会計の一般原則 II	
	7	損益計算書概論	
	8	収益・費用の認識と測定 I	
	9	収益・費用の認識と測定 II	
	10	収益・費用の認識と測定 III	
	11	費用と収益の対応	
	12	営業損益計算	
	13	期間業績計算	
	14	包括利益計算	
15	損益計算総論		
16	試験		
	テキスト・参考文献・資料など 財務会計講義 櫻井久勝 第18版		
	学びの手立て 講義で学修を進めるとともに、復習を十分に行ってください		
	評価 小レポート (20) 試験 (80)		

学びの継続	次のステージ・関連科目 経営分析、資金会計 会計戦略論
-------	--------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	財務会計Ⅱ	後期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	鶴池 幸雄	3年	uike@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 企業活動の把握、報告を行う財務報告会計の中で貸借対照表と連結財務報告について理解し、解題できる事を目指します	メッセージ 簿記・会計の知識を生かして、企業の利益獲得に関わる行動について理解できるようにしましょう
	到達目標 企業の財政状態をあらわす貸借対照表の理解 企業グループの経営状態を示す連結財務諸表の理解	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	貸借対照表概論	
	3	貸借対照表の分類基準	
	4	流動資産の会計処理Ⅰ	
	5	流動資産の会計処理Ⅱ	
	6	固定資産の会計処理Ⅰ	
	7	固定資産の会計処理Ⅱ	
	8	繰延資産の会計処理	
9	負債の会計処理		
10	純資産の部の会計処理		
11	連結財務諸表Ⅰ（概論）		
12	連結財務諸表論Ⅱ（資本連結）		
13	連結財務諸表Ⅲ（損益計算書、貸借対照表の作成）		
14	連結財務諸表Ⅳ（連結財務諸表の利用）		
15	企業活動と財務報告		
16	試験		
	テキスト・参考文献・資料など 財務会計講義 櫻井久勝 第18版		
	学びの手立て 講義で学修を進めるとともに、復習を十分に行ってください		
	評価 小レポート（20）試験（80）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 経営分析、資金会計 会計戦略論
-------	--------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	資金会計	後期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	鶴池 幸雄	3年	uike@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 企業活動の把握、報告を行う財務報告会計の中でキャッシュ・フローとキャッシュ換算について理解し、解題できる事を目指します	メッセージ 簿記・会計の知識を生かして、企業の資金獲得に関わる行動について理解できるようにしましょう
	到達目標 企業の資金収支をあらわすキャッシュ・フローの理解 企業の資金収支に関わる外貨建て取引の会計処理の理解	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	資金会計概論	
	3	キャッシュ・フロー計算Ⅰ(概論)	
	4	キャッシュ・フロー計算Ⅱ(キャッシュ・フロー計算書の作成①)	
	5	キャッシュ・フロー計算Ⅲ(キャッシュ・フロー計算書の作成②)	
	6	キャッシュ・フロー計算Ⅳ(キャッシュ・フロー計算書の構造)	
	7	損益情報とキャッシュフロー情報の比較	
	8	キャッシュ・フロー情報の利用Ⅰ(ディスカунティッド・キャッシュフロー)	
	9	キャッシュ・フロー情報の利用Ⅱ(ネットプレゼンツバリュー)	
	10	キャッシュ・フロー情報の利用Ⅲ(キャッシュフロー情報による企業分析)	
	11	外貨建て資金取引の会計処理Ⅰ(外国通貨取引の会計処理)	
	12	外貨建て資金取引の会計処理Ⅱ(外国通貨表示の会計処理)	
	13	金融資金取引の会計処理Ⅰ(リース取引)	
14	金融資金取引の会計処理Ⅱ(デリバティブ取引)		
15	キャッシュ・フローと企業会計		
16	試験		
	テキスト・参考文献・資料など 受講時に指示する		
	学びの手立て 経済活動認識による簿記とことなる資金活動認識であるキャッシュ・フローを理解するために基礎的な練習課題を着実に進めていくことが重要となります。		
	評価 小レポート(20) 試験(80)		

学びの継続	次のステージ・関連科目 経営分析、財務会計、企業戦略論
-------	--------------------------------



※ポリシーとの関連性 学ぶ姿勢と学ぶ力を付ける。自分で考えて、自ら動いていく力を付ける。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	市場調査演習	後期	金2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮森 正樹	2年	miyamori@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業を通して、企業が顧客のニーズを探るための基本的な理論と技術を学ぶ。市場調査を通じてマーケティングの応用とそれがいかに自分たちの生活に密着しているかを知る。	メッセージ 専門科目を単なる単位・学ぶべきものとするのではなく、授業を通してその科目の楽しさ、面白さ、社会への影響に気づくことが大切です。
	到達目標 1. 市場調査の概要を知る。 2. 市場調査の各理論を学ぶ。 3. 市場調査とマーケティングの関係性を知る。 4. 高度な市場調査ができるようになる。 5. 統計的手法を学ぶ。	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>クラスでグループを作り、各グループごとに調査テーマを決定して、それを実施する。高度な市場調査を実施してレポートを書き、クラスでプレゼンテーションをする。社会人講師による実務の話聞く。</p> <p>前半3週間 : グループ決定、調査テーマ決定、調査手法決定          中盤10週間 : 調査実施、集計、分析、社会人講師の講和          後半3週間 : 調査結果のプレゼンテーションとレポート提出</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト：アンケートの作り方・活かし方。また、必要に応じて授業の中でプリントを配布する。参考文献は必要な時に発表。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>履修の心構え： ①出席・授業への積極的参加を強く求める、②自分から動く、③課題提出は期日を守る、④グループ学習にて自分の役割を果たす。</p> <p>学びを深めるために： ①マーケティングと市場調査の関係を知る、②議論に積極的に参加する、③日経MJを読む。</p>
	<p>評価</p> <p>評価は次の項目の総合的な観点から行われる。 ①出席、②役割の遂行、③レポート、④授業での態度、⑤課題提出物、⑥プレゼンテーションの内容。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>ビジネス関連科目を多く受講すること。マーケティングに関連した書籍を読むこと。一般教養科目をしっかりと学ぶこと。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性 学ぶ姿勢と学ぶ力を付ける。自分で考えて、自ら動いていく力を付ける。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	市場調査総論	前期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮森 正樹	2年	miyamori@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業を通して、企業が顧客のニーズを探る基本的な理論と技術を学ぶ。市場調査を通じてマーケティングの応用とそれがいかに自分たちの生活に密着しているかを知る。	メッセージ 専門科目を単なる単位・学ぶべきものとするのではなく、授業を通してその科目の楽しさ、面白さ、社会への影響に気づくことが大切です。
	到達目標 1. 市場調査の概要を知る。 2. 市場調査の各理論を学ぶ。 3. 市場調査とマーケティングの関係性を知る。 4. 簡単な市場調査ができるようになる。 5. 統計的手法を学ぶ。	

学びの準備	到達目標 1. 市場調査の概要を知る。 2. 市場調査の各理論を学ぶ。 3. 市場調査とマーケティングの関係性を知る。 4. 簡単な市場調査ができるようになる。 5. 統計的手法を学ぶ。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	オリエンテーション
	2	市場調査とは
	3	市場調査の種類とその活用 1
	4	市場調査の種類とその活用 2
	5	アンケートの基礎知識 1
	6	アンケートの基礎知識 2
	7	顧客をつかむアンケート 1
	8	顧客をつかむアンケート 2
	9	購入決定時に影響を及ぼす要因の発見 1
	10	購入決定時に影響を及ぼす要因の発見 2
	11	潜在的ニーズを知る調査 1
	12	潜在的ニーズを知る調査 2
	13	調査事例の発表準備
	14	調査企業の事例発表 1
	15	調査企業の事例発表 2
16	期末試験	
		時間外学習の内容
		テキスト予習及び調査企画作成
		テキスト予習及び調査企画作成
		テキスト予習及び調査企画作成
		テキスト予習及び調査企画作成
		テキスト予習及び調査企画作成
		テキスト予習及び調査企画作成
		テキスト予習及び調査企画作成
		調査発表準備 1
		調査発表準備 2

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：アンケートの作り方・活かし方。また、必要に応じて授業の中でプリントを配布する。参考文献は必要な時に発表。
-------	---

学びの実践	学びの手立て 履修の心構え： ①出席・授業への積極的参加を強く求める、②自分から動く、③課題提出は期日を守る、④グループ学習にて自分の役割を果たす。  学びを深めるために： ①マーケティングと市場調査の関係を知る、②議論に積極的に参加する、③日経MJを読む。
-------	--

学びの実践	評価 評価は次の項目の総合的な観点から行われる。 ①出席、②期末試験、③レポート、④授業での態度、⑤課題提出物、⑥プレゼンテーションの内容。
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 ビジネス関連科目を多く受講すること。マーケティングに関連した書籍を読むこと。一般教養科目をしっかりと学ぶこと。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	商業史	前期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	髭白 晃宜	2年	t.higeshiro@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい ①商業活動と都市・市場の歴史の変遷を考察する。 ②中世以降の欧州における商業発展について理解する。 ③西洋都市と日本都市の比較から、現在のまちづくりを考える。	メッセージ 商業のありかたは、農業や工業と同じく時代とともに変化しています。同時にその舞台となる都市や市場も変遷を続けています。本講義では、都市や市場の発展過程における諸問題の原因を歴史的観点から分析して、今後の都市や市場のありかたを展望します。
	到達目標 ①歴史的な事実を観察・分析して、現代の商業活動や都市・市場が抱える問題点を明らかにする。 ②現代における都市の再開発やまちづくりについて、発展と停滞の原因を考えることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	経済史・経営史・商業史	商業史を学ぶ意味を知る
	3	都市と市場の成立	
	4	中世都市の類型	中世都市の諸類型について
	5	中世における商業組織の発達	会社の形態についての学習
	6	価格革命と商業革命	中間試験①対策
	7	中間試験①	中間試験①の見直し
	8	世界経済の中心の変遷	
	9	産業革命と商業構造の変化	イギリス産業革命について
	10	近代都市と流通の変化	流通革新と物流の発展について
	11	百貨店とチェーンストア	中間試験②対策
	12	中間試験②	中間試験②の見直し
	13	日本型流通の近現代史①：百貨店と通信販売	日本の百貨店について
	14	日本型流通の近現代史②：スーパーとコンビニ	日本のコンビニについて
	15	日本型流通の近現代史③：中小小売商と商店街	期末試験対策
	16	期末試験	
	テキスト・参考文献・資料など ※講義内で補助教材を適宜配布する。参考文献を以下で紹介しておく。 参考文献： 斯波照雄『西洋の都市と日本の都市 どこが違うのかー比較都市史入門ー』学文社、2015年		
	学びの手立て ①補助教材は適宜配布しますが、ノート作成が必須です。講義への積極的な参加が必要です。 ②欠席5回以上で成績評価は「不可」となります。また、30分以上の遅刻は欠席扱いとします。 ③「流通総論」と「マーケティング総論」の事前履修を推奨。講義内容をより深く理解できます。		
	評価 ◆中間試験①：30点 ◆中間試験②：25点 ◆期末試験：30点 ◆ミニレポート：15点（毎講義中に課すレポートのこと：講義数15回×各回1点） 合計：100点満点		

学びの継続	次のステージ・関連科目 歴史的な事実を客観的に分析することで、現在の商業活動や市場動向を正確に理解できることが目標。関連科目として「小売流通論Ⅰ」および「小売流通論Ⅱ」、そして「流通政策論」がある。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	商業簿記 I	前期	月2・木1	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-上江洲 由正	1年	uezu@tm.u-ryukyu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	我々の社会的・経済的生活にとって絶対に必要な企業の経営活動を情報化する技法である複式簿記の基本的仕組みや原理について、個人企業の経営活動に焦点を当てた商業簿記を中心に講義する。具体的には資産、負債、純資産、収益、費用概念、記帳ルールとプロセス、貸借対照表や損益計算書の作成を中心に講義する。簿記技法の習得を通して経営活動に対する理解を深める。	簿記は授業を聞くだけでは理解できないので、毎回、授業の展開プリントの問題一解答解説という流れで授業を行います。理詰めのみならず、わかりやすい授業を心がけますが、分からないことがあればどんなことでもいいので授業中あるいは授業の前後にどんどん質問してください。

到達目標	毎回の授業で練習問題を解いてもらうことにより簿記の技法・知識に対する理解が深まり、また時間外で自主学習でワークブックの練習問題を解いてもらうことにより自律性が涵養されるようになる。さらに企業の経営活動を簿記の技法に基づいて情報化するので、情報リテラシーを高めることができる。日本商工会議所主催の簿記検定3級に合格できる簿記の技法・知識を習得することができるので、簿記検定に合格することにより専門的能力の社会的評価を高めることができる。
------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス：簿記を学ぶ意義等の説明。	
	2	簿記の基礎概念	参考文献の関連問題を解くこと
	3	資産・負債・純資産と貸借対照表	参考文献の関連問題を解くこと
	4	損益計算書と貸借対照表	参考文献の関連問題を解くこと
	5	簿記の記入法則	参考文献の関連問題を解くこと
	6	経営活動と帳簿記入（仕訳）	参考文献の関連問題を解くこと
	7	経営活動と帳簿記入（仕訳・転記）	参考文献の関連問題を解くこと
	8	帳簿組織（仕訳帳と元帳その1）	参考文献の関連問題を解くこと
	9	帳簿組織（仕訳帳と元帳その2）	参考文献の関連問題を解くこと
	10	試算表	参考文献の関連問題を解くこと
	11	6桁精算表	参考文献の関連問題を解くこと
	12	決算（その1）	参考文献の関連問題を解くこと
	13	決算（その2）	参考文献の関連問題を解くこと
	14	現金・預金の取引	参考文献の関連問題を解くこと
	15	当座預金と小口現金	参考文献の関連問題を解くこと
	16	中間テスト	
	17	商品売買取引（その1）	参考文献の関連問題を解くこと
	18	商品売買取引（その2）	参考文献の関連問題を解くこと
	19	商品売買取引（その3）	参考文献の関連問題を解くこと
	20	掛取引と人名勘定	参考文献の関連問題を解くこと
	21	手形取引	参考文献の関連問題を解くこと
	22	その他の債権・債務（その1）	参考文献の関連問題を解くこと
	23	その他の債権・債務（その2）	参考文献の関連問題を解くこと
	24	有価証券の売買	参考文献の関連問題を解くこと
	25	固定資産取引（その1）	参考文献の関連問題を解くこと
	26	固定資産取引（その2）	参考文献の関連問題を解くこと
	27	個人企業の資本と税金	参考文献の関連問題を解くこと
	28	決算（その3）	参考文献の関連問題を解くこと
	29	決算（その4）	参考文献の関連問題を解くこと
30	8桁精算表	参考文献の関連問題を解くこと	
31	期末テスト		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト：『簿記の技法とシステム』上江洲由正、大城建夫編著、同文館  参考文献：『検定簿記ワークブック商業簿記3級』、中央経済社</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <p>履修の心構え：簿記は欠席したら次の授業が全く理解できなくなるので出欠の確認を毎回行う。病気等で休む場合はその日の授業内容を授業計画、時間外学習の内容を参考に必ず自学・自習しておくこと。また、簿記は実際にペンを取り内容を書き留めないと理解できないので、授業内容をしっかりノートに取るのが求められる。さらに商業簿記Iの理解度をより深めるために時間外学習でワークブックの問題を自主的により多く解くことが望まれる。</p>
	<p>評価</p> <p>成績の評価は中間テスト40%、期末テスト40%、宿題の提出状況や受講態度など20%で行う。受講態度はテキストを持参し、まじめに受講しているかどうかを中心に評価する。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>商業簿記Iの発展的学習として上位科目である商業簿記IIの履修を推奨する。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	商業簿記 I	前期	月 2・木 1	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	清村 英之	1 年	・研究室：5627室 ・メール：hkiyomura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	会社の活動を記録し、計算・整理する技術を簿記といます。簿記を行うことによって、会社は自己の財産を管理することができ、経営成績（いくらもうかったか）と財政状態（財産や借金がいくらあるか）を知ることができます。この講義では、取引の仕訳から元帳への転記、試算表・精算表・財務諸表の作成にいたる簿記一巡の手続を解説します。	簿記は「ビジネスの言語」といわれており、ビジネスの世界で活躍するためには必須のスキルです。将来の活躍を目指し、このクラスでしっかりと基礎を固めてください。また、この講義は日商簿記検定試験 3 級の範囲に対応しています。早い段階でチャレンジするといいでしょう。
到達目標	① 簿記の基礎概念を理解し、説明できる。 ② 現金取引、商品売買取引、手形取引などの諸取引を仕訳（記録）できる。 ③ 上記②の諸取引を現金出納帳、仕入帳・売上帳、商品有高帳などに記帳できる。 ④ 個人企業の損益計算書と貸借対照表を作成できる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	—
	2	簿記の基礎：企業の簿記	講義内容の復習
	3	簿記の基礎：資産・負債・純資産と貸借対照表	同上
	4	簿記の基礎：収益・費用と損益計算書	同上
	5	簿記の基礎：取引と勘定	同上
	6	簿記の基礎：仕訳と転記	同上
	7	簿記の基礎：仕訳帳と元帳	同上
	8	簿記の基礎：試算表	同上
	9	簿記の基礎：精算表	同上
	10	簿記の基礎：決算（その 1）	同上
	11	簿記の基礎：決算（その 1）	同上
	12	簿記の基礎：財務諸表の作成	同上
	13	諸取引の処理：現金と預金	同上
	14	諸取引の処理：現金と預金	同上
	15	諸取引の処理：商品売買	同上
	16	諸取引の処理：商品売買	同上
	17	諸取引の処理：売掛金と買掛金	同上
	18	諸取引の処理：手形	同上
	19	諸取引の処理：手形	同上
	20	諸取引の処理：その他の債権・債務	同上
	21	諸取引の処理：有価証券	同上
	22	諸取引の処理：有価証券	同上
	23	諸取引の処理：固定資産	同上
	24	諸取引の処理：固定資産	同上
	25	諸取引の処理：資本金と引出金	同上
	26	伝票	同上
	27	決算（その 2）	同上
	28	決算（その 2）	同上
	29	決算（その 2）	同上
30	決算（その 2）	同上	
31	期末テスト	—	

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テキスト：清村英之『簿記が基礎からわかる本（第2版）』同文館出版，平成28年12月，2,300円＋税。</li> <li>・問題集：渡部裕亘他『新検定簿記ワークブック3級／商業簿記』中央経済社，平成29年2月，700円＋税。</li> </ul>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <p>履修上の注意事項／心構え：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業システム学科の学生しか履修できません（2年次以上は編入生・転籍者のみ）。</li> <li>・例年，遅刻や欠席の多い学生は単位を修得できていません。遅刻・欠席をしないように心がけてください。</li> </ul> <p>学びを深めるために：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経済やビジネスに関する新聞記事・ニュースに興味を持ちましょう（新聞は図書館に各紙揃っています）。</li> <li>簿記の知識が付くにつれて，これらの記事・ニュースが理解できるようになります。</li> </ul>
	<p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平常点……20点（講義中の取組みを評価します）</li> <li>・テスト……80点（上記「到達目標」を評価します。5～6回行う予定です）</li> </ul>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関連科目：簿記演習Ⅰ（1年次），商業簿記Ⅱ（2年次）など，会計コースの諸科目</li> </ul>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	商業簿記 I	後期	月2・木1	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-名城 佳枝	1年		

学びの準備	ねらい 本授業では、ビジネスに必要な簿記の基本的な知識を学び、実務でいかにせるよう記帳、決算等の理解を深めていくことを目的としています。	メッセージ 本授業で、日商簿記検定試験3級商業簿記の範囲を学習します。テキストで解説を行い、ワークブックで問題を解いてもらいます。簿記は、出来るだけ問題を多く解くことが習得への第一歩です。
	到達目標 商業簿記の基礎的な知識を習得し、日商簿記検定試験3級取得を目指します。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・登録	
	2	簿記の意義と仕組み	
	3	仕訳と転記	
	4	仕訳帳と元帳	
	5	決算の概要	
	6	現金・現金過不足	
	7	当座預金・当座借越	
	8	小口現金	
	9	商品売買・三分法	
	10	商品有高帳	
	11	売掛金・買掛金	
	12	前払金・前受金	
	13	その他の債権と債務	
	14	その他の債権と債務	
	15	まとめ復習	
	16	受取手形と支払手形	
	17	有価証券	
	18	〃	
	19	固定資産	
	20	減価償却	
	21	貸倒損失と貸倒引当金	
	22	資本金と引出金	
	23	収益と費用	
	24	〃	
	25	伝票	
	26	試算表の作成	
	27	〃	
	28	決算整理事項	
	29	精算表の作成	
30	財務諸表の作成		
31	期末テスト		



学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>『簿記が基礎からわかる本』 清村英之著 同文館出版  『平成29年度版検定簿記ワークブック3級商業簿記』 渡部裕恒・片山覚・北村敬子編著 中央経済社  電卓必携</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <p>最初の基本的なルールを理解していないと、全く問題を解けなくなってしまいます。授業を休んでしまったり、理解できないところがあるときは、次の授業までに解消すること。わからないところは、積極的に質問して下さい。</p>
学 び の 継 続	<p>評価</p> <p>期末テスト70点、平常点（授業中の課題への取り組み、授業内でのミニテスト等）30点</p> <p>次のステージ・関連科目</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	商業簿記 I	前期	月2・木1	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-名城 佳枝	1年		

学びの準備	ねらい 本授業では、ビジネスに必要な簿記の基本的な知識を学び、実務でいかにせるよう記帳、決算等の理解を深めていくことを目的としています。	メッセージ 本授業で、日商簿記検定試験3級商業簿記の範囲を学習します。テキストで解説を行い、ワークブックで問題を解いてもらいます。簿記は、出来るだけ問題を多く解くことが習得への第一歩です。
	到達目標 商業簿記の基礎的な知識を習得し、日商簿記検定試験3級取得を目指します。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・登録	
	2	簿記の意義と仕組み	
	3	仕訳と転記	
	4	仕訳帳と元帳	
	5	決算の概要	
	6	現金・現金過不足	
	7	当座預金・当座借越	
	8	小口現金	
	9	商品売買・三分法	
	10	商品有高帳	
	11	売掛金・買掛金	
	12	前払金・前受金	
	13	その他の債権と債務	
	14	その他の債権と債務	
	15	まとめ復習	
	16	受取手形と支払手形	
	17	有価証券	
	18	〃	
	19	固定資産	
	20	減価償却	
	21	貸倒損失と貸倒引当金	
	22	資本金と引出金	
	23	収益と費用	
	24	〃	
	25	伝票	
	26	試算表の作成	
	27	〃	
	28	決算整理事項	
	29	精算表の作成	
30	財務諸表の作成		
31	期末テスト		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>『簿記が基礎からわかる本』清村英之著 同文館出版  『平成29年度版検定簿記ワークブック3級商業簿記』渡部裕恒・片山覚・北村敬子編著 中央経済社  電卓必携</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <p>最初の基本的なルールを理解していないと、全く問題を解けなくなってしまいます。授業を休んでしまったり、理解できないところがあるときは、次の授業までに解消すること。わからないところは、積極的に質問して下さい。</p>
学 び の 継 続	<p>評価</p> <p>期末テスト70点、平常点（授業中の課題への取り組み、授業内でのミニテスト等）30点</p> <p>次のステージ・関連科目</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	商業簿記Ⅱ	後期	月2・木1	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-上江洲 由正	1年	uezu@tm.u-ryukyu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	われわれの社会的・経済的生活にとって絶対に必要な企業の経営活動を情報化する技法である複式簿記の技法や知識について、株式会社の経営活動に焦点を当てた商業簿記を中心に講義する。具体的には有価証券の特殊取引、収益・費用の計上、株式会社の簿記、リース取引の簿記、企業集団の簿記などを講義し、簿記の技法や知識をさらに深める。	簿記は授業を聞くだけでは理解できないので、毎回、授業の展開プリントの問題一解答解説という流れで授業を行います。理詰めのわかりやすい授業を心がけますが、分からないことがあればどんなことでもいいので授業中あるいは授業の前後にどんどん質問してください。
到達目標	毎回の授業で練習問題を解いてもらうことにより簿記の技法・知識に対する理解が深まり、また時間外で自主学習でワークブックの練習問題を解いてもらうことにより自律性が涵養されるようになる。さらに企業の経営活動を簿記の技法に基づいて情報化するので、情報リテラシーを高めることができる。日本商工会議所主催の簿記検定2級に合格できる簿記の技法・知識を習得することができるので、簿記検定に合格することにより専門的能力の社会的評価を高めることができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンスおよび商業簿記Ⅰの復習	
	2	有価証券の特殊取引(その1)	参考文献の関連問題を解くこと
	3	有価証券の特殊取引(その2)	参考文献の関連問題を解くこと
	4	収益・費用の計上(その1)	参考文献の関連問題を解くこと
	5	収益・費用の計上(その2)	参考文献の関連問題を解くこと
	6	収益・費用の計上(その3)	参考文献の関連問題を解くこと
	7	特殊な取引の記帳(その1)	参考文献の関連問題を解くこと
	8	特殊な取引の記帳(その2)	参考文献の関連問題を解くこと
	9	特殊な取引の記帳(その3)	参考文献の関連問題を解くこと
	10	リース取引の記帳(その1)	参考文献の関連問題を解くこと
	11	リース取引の記帳(その2)	参考文献の関連問題を解くこと
	12	リース取引の記帳(その3)	参考文献の関連問題を解くこと
	13	株式会社の簿記(その1)	参考文献の関連問題を解くこと
	14	株式会社の簿記(その2)	参考文献の関連問題を解くこと
	15	株式会社の簿記(その3)	参考文献の関連問題を解くこと
	16	中間テスト	
	17	海外との取引の記帳(その1)	参考文献の関連問題を解くこと
	18	海外との取引の記帳(その2)	参考文献の関連問題を解くこと
	19	海外との取引の記帳(その3)	参考文献の関連問題を解くこと
	20	本支店取引の記帳(その1)	参考文献の関連問題を解くこと
	21	本支店取引の記帳(その2)	参考文献の関連問題を解くこと
	22	本支店取引の記帳(その3)	参考文献の関連問題を解くこと
	23	企業集団の簿記(その1)	参考文献の関連問題を解くこと
	24	企業集団の簿記(その2)	参考文献の関連問題を解くこと
	25	企業集団の簿記(その3)	参考文献の関連問題を解くこと
	26	企業集団の簿記(その4)	参考文献の関連問題を解くこと
	27	企業集団の簿記(その5)	参考文献の関連問題を解くこと
	28	税効果の簿記(その1)	参考文献の関連問題を解くこと
	29	税効果の簿記(その2)	参考文献の関連問題を解くこと
30	総まとめ	参考文献の関連問題を解くこと	
31	期末テスト		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト：『簿記の技法とシステム』上江洲由正、大城建夫編著、同文館  参考文献：『検定簿記ワークブック商業簿記2級』、中央経済社</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <p>履修の心構え：簿記は欠席したら次の授業が全く理解できなくなるので出欠の確認を毎回行う。病気等で休む場合はその日の授業内容を授業計画、時間外学習の内容を参考に必ず自学・自習しておくこと。また、簿記は実際にペンを取り内容を書き留めないと理解できないので、授業内容をしっかりノートに取るのが求められる。さらに商業簿記Iの理解度をより深めるために時間外学習でワークブックの問題を自主的により多く解くことが望まれる。</p>
	<p>評価</p> <p>成績の評価は中間テスト40%、期末テスト40%、宿題の提出状況や受講態度など20%で行う。受講態度はテキストを持参し、まじめに受講しているかどうかを中心に評価する。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>商業簿記Ⅱの発展的学習として上位科目である会計学Ⅰおよび会計学Ⅱの履修を推奨する。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	商業簿記Ⅱ	後期	月2・木1	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	清村 英之	1年	・研究室：5627室 ・メール：hkiyomura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この講義では、前期の「商業簿記Ⅰ」で学んだ簿記の基礎・基本を踏まえ、株式会社会計、本支店会計、連結会計など、一歩進んだ簿記の手続を解説します。	メッセージ (株)リクルート・キャリアの調査によれば、企業が応募者に求める資格のトップ1は日商簿記検定試験2級だそうです ( <a href="http://www.r-agent.com/guide/ranking/shikaku/">http://www.r-agent.com/guide/ranking/shikaku/</a> )。この講義は2級の範囲に対応しているため、講義内容をしっかり理解し、2年次で工業簿記を学べば、2級にチャレンジできます。早い段階での取得を目指しましょう。
	到達目標 ① リース取引や外貨建取引などの高度な諸取引、株式会社に固有の諸取引を仕訳（記録）できる。 ② 株式会社の損益計算書と貸借対照表を作成できる。 ③ 連結会計の必要性を理解し、連結財務諸表を作成できる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	—
	2	諸取引の処理：現金と預金	講義内容の復習
	3	諸取引の処理：商品売買	同上
	4	諸取引の処理：売掛金と買掛金	同上
	5	諸取引の処理：手形	同上
	6	諸取引の処理：その他の債権・債務	同上
	7	諸取引の処理：有価証券	同上
	8	諸取引の処理：有形固定資産	同上
	9	諸取引の処理：無形固定資産と投資その他の資産	同上
	10	諸取引の処理：リース取引	同上
	11	諸取引の処理：外貨建取引	同上
	12	株式会社の会計：会社設立	同上
	13	株式会社の会計：剰余金の配当と処分	同上
	14	株式会社の会計：合併・買収	同上
	15	株式会社の会計：税金	同上
	16	決算	同上
	17	決算	同上
	18	決算	同上
	19	財務諸表の作成	同上
	20	財務諸表の作成	同上
	21	財務諸表の作成	同上
	22	財務諸表の作成	同上
	23	本支店会計：本支店間・支店相互間取引	同上
	24	本支店会計：本支店合併財務諸表の取引	同上
	25	連結会計：資本連結	同上
	26	連結会計：資本連結	同上
	27	連結会計：連結会社間の取引	同上
	28	連結会計：連結会社間の取引	同上
	29	連結会計：連結財務諸表の作成	同上
30	連結会計：連結財務諸表の作成	同上	
31	期末テスト	—	

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テキスト：清村英之『簿記が基礎からわかる本（第2版）』同文館出版，平成28年12月，2,300円＋税。</li> <li>・問題集：渡部裕亘他『新検定簿記ワークブック2級／商業簿記』中央経済社，平成29年3月，700円＋税。</li> </ul>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <p>履修上の注意事項／心構え：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「商業簿記Ⅰ」を履修済みの学生しか登録できません。</li> <li>・企業システム学科の学生しか登録できません（1年次を優先します）。</li> <li>・例年，遅刻や欠席の多い学生は単位を修得できていません。遅刻・欠席をしないように心がけてください。</li> </ul> <p>学びを深めるために：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経済やビジネスに関する新聞記事・ニュースに興味を持ちましょう（新聞は図書館に各紙揃っています）。</li> <li>・簿記の知識が付くにつれて，これらの記事・ニュースが理解できるようになります。</li> </ul>
	<p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平常点……20点（講義中の取組みを評価します）</li> <li>・テスト……80点（上記「到達目標」を評価します。5～6回行う予定です）</li> </ul>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関連科目：簿記演習Ⅱ（2年次），工業簿記ⅠⅡ（2年次）など，会計コースの諸科目</li> </ul>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	消費者行動演習	前期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	原田 優也	2年	mongkhol@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義は、①消費者行動に関する基本的概念である消費者ニーズ・消費者のライフスタイルおよび消費者個人へ与える内的外的要因を紹介する。つぎに、②消費者がブランド品・サービスなどを購入の際、どのような意思決定過程を行うのかを理解する。最後に、③消費者行動に影響を与えるマーケティング活動について事例を調べ、グラス内で発表し、理解することを目的とする。	メッセージ 経営学やマーケティング関連の講義を受講していることが望ましい
	到達目標 ○消費者の購買意思決定プロセス（购买前・購買・購買後）を理解する。 ○企業経営に活かすマーケティング戦略を立案する能力を身に付けること。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス：講義の概要説明	
2	マーケティングとは、消費者行動とは	テキストを読む	
3	消費者行動研究の歴史と発展過程・調査テーマ設定	同上	
4	消費者行動に影響を与えるマーケティング活動および調査方法	同上	
5	グループ発表1	グループ学習活動、発表練習など	
6	グループ発表2	同上	
7	グループ発表3	同上	
8	グループ発表4	同上	
9	グループ発表5	同上	
10	グループ発表6	同上	
11	グループ発表7	同上	
12	グループ発表8	同上	
13	グループ発表9	同上	
14	グループレポート作成1	同上	
15	グループレポート作成2	同上	
16	レポート提出		
	テキスト・参考文献・資料など 杉本徹雄編（2012）『新・消費者理解のための心理学』福村出版 平久保仲人著（2006）『消費者行動論』、ダイヤモンド社 恩蔵直人監修（1999）『コトラーのマーケティング入門』ピアソンエデュケーション		
	学びの手立て		
	評価 ◇フィールドワークへの取り組み方（30%） ◇レポートの内容（30%） ◇プレゼンテーションの内容と討論（40%） 総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：市場調査演習、グローバルマーケティング演習、次のステージ：専門演習I・II、卒業論文演習I・II
-------	--



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	消費者行動概論	前期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-野原 寿加子	2年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>マーケティング活動を行ううえで知っておかなくてはいけない消費者行動について、理論や分析の枠組みを体系的に学んでいきます。なぜ買うのか、どのように買うのかなど、消費や購買における動機やプロセスの仕組みを学ぶことで消費者を理解し、より効果的なマーケティング活動に活かすことを目的とします。</p>	<p>消費者行動では消費者の心理と行動を分析して、効果的な企業の戦略を考えていこうという学問です。消費者の心理や行動に関することは身近にもたくさんありますし、自分にも関わりのある学問なんだということを知ってもらって、大きな関心と興味を示してくれるように、なるべくわかりやすく親しみのある商品や企業の例を多く取り入れて説明するように心がけていきます。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消費者行動が、なぜ効果的なマーケティングに必要なのか理解している</li> <li>・消費者がなぜ買うのか、どのように買うのかなど購買における動機やプロセスの仕組みについて理解している</li> <li>・商品を購入する際の情報探索の過程や生活様式・消費様式など社会の変化が、消費者行動や市場にどう影響を与えているのか理解している</li> </ul>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	指定テキストを事前によく読む
	2	消費者行動とマーケティング	同上
	3	市場の把握と消費者理解	同上
	4	消費行動の分析フレーム	同上
	5	購買行動の分析フレーム	同上
	6	消費者行動研究	同上
	7	購買動機の研究	同上
8	行動の測定と予測	同上	
9	消費様式の選択メカニズム	同上	
10	購買意思決定プロセス	同上	
11	購買意思決定プロセスの変容	同上	
12	消費者の情報処理とブランド知能	同上	
13	消費者の関与水準とコミットメント	同上	
14	消費者関与と情報処理プロセス	同上	
15	まとめ	同上	
16	期末試験	同上	
実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>【テキスト】青木幸弘 「消費者行動の知識」 日経文庫 必要時にプリントを配布します</p>		
	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出欠確認を毎回行います。やむおえず欠席する場合は必ず欠席届とそれを証明できるものをセットにして提出してください</li> <li>・受動的に学ぶのではなく、能動的に学ぶ姿勢を期待しています。そのため自分で考える！ということが大切になってきます。質問や意見がある場合はその都度それを、どんどん述べて下さい</li> </ul>		
	<p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 期末試験 70点</li> <li>(2) 課題提出 20点</li> <li>(3) 出席・授業態度 10点</li> <li>(1) ~ (3) を統合的に踏まえた上で評価します</li> </ul>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本講義で消費者行動の理論を理解することにより、後期の「消費者行動演習」でより実践的に消費者行動と社会の動きの関連を理解できる</li> </ul>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報概論	前期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	又吉 光邦	1年	matayosi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	現代における情報化社会において、多種多様な情報が存在する。そして、これらの情報は効率よく利用されなければ、情報本来の意味を持たない。ここで、計算機（コンピュータ）の存在は必要不可欠なものとなるが、多くの情報は計算機によって生産、加工、蓄積されている。本講義では、計算機の歴史、仕組み、論理演算、発展を通して、情報とその利用法との関わりについて学ぶ。	
到達目標		

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	計算機の歴史	
	3	計算機の構造	
	4	符号化	
	5	論理演算	
	6	論理演算の回路	
	7	トランジスタの基本的な仕組み	
	8	CPUの仕組みと構造	
	9	コンピュータの種類と用途 その1	
	10	コンピュータの種類と用途 その2	
	11	プログラムの仕組み その1	
	12	プログラムの仕組み その2	
	13	ソフトウェアとハードウェア その1	
14	ソフトウェアとハードウェア その2		
15	コンピュータの最先端と未来		
16	期末試験		
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキスト：毎回講義で使用するパワーポイントをテキストとします（ポータルにアップロードします）。</p> <p>参考文献：「コンピュータの動く仕組み」、日東書院、音葉哲・大槻有一郎、情報科学入門（日本理工出版会，佐々木良一，他 著），その他。</p>		
学びの手立て			
評価	出席状況と期末試験で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 プログラミングB
-------	-------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報リテラシー演習	後期	水 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	仲地 健	1年		

学びの準備	ねらい 情報リテラシーとは、コンピュータを使った「読み・書き」などができる能力といわれている。情報化社会においては、単にコンピュータが使えるのではなく、目的に応じて柔軟に対応できることが必要となる。本講義では、ワープロ・表計算・プレゼンテーションソフトウェアの技能を身につけた者を対象として、ウェブサイト作成（HTML）を学ぶ。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	HTMLの基礎	
	3	文字のデザイン・カラーコード	
	4	リンク	
	5	スタイルシート	
	6	画像の加工方法	
	7	テーブル	
	8	フォーム	
	9	フレーム	
	10	ギャラリーページ	
	11	タグ以外のテクニック①	
	12	タグ以外のテクニック②	
	13	課題の実習①	
	14	課題の実習②	
	15	課題のプレゼンテーション	
	16	総括	
	テキスト・参考文献・資料など 開講時に指定する。 開講時に指定する。		
	学びの手立て		
	評価 課題・出席状況を総合的に判断し評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報リテラシー演習	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	仲地 健	1年		

学びの準備	ねらい 情報化社会においては、単にコンピュータが使えるのではなく、目的に応じて柔軟に対応できることが必要となる。本講義では、ワープロ・表計算・プレゼンテーションソフトウェアの技能を身につけた者を対象として、ウェブサイト作成（HTML）を学ぶ。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	HTMLの基礎	
	3	文字のデザイン・カラーコード	
	4	リンク	
	5	スタイルシート	
	6	画像の加工方法	
	7	テーブル	
8	フォーム		
9	フレーム		
10	ギャラリーページ		
11	タグ以外のテクニック①		
12	タグ以外のテクニック②		
13	タグ以外のテクニック③		
14	課題の実習①		
15	課題の実習②		
16	プレゼンテーション		
	テキスト・参考文献・資料など		
	学びの手立て		
	評価		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	人的資源管理論Ⅰ	前期	水4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩橋 建治	2年	kiwahashi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 授業では、今日の人的資源管理（人事管理・労務管理）において見られる、さまざまなヒューマングループをとりあげ、そこでの問題を明らかにしていく。さらに、人的資源管理の諸制度とその動向を学ぶことで、従業員たちがよりよく働けるようになるための考え方の枠組を探求していく。	メッセージ 企業において「ひと」は、重要な資源のひとつである。ひとはなぜ働くのか。どうすれば目標を見だし努力するようになるのか。これらの問題について、働く環境が近年どのように変化しつつあるのかを踏まえた上で、検討していく。
	到達目標 ①働く場で生じる諸問題を理解する。②問題を解決しようとする際に生じるジレンマを知る。③業種・職種・その他状況に即した問題解決を提案できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 1. 人的資源管理（人事管理・労務管理）とは 2. 職務と組織の設計 (1) 職務設計 (2) 組織設計 3. ヒューマングループと人的資源管理 (1) 女性労働者 (2) 非正規労働者 (3) 高齢労働者 (4) 技術者 (5) 海外派遣労働者 4. 人的資源管理制度とその変化 (1) 雇用管理 (2) 労使関係 (3) ワーク・ライフ・バランス
	テキスト・参考文献・資料など 適宜プリントを配布する。
	学びの手立て 現実を多様な角度からとらえることが大切である。なぜ働くのかについて、意識を高めて欲しい。
	評価 期末試験（80%）、中間レポート（20%）

学びの継続	次のステージ・関連科目 人的資源管理論Ⅱ、および経営コースの各科目。
-------	---------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	人的資源管理論Ⅱ	後期	水4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩橋 建治	2年	kiwahashi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 組織のなかの人間行動への理解を深める。人的資源管理（人事管理・労務管理）の諸制度とその動向を検討したうえで、職場における「ひと」の働きに関する諸理論を学ぶ。	メッセージ 人間関係はなぜ重要なのか、どうすれば働く気になるのか、効果的なリーダーシップとはどのようなものか、人々を統合する企業理念とはいかなるものか、個人と組織との一体化にはどのような長所と短所があるのか、そして組織への愛着と誇りはいかにして生まれるのか、などのような問いについて考えていく。
	到達目標 ①働く場で生じる諸問題を理解する。②問題を解決しようとする際に生じるジレンマを知る。③業種・職種・その他状況に即した問題解決を提案できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 1. 人的資源管理制度とその変化 (1) 賃金 (2) 昇進管理 (3) キャリアと人材育成 2. 職場におけるひとの働き (1) 働く動機づけ（モチベーション） (2) リーダーシップ (3) 組織文化・企業理念 (4) 組織学習 (5) チームワーク
	テキスト・参考文献・資料など 適宜プリントを配布する。
	学びの手立て 現実を多様な角度からとらえることが大切である。「ひと」を扱う研究の性質上、心理学・社会学の理論も多用される。
	評価 期末試験（80%）、中間レポート（20%）

学びの継続	次のステージ・関連科目 人的資源管理論Ⅰ、および経営コースの各科目。
-------	---------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	前期	木 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	菅森 聡	3年		

学びの準備	ねらい この演習では、管理会計に関する専門的な知識を習得し、現代企業に関する分析課題を自ら設定しプレゼンテーションすることで基礎力、応用力を養うことを目的としています。	メッセージ 管理会計は企業の経済活動が一定の成果をあげられるように、経営者や各階層の管理者に対して、経営管理のための財務情報や非財務情報を提供するものです。管理会計を深く理解することは企業の活動がどのようなものかということを知ることにつながっていきます。管理会計だけでなく、これを利用する企業とその活動に興味を持って取り組んでください。
	到達目標 ・専門書について報告・議論をすることで、プレゼンテーション能力とテーマについて考える能力を身に付ける。 ・自ら設定した発表をすることで、自主的な問題設定とその解決の能力を身に付ける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	
	1		
	2		
		時間外学習の内容	
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		
	テキスト・参考文献・資料など 授業内で連絡します。		
	学びの手立て ・無断欠席、遅刻は厳禁です。やむを得ず欠席する場合は、事前にメールで連絡をしてください。 ・報告や発表が多くあります。ゼミの場で活発な議論を行うために設定した教科書を熟読し、疑問や意見を持つようにしてください。		
	評価 平常点（ゼミへの意欲・積極性）50%と課題（発表とレジュメなど）50%で評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目 原価計算Ⅰ、原価計算Ⅱ、業績管理会計、戦略管理会計
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	前期	木 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	髭白 晃宜	3年	t.higeshiro@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>①卒論執筆に必要とされる技能の習得。                  ②グループワーク、フィールドワークの実践。                  ③卒論執筆にむけて各自の研究に対する問題意識の明確化。</p>	<p>本演習では基礎文献の購読を通じて、日本型流通の近現代史を歴史を学ぶと同時に、レジュメ作成や報告等の技法を訓練して、卒論執筆に必要な技能を習得していきます。                  また、沖縄県内の商店街でフィールドワークを予定しています。商店街の活性化について学生の視点から取り組み、問題解決のための提言をまとめてもらいます。</p>
到達目標	<p>①商業と都市・市場の発展に関わる問題への興味関心を喚起する。                  ②これまでに習得したマーケティングに関する知識の活用と応用。                  ③レポート・論文執筆および口頭報告のための基礎・応用能力の習得。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	レジュメ作成方法とスライド作成方法について	
	3	ゼミにおける議論の進め方について	課題テキスト報告の準備作業
	4	課題テキスト報告①	使用テキストの熟読と疑問点の列挙
	5	課題テキスト報告②	同上
	6	課題テキスト報告③	同上
	7	課題テキスト報告④	同上
	8	課題テキスト報告⑤	同上
	9	課題テキスト報告⑥	レポート課題の提出
	10	フィールドワーク①：沖縄県商店街の調査①	グループによる共同調査作業
	11	フィールドワーク②：沖縄県商店街の調査②	同上
	12	フィールドワーク③：沖縄県商店街の調査③	同上
	13	フィールドワーク④：沖縄県商店街の調査④	中間報告にむけて準備作業
14	フィールドワーク⑤：中間報告①	これまでの調査内容をまとめる	
15	フィールドワーク⑥：中間報告②	同上	
16	卒業論文執筆にむけて	卒業論文のテーマ設定	
実践	テキスト・参考文献・資料など ※以下のテキストを講義の際に必ず持参すること。 使用テキスト： 満菌勇『商店街はいま必要なのか』講談社現代新書（講談社），2015年		
学びの手立て	①テキストは必ず購入して、時間外に必ず予習・復習ができる態勢を整えてください。 ②欠席5回以上で成績評価は「不可」となります。また、30分以上の遅刻は欠席扱いとします。 ③ゼミ内で頻繁に報告を行います。時間外作業の必要があります。 ④商店街のフィールドワークを行う予定です。時間外調査の必要があります。 ⑤ゼミ員相互の交流や情報交換は密に行うように。ゼミは参加者全員で行うものです。		
評価	◆課題テキスト報告：30点 ◆フィールドワーク中間報告：30点 ◆レポート課題：25点 ◆ミニレポート：15点（毎講義中に課すレポートのこと：講義数15回×各回1点） 合計：100点満点		

学びの継続	次のステージ・関連科目 より専門性を有するテーマについて、自らで調査・分析・考察を行うことができるスキルを養います。 「卒業論文演習 I」に向けて、学生の興味関心のあるテーマ・問題意識を引き出します。
-------	--



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	前期	木 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	原田 優也	3年	mongkhol@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>フィールドワーク（現場）に出てマーケティングのビジネス環境、広告活動、地域消費者、地域物流などに触れ、観察や聞き取り調査などを行うことによって、ビジネス仕組み、マーケティングの仕組みを学ぶことが重要な技法の一つとされている。フィールドワークを通じて、マーケティングの楽しさを体験してもらうことが本科目の目的である。</p>	<p>●ビジネス実例を体験するマーケティング専門科目であり、フィールドワーク（現場）を通じてビジネス実態を知ること。 ●演習、実習の形式を併用して授業を行う。 ●マーケティングコースの基礎演習I・IIの単位取得者が望ましい。 ●原則として講義中、または休暇期間中に学外調査実習（現地調査）を行う。</p>

到達目標	<p>1) ビジネス課題を発見し、調査目的・調査方法・調査活動・分析方法などを企画できる基礎能力を育成する。 2) ビジネス課題に対して、自分で考える力を身につける。 3) 調査報告書・レポートおよび卒業論文の作成能力を習得する。</p>
------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・ゼミ運営の紹介	指定テキストを読む
	2	マーケティングによるフィールドワーク	指定テキストを読む
	3	ビジネス課題と現地調査の文献・関連資料の収集 ①	パワーポイントでスライドを作成
	4	ビジネス課題と現地調査の文献・関連資料の収集 ②	同上
	5	企業訪問・現地調査の準備 1□	発表の準備・調査先の検討
	6	企業訪問・現地調査の準備 2□	同上
	7	企業訪問・現地調査の準備 3□	同上
	8	フィールドワーク（企業訪問・現地調査）実施 ①	データ整理・分析方法の検討
	9	フィールドワーク（企業訪問・現地調査）実施 ②	同上
	10	フィールドワーク（企業訪問・現地調査）実施 ③	同上
	11	企業訪問および現地調査発表会 1□	報告と討論の準備
	12	企業訪問および現地調査発表会 2□	同上
	13	企業訪問および現地調査発表会 3□	同上
	14	レポート作成 ①	レポート作成
15	レポート作成 ②	同上	
16	レポート提出		

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>◇フィリップ・コトラー、ヘルマワ・カルタジャヤ・ホイ・デンファン（2007）『ASEANマーケティング』McGrawHill ◇恩蔵直人監修（1999）『コトラーのマーケティング入門』ピアソンエデュケーション ◇田中洋（2008）『消費者行動論体系』中央経済社、◇その他使用テキストについては講義中に紹介します</p>
----	--

学びの手立て	<p>【履修の心構え】</p> <p>1) 第1回目の授業は必ず出席すること。 2) ゼミ生はフィールドワークに必ず参加すること。 3) 授業に参加し、積極的に学ぶ姿勢（報告に対する質疑応答、パティシペーションなど）が必要である。 4) 楽しくやること。</p>
--------	---

評価	<p>◇フィールドワークへの取り組み方（30%） ◇レポートの内容（30%） ◇プレゼンテーションの内容と討論（40%） 総合的に評価する。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目： 市場調査演習、グローバルマーケティング総論、グローバルマーケティング演習 次のステージ： マーケティングコースの専門演習II、卒業論文演習I、卒業論文演習II</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	前期	火 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	清村 英之	3年	・研究室：5627室 ・メール：hkiyomura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この演習では、「使える会計知識」「役に立つ会計技法」を身につけることを目指して、会計が現代の経済社会の中でどのような役割を果たしているのか、会計の知識を得ることのできるのかを学びます。ただし、会計データの使い方を学ぶためには、その作り方を知らなければならぬので、この一年間は会計データの作り方に重点をおきます。	3年生になると、そろそろ就活が気になります。清村ゼミ・オリジナルの自己分析シートへの記入や、4年生・OBOG（卒業生）との交流などを通じて、就職への意識を高めていきます。

学びの準備	到達目標
	① 財務諸表の社会的役割や会計理論・制度を理解し、説明できる。 ② PCを利用した情報収集・分析能力を身に付ける。 ③ 経営分析を行うために必要なスキルを身に付ける。

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）
	① 3～4人のグループを作り、グループで分析する業界と個人で分析する企業を選択します。2016年度のゼミ生が選んだ業界・企業は、以下のとおりです。 ・Aグループ：化粧品（資生堂、コーセー、ファンケル、ポーラ） ・Bグループ：自動車（日産、スバル、スズキ、三菱） ・Cグループ：外食（ゼンショー、サイデリア、ジョイフル、ロイヤル） ・Dグループ：製菓（グリコ、不二家、ブルボン、森永製菓） ・Eグループ：テレビ（フジ、TBS、日テレ、テレ朝） ② インターネット等を利用して企業情報（特に会計情報）を収集し、様々な手法を用いてこれを分析し、その結果を発表します（この一年間は貸借対照表と損益計算書の趨勢分析を行います）。 ③ 資産会計、負債会計、純資産会計、収益会計、費用会計などのテーマを各グループに割り振り、その発表と討論を通じ、会計学の理解を深めます（「授業のねらい」にも書いたように、この一年間は会計データの作り方の学習に重点を置きます）。 ④ 発表のための準備、発表を聞いて討論するための準備に多くの時間外学習が求められます。

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など ・テキスト：使用しません。 ・参考文献：講義中に紹介します。
-------	---

学びの実践	学びの手立て 次のような学生を希望します。 ・遅刻や欠席をしない人。 ・ゼミの時間に積極的に発言できる人。 ・ゼミの行事を優先し、ゼミ会、ゼミ合宿、学祭などに参加できる人。2016年度のゼミ生が行ったゼミ会は、以下のとおりです。 4月：ゼミ歓迎会、5月：体育祭、6月：3・4年生合同飲み会、7月：前期打上げ、 8月：3・4年生合同BBQ、10月：OBOG会、11月：学祭、12月：クリスマス、 1月：セミナーハウスでの合宿、2月：運動会
-------	---

学びの実践	評価 ・平常点……50点（質疑応答への積極性や、ゼミに対する意欲・貢献度を評価します） ・課題……50点
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：経営分析・同演習（3年次）、財務会計ⅠⅡ（3年次）など、会計コースの諸科目
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	前期	月 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩橋 建治	3年	kiwahashi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	人的資源管理を中心とした、経営学に関するテキストの輪読、報告、および討論を行うことで、卒業論文執筆に向けて専門的な知識・理論を習得する。	好きになれるテーマや事例を見つけることが最重要。納得のいくまで悩んでほしい。何を書いたらいいか分からないときは、とにかくいろいろ読んでみる。

到達目標	前期ゼミ終了までに個々の卒業論文の仮構成・仮タイトルを決定する。
------	----------------------------------

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>（4月）前期研究テーマの選択。それをもとに、報告のための課題文献の割り振り。                  （4月～7月）Power PointまたはKeynoteを使った報告と討論。報告後、卒業論文作成にむけてのレポートと参考文献リストを作成・提出。                  （夏休み）卒業論文のための中間報告資料を作成（4000字程度）。中間報告は後期に行う。</p> <p>参考として、16年度受講生が扱ったテーマは以下のとおり。                  組織コミュニケーション、組織文化、モチベーション、リーダーシップ、人材育成、女性の社会進出、ワークライフバランス、ベンチャー、広告、ブランド、地域ブランド、観光、まちづくり、航空産業、スポーツ産業、音楽産業、など。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>受講生の意向を聞きながら決定する。16年度は、若林満監修（2008）『経営組織心理学』ナカニシヤ出版、田尾雅夫 ほか編（2005）『はじめて経営学を学ぶ』ナカニシヤ出版、などを使用。</p>

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・やむを得ず遅刻・欠席する場合は、事前にメールにて連絡すること。</li> <li>・討論では積極的な発言を求める。</li> </ul>
--------	--

評価	出席、演習への貢献度、および課題の完成度などにより総合的に評価する。
----	------------------------------------

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>専門演習 II</p>
-------	-----------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	前期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	天野 敦央	3年	第5-603番教室(研究室)	

学びの準備	ねらい 年間テーマを、「経営管理論」とする。本演習は3年次前期科目2.0単位、3年次後期科目2.0単位、合計4.0単位からなっている。経営学の基本的概念を正確に理解するために、毎回テーマを決めて討論する。このほかに、各自がそれぞれ好きなテーマ（経営学の諸分野の中から）と好きな地域を決めて、その地域の経営の実状についてくわしく調べる。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>なお演習のイベント（ゼミ合宿・学園祭・コンパ）への学生諸君の積極的な参与を期待する。</p> <p>演習の展開計画</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>演習のすすめ方、評価のしかた</td></tr> <tr><td>2</td><td>研究対象</td></tr> <tr><td>3</td><td>研究対象</td></tr> <tr><td>4</td><td>アメリカ経営学</td></tr> <tr><td>5</td><td>（ゼミ合宿・必修）</td></tr> <tr><td>6</td><td>ドイツ経営学</td></tr> <tr><td>7</td><td>ドイツ経営学</td></tr> <tr><td>8</td><td>企業論</td></tr> <tr><td>9</td><td>企業論</td></tr> <tr><td>10</td><td>経営管理</td></tr> <tr><td>11</td><td>経営管理</td></tr> <tr><td>12</td><td>意思決定</td></tr> <tr><td>13</td><td>意思決定</td></tr> <tr><td>14</td><td>経営戦略</td></tr> <tr><td>15</td><td>（レポート提出・必修）</td></tr> </tbody> </table>	回数	内容	1	演習のすすめ方、評価のしかた	2	研究対象	3	研究対象	4	アメリカ経営学	5	（ゼミ合宿・必修）	6	ドイツ経営学	7	ドイツ経営学	8	企業論	9	企業論	10	経営管理	11	経営管理	12	意思決定	13	意思決定	14	経営戦略	15	（レポート提出・必修）
	回数	内容																															
	1	演習のすすめ方、評価のしかた																															
2	研究対象																																
3	研究対象																																
4	アメリカ経営学																																
5	（ゼミ合宿・必修）																																
6	ドイツ経営学																																
7	ドイツ経営学																																
8	企業論																																
9	企業論																																
10	経営管理																																
11	経営管理																																
12	意思決定																																
13	意思決定																																
14	経営戦略																																
15	（レポート提出・必修）																																
<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>（テキスト）未定 （参考文献）古在由重（編）『哲学小辞典』岩波書店、小川英次ほか（編）『経営学の基礎知識』有斐閣、日録刊行会（編）『経営図書総目録2017』。</p>																																	
<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・演習科目なので、休まず出席してください。</li> <li>・積極的に多様なメディア（書籍、雑誌、新聞、TV等）で、情報を収集してください。</li> </ul>																																	
<p>評価</p> <p>演習への参加態度、課題提出、レポート提出等によって総合評価する。</p>																																	

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	前期	月 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	佐久本 朝一	3年		

学びの準備	ねらい ベンチャービジネスとして独立開業を目指すのに重要な経営計画書の作成や商品開発能力の育成に関する実習も行う予定である。	メッセージ
-------	---	-------

学びの準備	到達目標 比較経営および日本企業におけるコミュニケーション能力や情報化の基礎的な理論を学んでいく。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
16			

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
-------	----------------

学びの実践	学びの手立て
-------	--------

学びの実践	評価
-------	----

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	前期	月 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	鶴池 幸雄	3年	uike@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 選択したテキストから、財務諸表の重要性を認識し、それを利用することについての基礎学習を行った後、具体例について研究報告を行うことにより、応用力を養う。	メッセージ 会計の実践力を高めていくことを目標としています。講義での課題解決を通じて応用力を高めてください。
	到達目標 企業に生起する会計問題を理解、分析し、解決案を提示できる。	

学びの準備	ねらい 選択したテキストから、財務諸表の重要性を認識し、それを利用することについての基礎学習を行った後、具体例について研究報告を行うことにより、応用力を養う。	メッセージ 会計の実践力を高めていくことを目標としています。講義での課題解決を通じて応用力を高めてください。
	到達目標 企業に生起する会計問題を理解、分析し、解決案を提示できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 選択したテキストから、ゼミ生にレジメを作成し発表してもらい、それを討論する形で進める。 企業会計全体についての理解を深めるために財務会計の文献を中心に学習する。 同時に、資金繰りについて、パソコンを使った講義を行い、基礎的考察から、事例研究までを行い、応用事例について、報告を行わせる
	テキスト・参考文献・資料など 講義時に指示する
	学びの手立て 課題に対して、講義にもとづいた基本的な分析視点を活用するだけでなく、さらに多様な方法などを積極的に活用できるよう検索を通じてネットワークや文献を大いに利用してください。
	評価 授業への参加姿勢、レポート等を総合的に評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目 会計の基礎理論の実践的応用、解決、報告に関わる力をさらに高める。 専門演習Ⅱ 財務会計、経営分析 資金会計
-------	---

※ポリシーとの関連性 実務で活かせる理論と応用を学ぶ。自分で考えて、自ら動いていく力を付ける。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	前期	水 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮森 正樹	3年	miyamori@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業を通して、大学で学んだ理論を実際のビジネス活動に応用する力をつける。また、積極的に授業やプロジェクトに参加して、協業して目標を成し遂げる経験を積む。	メッセージ ゼミの仲間は一生の友達となります。一緒に苦労した仲間として卒業後もつながっていきましょう。このゼミはプロジェクトおよび就職活動でかなり忙しいゼミとなります。これを乗り切って社会で通用する実力を付けましょう。
	到達目標 1. マーケティングの理論を幅広く、深く知る。 2. 学んだ理論を実務の諸現象に応用できる。 3. 実務において社会人とマーケティング用語を駆使して議論できる。 4. 自分で考え、自分で動けるようになる。 5. ゼミの仲間たちと力を合わせてプロジェクトを完遂させることを経験する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 企業と提携して、企業のかかえるマーケティング課題を一緒に考える。また、実務家との交流を通して専門的な知見を高める。 前半3週：企業との合同プロジェクトのテーマ設定、企業との打ち合わせ 中盤10週：プロジェクトの実施 後半3週：成果のプレゼンテーション ※毎週、企業のケーススタディー（グループ討議）
	テキスト・参考文献・資料など テキストは特になし。参考文献は授業の中で適時指定していく。資料は必要な時に配布予定。
	学びの手立て 履修の心構え： ①出席・授業への積極的参加を強く求める、②自分から動く、③課題提出は期日を守る、④ゼミ仲間を助ける。 学びを深めるために： ①マーケティング科目を多く履修する、②マーケティング関連文献を読む、③日経MJを読む。
評価 評価は次の項目の総合的な観点から行われる。 ①出席、②プロジェクトへの関与度合い、③発表、④授業での態度、⑤積極性（自分で考えて自分で動いたか）	

学びの継続	次のステージ・関連科目 マーケティング関連科目を多く受講すること。自らマーケティングに関連した書籍を読むこと。
-------	--

※ポリシーとの関連性 実務で活かせる理論と応用を学ぶ。自分で考えて、自ら動いていく力を付ける。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	後期	水4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮森 正樹	3年	miyamori@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業を通して、大学で学んだ理論を実際のビジネス活動に応用する力をつける。また、積極的に授業やプロジェクトに参加して、協業して目標を成し遂げる経験を積む。	メッセージ ゼミの仲間は一生の友達となります。一緒に苦労した仲間として卒業後もつながっていきましょう。このゼミはプロジェクトおよび就職活動でかなり忙しいゼミとなります。これを乗り切って社会で通用する実力を付けましょう。
	到達目標 1. マーケティングの理論を幅広く、深く知る。 2. 学んだ理論を実務の諸現象に応用できる。 3. 実務において社会人とマーケティング用語を駆使して議論できる。 4. 自分で考え、自分で動けるようになる。 5. ゼミの仲間たちと力を合わせてプロジェクトを完遂させることを経験する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 企業と提携して、企業のかかえるマーケティング課題を一緒に考える。また、実務家との交流を通して専門的な知見を高める。 前半3週：企業の共通課題発見 中盤10週：合同プロジェクト 後半3週：プレゼンテーションの実施 ※卒業論文のテーマを決めて、情報収集など4年時からのゼミナールに備える。
	テキスト・参考文献・資料など テキストは特になし。参考文献は授業の中で適時指定していく。資料は必要な時に配布予定。
	学びの手立て 履修の心構え： ①出席・授業への積極的参加を強く求める、②自分から動く、③課題提出は期日を守る、④ゼミ仲間を助ける。 学びを深めるために： ①マーケティング科目を多く履修する、②マーケティング関連文献を読む、③日経MJを読む。
評価 評価は次の項目の総合的な観点から行われる。 ①出席、②プロジェクトへの関与度合い、③発表、④授業での態度、⑤積極性（自分で考えて自分で動いたか）	

学びの継続	次のステージ・関連科目 マーケティング関連科目を多く受講すること。マーケティングに関連した書籍を読むこと。
-------	--



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	髭白 晃宜	3年	t.higeshiro@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい ①卒論執筆に必要とされる技能の習得. ②グループワーク、フィールドワークの実践. ③卒論執筆にむけて各自の研究に対する問題意識の明確化.	メッセージ 本演習では沖縄県内の商店街でフィールドワークを予定しています。商店街の活性化について学生の視点から取り組み、問題解決のための提言をまとめてもらいます。 最終的に、調査を行った商店街に対して調査レポートの提出ならびに詳細な調査報告を行う予定です。
	到達目標 ①商業と都市・市場の発展に関わる問題への興味関心を喚起する。 ②これまでに習得したマーケティングに関する知識の活用と応用。 ③レポート・論文執筆および口頭報告のための基礎・応用能力の習得。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	フィールドワーク①：沖縄県商店街の調査①	グループによる共同調査作業
	3	フィールドワーク②：沖縄県商店街の調査②	同上
	4	フィールドワーク③：沖縄県商店街の調査③	同上
	5	フィールドワーク④：沖縄県商店街の調査④	同上
	6	フィールドワーク⑤：中間報告①	報告内容について議論する
	7	フィールドワーク⑥：中間報告②	同上
	8	フィールドワーク⑦：沖縄県商店街の調査⑤	グループによる共同調査作業
	9	フィールドワーク⑧：沖縄県商店街の調査⑥	同上
	10	フィールドワーク⑨：沖縄県商店街の調査⑦	同上
	11	フィールドワーク⑩：沖縄県商店街の調査⑧	同上
	12	フィールドワーク⑪：沖縄県商店街の調査⑨	同上
	13	フィールドワーク⑫：沖縄県商店街の調査⑩	同上
	14	フィールドワーク⑬：最終報告①	報告内容について議論する
15	フィールドワーク⑭：最終報告②	同上	
16	卒業論文執筆にむけて	卒業論文のテーマ設定	
	テキスト・参考文献・資料など ※以下のテキストを講義の際に必ず持参すること。 使用テキスト： 満園勇『商店街はいま必要なのか』講談社現代新書（講談社），2015年		
	学びの手立て ①テキストは必ず購入して、時間外に必ず予習・復習ができる態勢を整えてください。 ②欠席5回以上で成績評価は「不可」となります。また、30分以上の遅刻は欠席扱いとします。 ③ゼミ内で頻繁に報告を行います。時間外作業の必要があります。 ④商店街のフィールドワークを行う予定です。 ⑤ゼミ員相互の交流や情報交換は密に行うように。ゼミは参加者全員で行うものです。		
	評価 ◆フィールドワーク中間報告：15点 ◆フィールドワーク最終報告：30点 ◆フィールドワーク調査レポート：40点 ◆ミニレポート：15点（毎講義中に課すレポートのこと：講義数15回×各回1点） 合計：100点満点		

学びの継続	次のステージ・関連科目 より専門性を有するテーマについて、自らで調査・分析・考察を行うことができるスキルを養います。 「卒業論文演習Ⅰ」に向けて、学生の興味関心のあるテーマ・問題意識を引き出します。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	原田 優也	3年	mongkhol@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい ビジネス課題に対して自分で考える力を身につける。	メッセージ ●ビジネス実例を体験するマーケティング専門科目であり、フィールド（現場）を通じてビジネス実態を知ること。 ●演習、実習の形式を併用して授業を行う。 ●原則として講義中、または休暇期間中に2泊3日程度の学外調査実習（現地調査）を行う。
	到達目標 1) ビジネス課題を発見し、調査目的・調査方法・調査活動・分析方法などを企画できる基礎能力を育成する。 2) ビジネス課題に対して、自分で考える力を身につける。 3) 調査報告書・レポートおよび卒業論文の作成能力を習得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	研究計画書・レジュメの作成方法・発表方法・参考文献・引用方法の再確認	ビジネスに関する資料収集
	3	卒業論文テーマに関する文献・関連資料の収集 1□	情報整理、分析方法などの検討
	4	卒業論文テーマに関する文献・関連資料の収集 2□	同上
	5	卒業論文テーマに関する文献・関連資料の収集 3□	同上
	6	卒業論文テーマおよびビジネス課題選択 ①	卒業論文の関係資料をまとめ
	7	卒業論文テーマおよびビジネス課題選択 ②	同上
	8	フィールドワーク・調査活動 ①	現地調査先と調整
9	フィールドワーク・調査活動 ②	同上	
10	フィールドワーク・調査活動 ③	同上	
11	中間発表の準備 ①	スライド作成・資料整理	
12	中間発表の準備 ②	同上	
13	卒業論文の中間発表会及び討論 ①	データ分析方法の検討・報告準備	
14	卒業論文の中間発表会及び討論 ②	同上	
15	卒業論文の中間発表会及び討論 ③	同上	
16	卒業論文の中間発表レポートの提出		
実践	テキスト・参考文献・資料など ◇Michael R. Solomon [著]；大竹光寿 [ほか] 訳 (2015) 『ソロモン消費者行動論』丸善出版 ◇ケビン・レーン・ケラー (著)、恩蔵 直人 (監訳) (2010) 『戦略的ブランド・マネジメント』東急エージェンシー ◇山根 節 (2015) 『MBAエグゼクティブズ』中央経済社、◇その他使用テキストについては講義中に紹介します		
	学びの手立て 履修生は卒業論文、卒業プロジェクト、課題研究のいずれかを一つ選択し、取り組みます。【1】卒業論文：興味があるテーマについて文献調査し、テーマを絞り込んでから対象とする問題点などについて客観的に分析し、卒業論文を執筆する。【2】卒業プロジェクト：「実用可能性の高い新商品開発」についてアイデアを出し、マーケティング・プランを作成する。新商品の開発段階・背景・生産工程、競合他社のリサーチ、新商品に対する消費者の購買行動について調査・分析を行う作業を通して、メーカーに必要な知識や技能を習得します。【3】課題研究：特定の研究課題を取り上げ、分析する。直面している問題・課題を明確にし、原因を究明し、改善策などを立案する。【履修の心構え】授業に参加し、積極的に学ぶ姿勢（報告に対する質疑応答、パティシペーションなど）が必要である。		
	評価 ◇フィールドワークへの取り組み方（30%）◇レポートの内容（30%）◇プレゼンテーションの内容と討論（40%）などで総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目： 市場調査演習、グローバルマーケティング総論、グローバルマーケティング演習 次のステージ： マーケティングコースの卒業論文演習I、卒業論文演習II
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	後期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	清村 英之	3年	・研究室：5627室 ・メール：hkiyomura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この演習では、「使える会計知識」「役に立つ会計技法」を身につけることを目指して、会計が現代の経済社会の中でどのような役割を果たしているのか、会計の知識を得ることで何ができるのかを学びます。ただし、会計データの使い方を学ぶためには、その作り方を知らなければならぬので、この一年間は会計データの作り方に重点をおきます。	3年生になると、そろそろ就活が気になります。清村ゼミ・オリジナルの自己分析シートへの記入や、4年生・OBOG（卒業生）との交流などを通じて、就職への意識を高めていきます。
到達目標	① 財務諸表の社会的役割や会計理論・制度を理解し、説明できる。 ② PCを利用した情報収集・分析能力を身に付ける。 ③ 経営分析を行うために必要なスキルを身に付ける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）
	① 3～4人のグループを作り、グループで分析する業界と個人で分析する企業を選択します。2016年度のゼミ生が選んだ業界・企業は、以下のとおりです。 ・Aグループ：化粧品（資生堂、コーセー、ファンケル、ポーラ） ・Bグループ：自動車（日産、スバル、スズキ、三菱） ・Cグループ：外食（ゼンショー、サイデリア、ジョイフル、ロイヤル） ・Dグループ：製菓（グリコ、不二家、ブルボン、森永製菓） ・Eグループ：テレビ（フジ、TBS、日テレ、テレ朝） ② インターネット等を利用して企業情報（特に会計情報）を収集し、様々な手法を用いてこれを分析し、その結果を発表します（この一年間は貸借対照表と損益計算書の趨勢分析を行います）。 ③ 資産会計、負債会計、純資産会計、収益会計、費用会計などのテーマを各グループに割り振り、その発表と討論を通じ、会計学の理解を深めます（「授業のねらい」にも書いたように、この一年間は会計データの作り方の学習に重点を置きます）。 ④ 発表のための準備、発表を聞いて討論するための準備に多くの時間外学習が求められます。
	テキスト・参考文献・資料など ・テキスト：使用しません。 ・参考文献：講義中に紹介します。
	学びの手立て 履修上の注意事項／心構え： ・「専門演習Ⅰ」を履修済みの学生か登録できません。 ・前期同様、遅刻・欠席は厳禁です。
評価 ・平常点……50点（質疑応答への積極性や、ゼミに対する意欲・貢献度を評価します） ・課題……50点	

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：経営分析・同演習（3年次）、財務会計ⅠⅡ（3年次）など、会計コースの諸科目
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩橋 建治	3年	kiwahashi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 人的資源管理を中心とした、経営学に関する個々の卒業論文について、中間報告を行う。報告と討論をもとに内容を修正し、具体的な方向性を決めていく。	メッセージ 研究を通じて、自分自身が何を望んでいるのか（自己分析）、その研究を深めることで誰にどのような貢献ができるのか（社会における役割）を、納得のいくまで考えて欲しい。
	到達目標 個々の卒業論文において、適用する理論を整理する。または、研究対象となる業界の概要を理解する。	

学びの準備	ねらい 人的資源管理を中心とした、経営学に関する個々の卒業論文について、中間報告を行う。報告と討論をもとに内容を修正し、具体的な方向性を決めていく。	メッセージ 研究を通じて、自分自身が何を望んでいるのか（自己分析）、その研究を深めることで誰にどのような貢献ができるのか（社会における役割）を、納得のいくまで考えて欲しい。
	到達目標 個々の卒業論文において、適用する理論を整理する。または、研究対象となる業界の概要を理解する。	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>卒業論文の中間報告と討論を毎回行い、そのつど今後の課題（イシュー、文献、事例など）を提示する。</p> <p>参考として、16年度受講生が扱ったテーマは以下のとおり。 組織コミュニケーション、組織文化、モチベーション、リーダーシップ、人材育成、女性の社会進出、ワークライフバランス、ベンチャー、広告、ブランド、地域ブランド、観光、まちづくり、航空産業、スポーツ産業、音楽産業、など。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>個々の卒業論文の仮構成に沿って、適宜紹介する。</p>

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>個々の卒業論文の仮構成に沿って、適宜紹介する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・やむを得ず遅刻・欠席する場合は、事前にメールにて連絡すること。</li> <li>・討論では積極的な発言を求める。</li> </ul>

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>個々の卒業論文の仮構成に沿って、適宜紹介する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・やむを得ず遅刻・欠席する場合は、事前にメールにて連絡すること。</li> <li>・討論では積極的な発言を求める。</li> </ul>

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>個々の卒業論文の仮構成に沿って、適宜紹介する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・やむを得ず遅刻・欠席する場合は、事前にメールにて連絡すること。</li> <li>・討論では積極的な発言を求める。</li> </ul>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>卒業論文演習Ⅰ</p>
-------	-----------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	後期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	天野 敦央	3年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	年間テーマを、「経営管理論」とする。本演習は3年次前期科目2.0単位、3年次後期科目2.0単位、合計4.0単位からなっている。経営学の基本的概念を正確に理解するために、毎回テーマを決めて討論する。このほかに、各自がそれぞれ好きなテーマ（経営学の諸分野の中から）と好きな地域を決めて、その地域の経営の実状についてくわしく調べる。	
到達目標		

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>（授業の展開計画）</p> <p>本演習の展開は、つぎのように予定している。</p> <p>（回数 内容）</p> <p>16 (キャリア課 進路ガイダンス)</p> <p>17 経営組織</p> <p>18 労務管理</p> <p>19 (卒業年次ゼミテーマ登録カード提出)</p> <p>20 財務管理</p> <p>21 財務管理</p> <p>22 販売管理</p> <p>23 販売管理</p> <p>24 計画と統制</p> <p>25 (キャリア課 進路面接)</p> <p>26 いわゆる「日本的経営」</p> <p>27 後期末：ゼミ年報記事の提出締切り</p> <p>28 (合説 参加)</p> <p>29 企業の社会的責任</p> <p>30 (新ゼミ生 募集計画)</p> <p>31 [ 予備日 ]</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>(テキスト) 未定</p> <p>(参考文献) 古在由重(編)『哲学小辞典』岩波書店、小川英次ほか(編)『経営学の基礎知識』有斐閣、日録刊行会(編)『経営図書総目録2017』。</p>
	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・演習科目なので、休まず出席してください。</li> <li>・積極的に多様なメディア（書籍、雑誌、新聞、TV等）で、情報を収集してください。</li> </ul>
	<p>評価</p> <p>演習への参加態度、課題提出、レポート提出等によって総合評価する。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>卒業論文演習Ⅰ(産 企業)</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	後期	月4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	鶴池 幸雄	3年	uike@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 選択したテキストから、財務諸表の重要性を認識し、それを利用することについての基礎学習を行った後、具体例について研究報告を行うことにより、応用力を養う。	メッセージ 会計の実践力を高めていくことを目標としています。ゼミナールでの課題解決を通じて応用力を高めてください。
	到達目標 企業に生起する会計問題を理解、分析し、解決案を提示できる	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 選択したテキストから、ゼミ生にレジメを作成し発表してもらい、それを討論する形で進める。企業会計全体についての理解を深めるために財務会計の文献だけでなく、基本的な管理会計の分野についても学習する。同時に、経営分析について、パソコンを使った講義を行い、基礎的考察から、事例研究までを行い、応用事例について、報告を行わせる。
	テキスト・参考文献・資料など 講義時に指示する

学びの実践	学びの手立て 課題に対して講義に基づいた基本的な分析視点を活用するだけでなく、さらに多様な方法などを積極的に活用できるように検索を通じて、ネットワークや文献を大いに利用してください。
	評価 課題、討論への取り組み、報告など 30 報告書の提出 70

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	佐久本 朝一	3年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	到達目標	

学びの準備	到達目標
-------	------

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 1 比較経営論の一般的な文献を選定させ、発表する。 2 ペンチャービジネスにおける経営計画書の作成。 3 商品開発のアイデア作成能力を育成する。
	テキスト・参考文献・資料など 教科書 技術革新下の労働と日本型企业社会 INNOVATION AND THE JAPANESE STYLE OF BUSINESS SOCIETY 著者 佐久本朝一 発行所 国際経営研究所

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 教科書 技術革新下の労働と日本型企业社会 INNOVATION AND THE JAPANESE STYLE OF BUSINESS SOCIETY 著者 佐久本朝一 発行所 国際経営研究所
-------	--

学びの実践	学びの手立て  評価
-------	------------------

学びの実践	学びの手立て  評価
-------	------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	後期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	菅森 聡	3年		

学びの準備	ねらい この演習では、管理会計に関する専門的な知識を習得し、現代企業に関する分析課題を自ら設定しプレゼンテーションすることで基礎力、応用力を養うことを目的としています。	メッセージ 管理会計は企業の経済活動が一定の成果をあげられるように、経営者や各階層の管理者に対して、経営管理のための財務情報や非財務情報を提供するものです。管理会計を深く理解することは企業の活動がどのようなものかということを知ることにつながっていきます。管理会計だけでなく、これを利用する企業とその活動に興味を持って取り組んでください。
	到達目標 ・専門書について報告・議論をすることで、プレゼンテーション能力とテーマについて考える能力を身に付ける。 ・自ら設定した発表することで、自主的な問題設定とその解決の能力を身に付ける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		
	テキスト・参考文献・資料など 授業内で連絡します。		
	学びの手立て ・無断欠席、遅刻は厳禁です。やむを得ず欠席する場合は、事前にメールで連絡をしてください。 ・報告や発表が多くあります。ゼミの場で活発な議論を行うために設定した教科書を熟読し、疑問や意見を持つようにしてください。		
	評価 平常点（ゼミへの意欲・積極性）50%と課題（発表とレジュメなど）50%で評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目 原価計算Ⅰ、原価計算Ⅱ、業績管理会計、戦略管理会計
-------	--



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	戦略管理会計	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	菅森 聡	3年		

学びの準備	ねらい 管理会計は経営管理を能率的に実施できるように、会計情報を提供し、経営管理活動を支援することにあります。本講義では管理会計の練習問題を解くことで、各種の管理会計技法の習得を目的とします。	メッセージ 管理会計は経営管理のための会計です。経営管理を行う経営者の立場を想像しながら受講するとよいでしょう。
	到達目標 ・マネジメントの会計である管理会計に関する知識を習得する。 ・管理会計技法を習得し、実際に計算できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	該当する章の予習と復習
	2	事業部制会計 I	
	3	事業部制会計 II	
	4	ABC/ABM I	
	5	ABC/ABM II	
	6	原価企画 I	
	7	原価企画 II	
	8	品質原価計算 I	
9	品質原価計算 II		
10	ライフサイクルコスト I		
11	ライフサイクルコスト II		
12	環境管理会計 I		
13	環境管理会計 II		
14	バランス・スコアカード		
15	まとめ		
16	テスト		
	テキスト・参考文献・資料など 『管理会計入門ゼミナール』高栢真一編著、創成社、2012年		
	学びの手立て ・毎回、練習問題を解いてもらいますので計算機を持ってくるようにしてください。 ・小テストを2回行う予定ですのでしっかり復習するようにしてください。		
	評価 小テスト30%とテスト70%で評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目 工業簿記、原価計算
-------	----------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	セールス・プロモーション	前期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮森 正樹	3年	miyamori@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業を通して、マーケティング・コミュニケーションの成り立ちとその活用方法学び、いかにして商品・サービスが必要とされている消費者の元に届けられるかを知る。	メッセージ 専門科目を単なる単位・学ぶべきものとするのではなく、授業を通してその科目の楽しさ、面白さ、社会への影響に気づくことが大切です。
	到達目標 1. セールス・プロモーションの概要を知る。 2. マーケティング・コミュニケーションの基本理論を学ぶ。 3. セールス・プロモーションとマーケティングの関係性を知る。 4. 基本的なセールス・プロモーションの企画が作成できるようになる。	

学びの準備	到達目標 1. セールス・プロモーションの概要を知る。 2. マーケティング・コミュニケーションの基本理論を学ぶ。 3. セールス・プロモーションとマーケティングの関係性を知る。 4. 基本的なセールス・プロモーションの企画が作成できるようになる。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	セールス・プロモーションとは	
	3	マーケティングとセールス・プロモーションの関係性	テキストを読む
	4	広告とプロモーションの違い	テキストを読む
	5	顧客の行動を変える	テキストを読む
	6	効果的なプロモーションとは	テキストを読む
	7	チラシ広告の現状	テキストを読む
	8	買う・買わないを決める要因	テキストを読む
	9	インスタ・プロモーション	テキストを読む
	10	セールス・プロモーションの3つのタイプ	テキストを読む
	11	消費者プロモーション	テキストを読む
	12	トレード・プロモーション	テキストを読む
	13	リテール・プロモーション	テキストを読む
	14	プロモーションの計画と実施	テキストを読む
	15	プロモーションの評価	テキストを読む
16	期末試験		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：セールス・プロモーションの実際。また、必要に応じて授業の中でプリントを配布する。参考文献は必要な時に発表する。
-------	--

学びの実践	学びの手立て 履修の心構え： ①出席・授業への積極的参加を強く求める、②自分から動く、③課題提出は期日を守る、④他の学生に迷惑を掛けない。  学びを深めるために： ①マーケティングとセールス・プロモーションの関係性を知る、②議論に積極的に参加する、③日経MJを読む。
-------	--

学びの実践	評価 評価は次の項目の総合的な観点から行われる。 ①出席、②期末試験、③レポート、④授業での態度、⑤課題提出物。
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 ビジネス関連科目を多く受講すること。マーケティングに関連した書籍を読むこと。一般教養科目をしっかりと学ぶこと。
-------	--



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	税務会計	後期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-上原 香代子	3年	授業終了後に教室で受け付けます。その他E-mailでも可能です。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講義では、税務会計の基礎及び応用知識の修得を目標としています。企業会計は、経営方針の判断等に役立つ会計であるのに対し、税務会計の基本は、法律で定められた課税要件の下で行う会計で、政策的な要素も含まれます。その違いも確認できるようにします。	法人税は、会計上の利益を基に課税所得の計算を行いますので、会計学及び商業簿記の知識も必要です。上級（1、2級）の簿記検定を目指すことをお勧めします。
到達目標	企業や会計事務所等で役立つための基礎的な知識の修得を目標とします。また税理士資格試験の税法科目を受験する際に、基礎的な知識として役立てます。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス 税務会計の意義と役割	質問の準備
	2	所得金額の計算 - 法人税の課税標準、収益、費用等 I	授業の予習と復習
	3	所得金額の計算 - 法人税の課税標準、収益、費用等 II	同上
	4	費用収益対応の原則と法人税法 I	同上
	5	費用収益対応の原則と法人税法 II	同上
	6	権利確定主義	同上
	7	債務確定基準	同上
	8	公正処理基準該当性の判断アプローチ	同上
	9	確定決算主義と損金経理要件	同上
	10	減価償却制度	同上
	11	寄付金課税制度	同上
	12	交際費課税制度	同上
	13	交際費課税制度	同上
14	税額計算と納税申告 I	同上	
15	税額計算と納税申告 II	同上	
16	期末テスト		
テキスト・参考文献・資料など	テキスト・参考文献・資料など 基本テキスト：酒井克彦著『プロGRESS税務会計論II - 収益費用と益金損金の関係 - 』中央経済社 2016年11月発行 参考文献：大城建夫『税務会計の理論的展開』同文館出版、成道秀雄編著『税務会計論』中央経済社		
学びの手立て	受講にあたって必要となる前提科目：商業簿記、会計学、財務会計等 欠席時の講義範囲は、次回の講義までにテキストを熟読し、疑問点があれば、質問できるようにしてください。		
評価	成績評価は、出席状況、期末テスト、課題等の提出の内容を総合して判断します。 参考：「期末テスト70%、課題等20%、出席状況10%」		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：原価会計、管理会計、非営利会計、会計監査、経営分析、会社法など。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習 I	前期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	佐久本 朝一	4年		

学びの準備	ねらい 経営に関する専門の論文の作成を指導したあとで期限までに提出する。	メッセージ 講義は学生の自主的な発表を中心に進めていくことから、積極的に参加意識を持つことが前提となる。
	到達目標	

学びの準備	到達目標
-------	------

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
15			
16			

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
-------	----------------

学びの実践	学びの手立て
-------	--------

学びの実践	評価
-------	----

学びの継続	次のステージ・関連科目 大学院進学への進路相談などを加えて可能な限り個別の指導を行うことにしたい。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習 I	前期	木 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	原田 優也	4年	mongkhol@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	①卒業論文・卒業プロジェクトレポートの作成に向けて、書き方・情報収集・仮説設定の考え方・論文の構成などを学習すること。 ②マーケティング的な考え方を実践的に養い、沖縄から全国、世界のビジネス界で活躍できる人材を育てます。	演習、実習の形式を併用して授業を行う。

到達目標	ビジネス課題に対して、自分で考える力を身につける。
------	---------------------------

学びのヒント	<p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>履修生は「卒業論文、卒業プロジェクト、課題研究」のいずれかを一つ選択し、取り組みます。</p> <p>【1】卒業論文：興味があるテーマについて文献調査し、テーマを絞り込んでから対象とする問題点などについて客観的に分析し、卒業論文を執筆する。                  【2】卒業プロジェクト：「実用可能性の高い新商品開発」についてアイデアを出し、マーケティング・プランを作成する。新商品の開発段階・背景・生産工程、競合他社のリサーチ、新商品に対する消費者の購買行動について調査・分析を行う作業を通して、マーケターに必要な知識や技能を習得します。                  【3】課題研究：特定の研究課題を取り上げ、分析する。直面している問題・課題を明確にし、原因を究明し、改善策などを立案する。</p> <p>*****</p> <p>(1) 卒業論文・卒業プロジェクト・課題研究とは何か / ゼミ運営の方針説明                  (2) 研究計画書・レジュメの作成方法・著作権・発表方法・参考文献・引用方法の確認                  (3) 論文テーマの選定（先行研究、分析方法、仮説設定など）                  (4) 卒論テーマ・プロジェクトテーマ・課題研究テーマの確定/年間計画書の提出                  (5) 企業戦略、ブランド戦略、観光ビジネス、マーケティングなどに関する先行研究（1）                  (6) 企業戦略、ブランド戦略、観光ビジネス、マーケティングなどに関する先行研究（2）                  (7) 企業戦略、ブランド戦略、観光ビジネス、マーケティングなどに関する先行研究（3）                  (8) 仮説設定と分析方法（1）                  (9) 仮説設定と分析方法（2）                  (10) 卒業論文など個別指導①                  (11) 卒業論文など個別指導②                  (12) 卒業論文など個別指導③                  (13) 卒論発表及び討論（1）                  (14) 卒論発表及び討論（2）                  (15) 卒論発表及び討論（3）                  (16) 卒業論文などの中間レポート提出</p> <p>*****</p>
--------	---

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>講義の中で、適切なテキストを指示する。</p>
----	--

学びの手立て	<p>①個人とグループ発表の時、自分の意見とディスカッションを行うことが大前提です。                  ②ゼミ生は必ず7月中旬の発表会に参加しなければなりません。                  ③授業に参加し、積極的に学ぶ姿勢（パティシペーションなど）が必要である。</p>
--------	---

評価	発表内容およびレポート（50%）・出席および受講態度（50%）などで総合的に評価する。
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>大学院進学、中小企業診断士、マーケティング関連会社など</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅰ	前期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	清村 英之	4年	・研究室：5627室 ・メール：hkiyomura@okiu.ac.jp	
学びの準備	ねらい	メッセージ		
	この演習では、「使える会計知識」「役に立つ会計技法」を身につけることを目指して、会計が現代の経済社会の中でどういう役割を果たしているのか、また、会計の知識を得ることのできるのかを学びます。この一年間は、各自が選択した企業の分析を進め、卒業論文をまとめます。	4年生になると、就職活動が本格化します。エントリーシートや履歴書の添削、県内各企業に就職しているOBOG（卒業生）の紹介などを通じて、ゼミ生の就職活動をバックアップします。		
学びの準備	到達目標			
	① PCを利用した情報収集・分析能力を身に付ける。 ② 経営分析を行うために必要なスキルを身に付ける。 ③ コミュニケーション能力（文章を書く力とプレゼンテーション能力）を身に付ける。			
学びの実践	学びのヒント	授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）		
		① インターネット等を利用して入手した会計情報を、様々な手法を用いて分析し、その結果を発表します（この一年間は各種比率を計算し、成長性分析、収益性分析、効率性分析、安全性分析を行います）。 ② それぞれの企業の社史、事業内容、経営方針などを調べ、分析対象企業に関する理解を深めます。 ③ この二年間の研究成果を卒業論文としてまとめます。2016年度のゼミ生が選んだ業界・企業は、以下のとおりです。 ・Aグループ：製菓（森永製菓、江崎グリコ、不二家、カルビー） ・Bグループ：ビール（サッポロ、サントリー、キリン、アサヒ） ・Cグループ：化粧品（資生堂、マンダム、コーセー、ドクターシーラボ） ・Dグループ：テレビ（フジ、TBS、日テレ、テレ朝） ・Eグループ：アパレル（ユナイテッドアローズ、マックハウス、ワールド、しまむら） ④ 卒業論文の内容をパワー・ポイントに要約し、セミナーハウスで発表会を行います。 ⑤ 発表の準備、卒業論文の執筆、パワー・ポイントの作成に多くの時間外学習が求められます。		
	テキスト・参考文献・資料など	・テキスト：使用しません。 ・参考文献：講義中に紹介します。		
	学びの手立て	履修上の注意事項／心構え： ・「専門演習Ⅱ」を履修済みの学生しか登録できません。 ・昨年同様、遅刻・欠席は厳禁です。		
学びの実践	評価	・平常点……50点（質疑応答への積極性や、ゼミに対する意欲・貢献度を評価します） ・卒業論文……50点		
	次のステージ・関連科目	二年間のゼミ活動によって、問題・課題を自分で見つけ、論理的な思考によって解決し、正確に伝える力は身に付いたはず。これらの力を活かし、ビジネスの世界で活躍してください。		

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習 I	前期	月 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	天野 敦央	4年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>年間テーマを、「経営管理論」とする。本演習は4年次前期科目2.0単位、4年次後期科目2.0単位、合計4.0単位からなっている。経営学の基本的概念を正確に理解するために、ひきつづきテーマを決めて討論する。このほかに、各自がそれぞれ好きなテーマ（経営学の諸分野の中から）と好きな地域を決めて、その地域の経営の実状についてくわしく調べる。</p>	
	到達目標	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>なお本演習のイベント（ゼミ合宿・学園祭・コンパ）への学生諸君の積極的な参与を期待する。</p> <p>演習の展開計画</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>（レポート提出・必須）</td></tr> <tr><td>2</td><td>演習のすすめ方、評価のしかた</td></tr> <tr><td>3</td><td>研究対象</td></tr> <tr><td>4</td><td>アメリカ経営学</td></tr> <tr><td>5</td><td>（ゼミ合宿・必須）</td></tr> <tr><td>6</td><td>ドイツ経営学</td></tr> <tr><td>7</td><td>ドイツ経営学</td></tr> <tr><td>8</td><td>企業論</td></tr> <tr><td>9</td><td>企業論</td></tr> <tr><td>10</td><td>経営管理</td></tr> <tr><td>11</td><td>経営管理</td></tr> <tr><td>12</td><td>意思決定</td></tr> <tr><td>13</td><td>意思決定</td></tr> <tr><td>14</td><td>経営戦略</td></tr> <tr><td>15</td><td>（レポート提出・必須）</td></tr> </tbody> </table>	回数	内容	1	（レポート提出・必須）	2	演習のすすめ方、評価のしかた	3	研究対象	4	アメリカ経営学	5	（ゼミ合宿・必須）	6	ドイツ経営学	7	ドイツ経営学	8	企業論	9	企業論	10	経営管理	11	経営管理	12	意思決定	13	意思決定	14	経営戦略	15	（レポート提出・必須）
	回数	内容																															
	1	（レポート提出・必須）																															
	2	演習のすすめ方、評価のしかた																															
3	研究対象																																
4	アメリカ経営学																																
5	（ゼミ合宿・必須）																																
6	ドイツ経営学																																
7	ドイツ経営学																																
8	企業論																																
9	企業論																																
10	経営管理																																
11	経営管理																																
12	意思決定																																
13	意思決定																																
14	経営戦略																																
15	（レポート提出・必須）																																
<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>（テキスト） 未定 （参考文献） 古在由重（編）『哲学小辞典』岩波書店、小川英次ほか（編）『経営学の基礎知識』有斐閣、日録刊行会（編）『経営図書総目録2015』。</p>																																	
<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・演習科目なので、休まず出席してください。</li> <li>・積極的に多様なメディア（書籍、雑誌、新聞、TV等）で、情報を収集してください。</li> </ul>																																	
<p>評価</p> <p>演習への参加態度、課題提出、レポート提出等によって総合評価する。</p>																																	

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習 I	前期	月 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩橋 建治	4年	kiwahashi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 卒業論文執筆のための指導を行う。	メッセージ 研究を通じて、自分自身が何を望んでいるのか（自己分析）、その研究を深めることで誰にどのような貢献ができるのか（社会における役割）を、納得のいくまで考えて欲しい。
	到達目標 個々の卒業論文において、適用する理論を整理する。または、研究対象となる業界の概要を理解する。	

学びの準備	到達目標 個々の卒業論文において、適用する理論を整理する。または、研究対象となる業界の概要を理解する。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）  卒業論文の研究に関しては、授業時間中だけでは指導が不十分なため、授業時間以外も適宜連絡の上で、毎週課外の指導をおこなうことを前提とする。 それぞれの研究の進捗状況に応じて、適宜指示を与える。
	テキスト・参考文献・資料など 個々の卒業論文の仮構成に沿って、適宜紹介する。

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 個々の卒業論文の仮構成に沿って、適宜紹介する。
-------	---

学びの実践	学びの手立て <ul style="list-style-type: none"> <li>・やむを得ず遅刻・欠席する場合は、事前にメールにて連絡すること。</li> <li>・討論では積極的な発言を求める。</li> <li>・卒業論文の分量は16,000字～20,000字程度を目安とする。</li> </ul>
	評価 卒業論文に関する課題の提出状況と、その完成度を中心に評価する。

学びの実践	評価 卒業論文に関する課題の提出状況と、その完成度を中心に評価する。
-------	---------------------------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目 卒業論文演習 II
-------	--------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習 I	前期	木 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	鶴池 幸雄	4年	uike@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 企業会計に係わりこれまで学習してきた内容を深めるとともに、一つのテーマについてこれをまとめる。	メッセージ 企業に関わる様々な会計問題を見た上で自分の取り組む課題を見つけ、積極的に分析検討を行っていきましょう
	到達目標 企業に関わる会計問題の中から、卒業論文の対象として取りあげるモノを選択し分析することによって、対象の問題点を見つけ出し、解決すべき点を明らかにします。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 1. 卒業論文の作成 テーマの決定 文献調査 論文構成の決定 執筆 を、講義内で指導していく 2. 会計のトピックについて 研究・発表を行う。
	テキスト・参考文献・資料など 講義内で指示します
	学びの手立て 対象とするテーマを選択するために多くの文献や資料を検索、確認しましょう。 課題テーマを選択した後は、関連する文献や資料を数多く調査、検討し問題点を見つけ出します。
	評価 卒業論文に関わる中間報告 80 講義での課題提出 20、

学びの継続	次のステージ・関連科目 卒業論文演習 II で 本講義で明らかにした会計上の課題についてまとめます。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習 I	前期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	仲地 健	4年		

学びの準備	ねらい 卒業論文作成に向けて、書き方・情報収集・論文の構成などを学ぶ。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 自らの関心のあるテーマについて文献調査し、卒業論文を執筆する。
	テキスト・参考文献・資料など 使用しない。
	学びの手立て
	評価 出席や報告の内容などで、総合的に評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習 I	前期	木 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	髭白 晃宜	4年	t.higeshiro@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本演習では、卒業論文の作成を通して、社会が抱える課題を多角的に捉える視野、ビジネスの場で相手を説得できる会話力、そして論理的に物事を説明できる文章力を、それぞれ高いレベルにおいて獲得してもらうことを目的とします。</p>	<p>学生生活における研究活動の集大成として卒業論文をつくりあげることが、とてつもなく大変なことです。しかし、その苦勞の大きさはやりがいの大きさでもあります。悔いの残らぬよう最後までしっかりとやり遂げてください。</p>
到達目標	<p>①卒業論文で対象とするテーマについて、資料の収集ならびにデータの分析を正確に行うことができる。 ②①を達成したうえで、オリジナリティに富んだ考察ならびに今後の展望を行うことができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容	
	1	ガイダンス：卒論のテーマ設定①	卒論のテーマ設定	
	2	卒論指導①：卒論のテーマ設定②	卒論のテーマ設定	
	3	卒論指導②：テーマに対応した個別指導	テーマに対応した資料収集と分析	
	4	卒論指導③：テーマに対応した個別指導	同上	
	5	卒論指導④：テーマに対応した個別指導	同上	
	6	卒論指導⑤：卒論中間報告①	同上	
	7	卒論指導⑥：テーマに対応した個別指導	同上	
	8	卒論指導⑦：テーマに対応した個別指導	同上	
9	卒論指導⑧：テーマに対応した個別指導	同上		
10	卒論指導⑨：テーマに対応した個別指導	同上		
11	卒論指導⑩：卒論中間報告②	同上		
12	卒論指導⑪：テーマに対応した個別指導	同上		
13	卒論指導⑫：テーマに対応した個別指導	同上		
14	卒論指導⑬：テーマに対応した個別指導	同上		
15	卒論指導⑭：テーマに対応した個別指導	同上		
16	卒論指導⑮：卒論中間報告③	同上		
実践	テキスト・参考文献・資料など	※個別のテーマに対して、ゼミ内で補助教材を適宜配布する。		
	学びの手立て	<p>①卒業論文に関する資料収集およびデータ分析はこまめに行うこと。早めに作業を行うこと。 ②ゼミ内で頻繁に卒論の進捗報告を行います。時間外作業の必要があります。 ③ゼミ員相互の交流や情報交換は密に行うように。</p>		
	評価	<p>◆卒論中間報告①：25点 ◆卒論中間報告②：30点 ◆卒論中間報告③：30点 ◆ミニレポート：15点（毎講義中に課すレポートのこと：講義数15回×各回1点） 合計：100点満点</p>		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	設定したテーマに対応した文献や資料を収集し、データ分析を進めた状態で「卒業論文演習Ⅱ」に移行。

※ポリシーとの関連性 企業は、今日では社会に多大な影響を及ぼしている。そうした企業の営み（経営活動）について学ぶ学問である。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅱ	後期	月2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	佐久本 朝一	4年		

学びの準備	ねらい 経営に関する専門の論文を作成する。	メッセージ
	到達目標	

学びの準備	
-------	--

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>経営学という学問 イギリスにおける企業の発展 アメリカにおける企業の発展 日本における企業の発展 科学的管理法 フォードシステム 人間関係論 意思決定論 動機付け理論 欲求5段階説 単位組織と複合組織 経営組織の基本形態 経営組織の階層と機能 経営組織の応用形態</p>
	テキスト・参考文献・資料など

学びの実践	
-------	--

学びの実践	学びの手立て
-------	--------

学びの実践	評価
-------	----

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅱ	後期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	原田 優也	4年	mongkhol@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	①卒業論文・卒業プロジェクトレポートの作成に向けて、書き方・情報収集・仮説設定の考え方・論文の構成などを学習すること。 ②マーケティング的な考え方を実践的に養い、沖縄から全国、世界のビジネス界で活躍できる人材を育てます。	演習、実習の形式を併用して授業を行う。

到達目標	卒業論文の作成能力を習得する。
------	-----------------

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）  ***** (1) 後期日程のガイダンス (2) 卒業論文・卒業プロジェクト・課題研究の研究手法・先行研究・仮説設定などの再検討① (3) 卒業論文・卒業プロジェクト・課題研究の研究手法・先行研究・仮説設定などの再検討② (4) 卒業論文・卒業プロジェクト・課題研究の研究手法・先行研究・仮説設定などの再検討③ (5) 卒業論文・卒業プロジェクト・課題研究執筆：個別指導① (6) 卒業論文・卒業プロジェクト・課題研究執筆：個別指導② (7) 卒業論文・卒業プロジェクト・課題研究執筆：個別指導③ (8) 卒業論文・卒業プロジェクト・課題研究執筆：個別指導④ (9) 卒業論文・卒業プロジェクト・課題研究執筆：個別指導⑤ (10) 卒業論文・卒業プロジェクト・課題研究執筆：個別指導⑥ (11) 卒業論文・卒業プロジェクト・課題研究執筆：個別指導⑦ (12) 卒業論文・卒業プロジェクト・課題研究執筆：個別指導⑧ (13) 卒論・卒業プロジェクト・課題研究の原稿の校正① (14) 卒論・卒業プロジェクト・課題研究の原稿の校正② (15) 卒論・卒業プロジェクト・課題研究の原稿の印刷 (16) 卒業論文・卒業プロジェクト・課題研究の提出 *****
	テキスト・参考文献・資料など 講義の中で、適切なテキストを指示する。
	学びの手立て ①個人とグループ発表の時、自分の意見とディスカッションを行うことが大前提です。 ②授業に参加し、積極的に学ぶ姿勢（パティシペーションなど）が必要である。
	評価 発表内容およびレポート（50%）・出席および受講態度（50%）などで総合的に評価する

学びの継続	次のステージ・関連科目 大学院進学、中小企業診断士、マーケティング関連会社など
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅱ	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	清村 英之	4年	・研究室：5627室 ・メール：hkiyomura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この演習では、「使える会計知識」「役に立つ会計技法」を身につけることを目指して、会計が現代の経済社会の中でどういう役割を果たしているのか、また、会計の知識を得ることのできるのかを学びます。この一年間は、各自が選択した企業の分析を進め、卒業論文をまとめます。	4年生になると、就職活動が本格化します。エントリーシートや履歴書の添削、県内各企業に就職しているOBOG（卒業生）の紹介などを通じて、ゼミ生の就職活動をバックアップします。
到達目標	① PCを利用した情報収集・分析能力を身に付ける。 ② 経営分析を行うために必要なスキルを身に付ける。 ③ コミュニケーション能力（文章を書く力とプレゼンテーション能力）を身に付ける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） ①インターネット等を利用して入手した会計情報を、様々な手法を用いて分析し、その結果を発表します（この一年間は各種比率を計算し、成長性分析、収益性分析、効率性分析、安全性分析を行います）。 ②それぞれの企業の社史、事業内容、経営方針などを調べ、分析対象企業に関する理解を深めます。 ③この二年間の研究成果を卒業論文としてまとめます。2016年度のゼミ生が選んだ業界・企業は、以下のとおりです。 ・Aグループ：製菓（森永製菓、江崎グリコ、不二家、カルビー） ・Bグループ：ビール（サッポロ、サントリー、キリン、アサヒ） ・Cグループ：化粧品（資生堂、マンダム、コーセー、ドクターシーラボ） ・Dグループ：テレビ（フジ、TBS、日テレ、テレ朝） ・Eグループ：アパレル（ユナイテッドアローズ、マックハウス、ワールド、しまむら） ④卒業論文の内容をパワー・ポイントに要約し、セミナーハウスで発表会を行います。 ⑤発表の準備、卒業論文の執筆、パワー・ポイントの作成に多くの時間外学習が求められます。
	テキスト・参考文献・資料など ・テキスト：使用しません。 ・参考文献：講義中に紹介します。
	学びの手立て 履修上の注意事項／心構え： ・「卒業論文演習Ⅰ」を履修した学生しか登録できません。 ・前期同様、遅刻・欠席は厳禁です。
	評価 ・平常点……50点（質疑応答への積極性や、ゼミに対する意欲・貢献度を評価します） ・卒業論文……50点

学びの継続	次のステージ・関連科目 二年間のゼミ活動によって、問題・課題を自分で見つけ、論理的な思考によって解決し、正確に伝える力は身に付いたはず。これらの力を活かし、ビジネスの世界で活躍してください。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅱ	後期	月4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	天野 敦央	4年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	年間テーマを、「経営管理論」とする。本演習は4年次前期科目2.0単位、4年次後期科目2.0単位、合計4.0単位からなっている。経営学の基本的概念を正確に理解するために、ひきつづきテーマを決めて討論する。このほかに、各自がそれぞれ好きなテーマ（経営学の諸分野の中から）と好きな地域を決めて、その地域の経営の実状についてくわしく調べる。	
到達目標		

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>（授業の展開計画） 本演習の展開は、つぎのとおり予定している。</p> <p>（回数 内容）</p> <p>16 経営組織 17 経営組織 18 労務管理 19 （卒業年次ゼミテーマ登録カード提出） 20 財務管理 21 財務管理 22 販売管理 23 販売管理 24 計画と統制 25 計画と統制 26 いわゆる「日本的経営」 27 後期末：卒業論文の提出締切り 28 企業の社会的責任 29 （卒業式・謝恩会パーティの実施計画） 30 企業の社会的責任 31 [予備日]</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>（テキスト） 未定 （参考文献） 古在由重（編）『哲学小辞典』岩波書店、小川英次ほか（編）『経営学の基礎知識』有斐閣、日録刊行会（編）『経営図書総目録2015』。</p>
	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・演習科目なので、休まず出席してください。</li> <li>・積極的に多様なメディア（書籍、雑誌、新聞、TV等）で、情報を収集してください。</li> </ul>
	<p>評価</p> <p>演習への参加態度、課題提出、レポート提出等によって総合評価する。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>責任感ある社会人へ</p>
-------	-------------------------------------



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅱ	後期	月4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩橋 建治	4年	kiwahashi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 卒業論文執筆のための指導を行う。	メッセージ 研究を通じて、自分自身が何を望んでいるのか（自己分析）、その研究を深めることで誰にどのような貢献ができるのか（社会における役割）を、納得のいくまで考えて欲しい。
	到達目標 個々の学修成果として、卒業論文を完成させる。	

学びの準備	ねらい 卒業論文執筆のための指導を行う。	メッセージ 研究を通じて、自分自身が何を望んでいるのか（自己分析）、その研究を深めることで誰にどのような貢献ができるのか（社会における役割）を、納得のいくまで考えて欲しい。
	到達目標 個々の学修成果として、卒業論文を完成させる。	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>卒業論文の研究に関しては、授業時間中だけでは指導が不十分なため、授業時間以外も適宜連絡の上で、毎週課外の指導をおこなうことを前提とする。 それぞれの研究の進捗状況に応じて、適宜指示を与える。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>個々の卒業論文の構成に沿って、適宜紹介する。</p>

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>個々の卒業論文の構成に沿って、適宜紹介する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・やむを得ず遅刻・欠席する場合は、事前にメールにて連絡すること。</li> <li>・討論では積極的な発言を求める。</li> <li>・卒業論文の分量は16,000字～20,000字程度を目安とする。</li> </ul>

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>個々の卒業論文の構成に沿って、適宜紹介する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・やむを得ず遅刻・欠席する場合は、事前にメールにて連絡すること。</li> <li>・討論では積極的な発言を求める。</li> <li>・卒業論文の分量は16,000字～20,000字程度を目安とする。</li> </ul>

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>個々の卒業論文の構成に沿って、適宜紹介する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・やむを得ず遅刻・欠席する場合は、事前にメールにて連絡すること。</li> <li>・討論では積極的な発言を求める。</li> <li>・卒業論文の分量は16,000字～20,000字程度を目安とする。</li> </ul>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>これまで関心をもったすべての科目が関連しうる。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅱ	後期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	仲地 健	4年		

学びの準備	ねらい 卒業論文演習Ⅰに同じ。	メッセージ
	到達目標	

学びの準備	到達目標
-------	------

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)
	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
-------	----------------

学びの実践	学びの手立て
-------	--------

学びの実践	評価
-------	----

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅱ	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	鶴池 幸雄	4年	uike@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 企業会計に係わり、これまで学習してきた内容を深めるとともに、一つのテーマについてこれをまとめる	メッセージ 企業に関わる様々な会計問題を見た上で自分の取り組む課題を見つけ、積極手に分析・検討を行っていきましょう
	到達目標 企業に関わる会計問題の中から卒業論文の対象として取りあげた課題について、論文を作成し、パワーポイントにて報告することにより、問題発見、解決、評価のプロセスに関わる能力を高める	

学びの準備	到達目標 企業に関わる会計問題の中から卒業論文の対象として取りあげた課題について、論文を作成し、パワーポイントにて報告することにより、問題発見、解決、評価のプロセスに関わる能力を高める

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p><u>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>卒業論文の作成 文献調査 論文構成の決定 執筆  後半の講義内で、卒論の報告を行う</li> <li>会計のトピックについて  最新の会計基準動向などについて 研究・報告を行う</li> </ol>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>講義内で指示します。</p>

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <p>対象となるテーマについて論考を行いそれに対する考えを明確に表すため、論考の進め方、論文の書き方、報告の要点などを文献、資料を十分参考にして取り組んでください。</p>
	<p>評価</p> <p>卒業論文の報告、提出 100</p>

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <p>対象となるテーマについて論考を行いそれに対する考えを明確に表すため、論考の進め方、論文の書き方、報告の要点などを文献、資料を十分参考にして取り組んでください。</p>
	<p>評価</p> <p>卒業論文の報告、提出 100</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>卒業後の社会活動において、企業活動の把握、問題点の抽出、解決法の探求、提示 という実践的な問題についての取り組み方を身につけ、実践する。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅱ	後期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	髭白 晃宜	4年	t.higeshiro@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本演習では、卒業論文の作成を通して、社会が抱える課題を多角的に捉える視野、ビジネスの場で相手を説得できる会話力、そして論理的に物事を説明できる文章力を、それぞれ高いレベルにおいて獲得してもらうことを目的とします。</p>	<p>学生生活における研究活動の集大成として卒業論文をつくりあげることが、とてつもなく大変なことです。しかし、その苦勞の大きさはやりがいの大きさでもあります。悔いの残らぬよう最後までしっかりとやり遂げてください。</p>
到達目標	<p>①卒業論文で対象とするテーマについて、資料の収集ならびにデータの分析を正確に行うことができる。 ②①を達成したうえで、オリジナリティに富んだ考察ならびに今後の展望を行うことができる。</p>	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>テーマ</th> <th>時間外学習の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>ガイダンス</td><td>卒論執筆作業</td></tr> <tr><td>2</td><td>卒論指導①：テーマに対応した個別指導</td><td>同上</td></tr> <tr><td>3</td><td>卒論指導②：テーマに対応した個別指導</td><td>同上</td></tr> <tr><td>4</td><td>卒論指導③：テーマに対応した個別指導</td><td>同上</td></tr> <tr><td>5</td><td>卒論指導④：テーマに対応した個別指導</td><td>同上</td></tr> <tr><td>6</td><td>卒論指導⑤：卒論中間報告①</td><td>卒論中間報告</td></tr> <tr><td>7</td><td>卒論指導⑥：テーマに対応した個別指導</td><td>卒論執筆作業</td></tr> <tr><td>8</td><td>卒論指導⑦：テーマに対応した個別指導</td><td>同上</td></tr> <tr><td>9</td><td>卒論指導⑧：テーマに対応した個別指導</td><td>同上</td></tr> <tr><td>10</td><td>卒論指導⑨：テーマに対応した個別指導</td><td>同上</td></tr> <tr><td>11</td><td>卒論指導⑩：卒業論文仮原稿提出</td><td>同上</td></tr> <tr><td>12</td><td>卒論指導⑪：卒業論文の修正作業</td><td>卒論の修正作業</td></tr> <tr><td>13</td><td>卒論指導⑫：卒業論文の修正作業</td><td>同上</td></tr> <tr><td>14</td><td>卒論指導⑬：卒業論文の修正作業</td><td>同上</td></tr> <tr><td>15</td><td>卒論指導⑭：卒業論文完成稿提出</td><td>卒業論文完成稿提出</td></tr> <tr><td>16</td><td>卒論指導⑮：卒業論文最終報告会</td><td>卒業論文最終報告会</td></tr> </tbody> </table>	回	テーマ	時間外学習の内容	1	ガイダンス	卒論執筆作業	2	卒論指導①：テーマに対応した個別指導	同上	3	卒論指導②：テーマに対応した個別指導	同上	4	卒論指導③：テーマに対応した個別指導	同上	5	卒論指導④：テーマに対応した個別指導	同上	6	卒論指導⑤：卒論中間報告①	卒論中間報告	7	卒論指導⑥：テーマに対応した個別指導	卒論執筆作業	8	卒論指導⑦：テーマに対応した個別指導	同上	9	卒論指導⑧：テーマに対応した個別指導	同上	10	卒論指導⑨：テーマに対応した個別指導	同上	11	卒論指導⑩：卒業論文仮原稿提出	同上	12	卒論指導⑪：卒業論文の修正作業	卒論の修正作業	13	卒論指導⑫：卒業論文の修正作業	同上	14	卒論指導⑬：卒業論文の修正作業	同上	15	卒論指導⑭：卒業論文完成稿提出	卒業論文完成稿提出	16	卒論指導⑮：卒業論文最終報告会	卒業論文最終報告会
	回	テーマ	時間外学習の内容																																																	
	1	ガイダンス	卒論執筆作業																																																	
	2	卒論指導①：テーマに対応した個別指導	同上																																																	
3	卒論指導②：テーマに対応した個別指導	同上																																																		
4	卒論指導③：テーマに対応した個別指導	同上																																																		
5	卒論指導④：テーマに対応した個別指導	同上																																																		
6	卒論指導⑤：卒論中間報告①	卒論中間報告																																																		
7	卒論指導⑥：テーマに対応した個別指導	卒論執筆作業																																																		
8	卒論指導⑦：テーマに対応した個別指導	同上																																																		
9	卒論指導⑧：テーマに対応した個別指導	同上																																																		
10	卒論指導⑨：テーマに対応した個別指導	同上																																																		
11	卒論指導⑩：卒業論文仮原稿提出	同上																																																		
12	卒論指導⑪：卒業論文の修正作業	卒論の修正作業																																																		
13	卒論指導⑫：卒業論文の修正作業	同上																																																		
14	卒論指導⑬：卒業論文の修正作業	同上																																																		
15	卒論指導⑭：卒業論文完成稿提出	卒業論文完成稿提出																																																		
16	卒論指導⑮：卒業論文最終報告会	卒業論文最終報告会																																																		
テキスト・参考文献・資料など	※個別のテーマに対して、ゼミ内で補助教材を適宜配布する。																																																			
学びの手立て	<p>①卒業論文に関する資料収集およびデータ分析はこまめに行うこと。早めに作業を行うこと。 ②欠席5回以上で成績評価は「不可」となります。また、30分以上の遅刻は欠席扱いとします。 ③時間外に卒論執筆や報告準備を行う必要があります。スケジュール管理を怠らないこと。 ④ゼミ員相互の交流や情報交換は密に行うように。</p>																																																			
評価	<p>◆卒論中間報告：10点 ◆卒業論文完成稿提出：50点 ◆卒業論文最終報告：25点 ◆ミニレポート：15点（毎講義中に課すレポートのこと：講義数15回×各回1点） 合計：100点満点</p>																																																			

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>卒業後は、複眼的思考を持ち、問題解決に際して柔軟に回答を提示できる人材となってもらいたい。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性 学ぶ姿勢と学ぶ力を付ける。自分で考えて、自ら動いていく力を付ける。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ソーシャル・マーケティング	後期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮森 正樹	3年	miyamori@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業を通して、ソーシャル・マーケティングの成り立ちとその活用方法学び、いかにして企業が自社の商品に社会的加価値を必要とされているを知る。	メッセージ 専門科目を単なる単位・学ぶべきものとするのではなく、授業を通してその科目の楽しさ、面白さ、社会への影響に気づくことが大切です。
	到達目標 1. ソーシャル・マーケティングの概要を知る。 2. ソーシャル・マーケティングの基本理論を学ぶ。 3. 社会貢献とマーケティングの関係性を知る。 4. 基本的なソーシャル・マーケティングのビジネスモデルが説明できるようになる。	

学びの準備	到達目標 1. ソーシャル・マーケティングの概要を知る。 2. ソーシャル・マーケティングの基本理論を学ぶ。 3. 社会貢献とマーケティングの関係性を知る。 4. 基本的なソーシャル・マーケティングのビジネスモデルが説明できるようになる。

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	ソーシャル・マーケティングとは	
	3	社会貢献と企業1	テキストを読む
	4	社会貢献と企業2	テキストを読む
	5	社会文化的変化の創出1	テキストを読む
	6	社会文化的変化の創出2	テキストを読む
	7	消費者に対するコミットメント活動1	テキストを読む
	8	消費者に対するコミットメント活動2	テキストを読む
	9	新興市場における起業家の創造	テキストを読む
	10	環境の持続可能性に対する取り組み1	テキストを読む
	11	環境の持続可能性に対する取り組み2	テキストを読む
	12	消費者に対するミッションのマーケティング1	テキストを読む
	13	消費者に対するミッションのマーケティング2	テキストを読む
	14	課題の発表準備	課題発表資料作成1
	15	課題の発表	課題発表資料作成2
16	期末試験		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：授業で指定する。また、必要に応じて授業の中でプリントを配布する。参考文献も必要な時に発表する。
-------	--

学びの実践	学びの手立て 履修の心構え： ①出席・授業への積極的参加を強く求める、②自分から動く、③課題提出は期日を守る、④他の学生に迷惑を掛けない。 学びを深めるために： ①マーケティングと社会貢献の関係を知る、②議論に積極的に参加する、③日経MJを読む、④ソーシャル・マーケティングを実践している企業の経営者や従業員の経営哲学を学ぶ。
-------	---

学びの実践	評価 評価は次の項目の総合的な観点から行われる。①出席、②期末試験、③レポート、④授業での態度、⑤課題提出物。
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 ビジネス関連科目を多く受講すること。マーケティングに関連した書籍を読むこと。一般教養科目をしっかりと学ぶこと。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	中小企業経営論	前期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩橋 建治	3年	kiwahashi@oki.u.ac.jp	

学びの準備	ねらい 中小企業経営について、主にベンチャーの視点から理解を深める。	メッセージ この授業では、中小企業経営に関する基礎知識を主にベンチャーの視点から学ぶとともに、中小企業の成否を左右するさまざまな環境要因について検討を行う。
	到達目標 中小企業の成長過程をイメージできるようになること。	

学びの準備	到達目標 中小企業の成長過程をイメージできるようになること。
-------	-----------------------------------

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 理論                         <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 中小企業とは</li> <li>(2) 起業家とベンチャー企業</li> <li>(3) 起業のプロセスと成長戦略</li> <li>(4) 組織のマネジメント</li> </ol> </li> <li>2. ファイナンスとマーケティング                         <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) ファイナンス</li> <li>(2) マーケティング</li> </ol> </li> <li>3. 外部環境                         <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 組織間関係</li> <li>(2) 組織の失敗要因の分析</li> <li>(3) コミュニティ・ビジネス</li> </ol> </li> <li>4. 会社設立と起業の実践について</li> <li>5. まとめ</li> </ol>
	テキスト・参考文献・資料など 適宜プリントを配布する。
	学びの手立て 県内外の中小企業に対する関心を深めて欲しい。
	評価 期末試験（80%）、中間レポート（20%）

学びの継続	次のステージ・関連科目 中小企業診断Ⅰ、中小企業診断Ⅱ、および経営コースの各科目。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	中小企業診断 I	前期	水 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-高嶺 直	3年	ptt109@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 中小企業や小規模事業者の経営課題は、年々、複雑化・多様化しており、持続的経営に向けた経営診断は高度な専門知識や技術を使って課題解決を進める必要がある。本講義では、診断先の中小企業及び小規模事業者の現状を理解するとともに経営診断の基本について学んでいく。	メッセージ ・論理的思考で物事を捉えるよう心掛けて欲しい。 ・大学で学ぶ知識を横断的に活用できるよう心掛けて欲しい。
	到達目標 ・中小企業・小規模事業者の現状について説明ができる。 ・経営診断のプロセスを体系的に理解し説明できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	中小企業の現状	中小企業白書、統計調査にて学習
	3	小規模事業者の現状	
	4	中小企業基本法の概要	中小企業、小規模事業者 関連法規にて学習
	5	小規模基本法の概要	
	6	経営診断のスタイル	
	7	中小企業の経営戦略	経営学概論、経営戦略論にて学習
	8	経営環境の分析①	
	9	経営環境の分析②	
	10	経営方針・目標の決定	
	11	経営戦略の実行管理	
	12	財務諸表の読み方と分析	財務会計論、経営分析論にて学習
	13	資金調達	
	14	労務管理	労働関連法規にて学習
	15	経営法務	会社関連法規にて学習
	16	期末試験	
	テキスト・参考文献・資料など テキストは指定しない。ワークシート（講義ノート）を用いて講義を進める。		
	学びの手立て 毎回出席をとる。その時点で教室にいない場合は欠席となる。やむを得ず欠席する場合は、必ず欠席届を提出すること。 講義はワークシート（講義ノート）を毎回使用するの、忘れずに必ず持参すること。		
	評価 期末試験50%、レポート提出30%、授業態度20% 出席状況については、無断欠席が5回以上になると「不可」となる。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 中小企業診断士の一次試験に関連する科目（経営学、財務・会計学、マーケティング、経済学、経営情報、経営法務、中小企業論）を履修し、資格取得を目指してもらいたい。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	中小企業診断Ⅱ	後期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-銘苅 康弘	3年	mekaruyasuhiro@gmail.com	

学びの準備	ねらい 中小企業の経営診断を行うにあたり必要な基礎知識の習得を行い、架空の企業事例をもとに具体的な診断を体系的に学習する。	メッセージ 大学にて学んだ経営理論を仕事の場で活かせるような、ものの味方や考え方を身につけます。たとえどのような仕事についてもビジネスパーソンとして必要な知識とそれを具体的に活用する術が学べます。
	到達目標 ・企業経営の事象を論理的に分析し、問題点、課題、解決策を導くことができる ・中小企業診断士試験の問題を理解し回答できる	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス、履修登録	
	2	企業診断の進め方	企業診断のフレームワークの理解
	3	中小企業の経営戦略	経営理論についておさらいすること
	4	〃 の財務診断の概略	財務管理についておさらいすること
	5	〃 の販売診断の概略1	フレームワークのおさらい
	6	〃 の販売診断の概略2	同上
	7	〃 の生産診断の概略	原価管理のおさらい
	8	中間テスト	
	9	中間テストの解説	
	10	小売商業の診断演習1	小売商業の動向について調査
	11	〃 2	同上
	12	製造業の診断演習1	国内製造業の動向について調査
	13	〃 2	同上
	14	サービス業の診断演習	国内のIT業界について調査
	15	期末テスト	
	16	期末テスト解説、考査	
	テキスト・参考文献・資料など 市販のテキスト等は使用しません。オリジナルの資料を適宜配布します。		
	学びの手立て ・出欠確認を毎回行い、評価点とします ・講義に参加しかつ議論に参加することを重視します ・社会や経済環境に興味を持ち普段からニュース等をウオッチしてください		
	評価 平常点（60%）：講義への出席と積極的な発言に対して加点します 中間テスト（20%）：マネジメントやマーケティングの基本知識のおさらいをします 期末テスト（20%）：架空企業の診断を行っていただきます。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 中小企業診断士試験の資格取得を目指していただきたい。 就職後の仕事においてももの見方や物事の進め方を実践的に活かしていただきたい。
-------	---



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本流通論	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	髭白 晃宜	2年	t.higeshiro@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>①流通に関する基礎的な理論を学び、今日の流通実態を理解する。                  ②流通業態の発展を学ぶことで、流通業の役割を理解する。                  ③日本型流通の発展について考える契機を与える。</p>	<p>流通は、生産と消費をつなぐことで商業活動を円滑に行う手助けをするという役割を持っています。流通チャンネルが多様であるがゆえに、私たちは便利で豊かな生活を送ることができます。本講義では、生活に密接に結び付いた流通の仕組みや役割を学ぶことで、日本型流通の特徴や問題点を明らかにしていきます。</p>
到達目標	<p>①流通に関する基礎的な理論を習得し、今日の流通実態について理解できる。                  ②小売業の業態についての理解を深めると同時に、日本型流通システムの特徴を知る。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
2	流通とは何か		
3	流通業者の役割		
4	卸売業①：卸売業の機能		日本の卸売業の特徴について
5	卸売業②：卸売業の多段階性		中間試験①対策
6	中間試験①		中間試験①の見直し
7	小売業①：小売業の機能		
8	小売業②：百貨店		業種と業態について
9	小売業③：百貨店		小売業の革新について
10	小売業④：スーパーマーケット		日本のスーパーの特徴について
11	小売業⑤：スーパーマーケット		中間試験②対策
12	中間試験②		中間試験②の見直し
13	小売業⑥：コンビニエンスストア		日本のコンビニの特徴について
14	小売業⑦：コンビニエンスストア		ドミナント戦略について
15	沖縄県小売業の特徴		期末試験対策
16	期末試験		
テキスト・参考文献・資料など	<p>※以下のテキストを講義の際に必ず持参すること。                  使用テキスト：                  番場博之編著『基礎から学ぶ流通の理論と政策（新版）』八千代出版，2016年</p>		
学びの手立て	<p>①テキストは必ず購入して、時間外に必ず予習・復習ができる態勢を整えてください。                  ②欠席5回以上で成績評価は「不可」となります。また、30分以上の遅刻は欠席扱いとします。                  ③「マーケティング入門Ⅰ」および「マーケティング入門Ⅱ」の内容を復習したうえで講義に臨むこと。                  ④スーパーマーケット、コンビニエンスストアなどをよく観察し、流通チャンネルの重要性を学ぶこと。</p>		
評価	<p>◆中間試験①：25点                  ◆中間試験②：30点                  ◆期末試験：30点                  ◆ミニレポート：15点（毎講義中に課すレポートのこと：講義数15回×各回1点）                  合計：100点満点</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>地域社会における流通業の役割を理解して、小売業や卸売業が抱える課題を発見する。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	販売管理論	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	髭白 晃宜	2年	t.higeshiro@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	販売業務の基礎（接客・販売技術・店舗経営等）を学ぶことで、関連する流通・マーケティング科目の習得につなげる。 明確な達成目標として、リテールマーケティング（販売士）検定3級の取得を目指すことで、流通・マーケティングを学ぶことの有意義さを身近に感じてもらえるようにする。	皆さんはショッピングをする際に、商品の質や価格のほかに、店内の雰囲気、従業員の接客、商品の品揃えや陳列方法に興味を持ったことはありませんか。販売の現場では、顧客のニーズを的確に捉えようと日々様々な工夫を凝らしています。 本講義では、リテールマーケティング検定3級取得を目指しながら、流通やマーケティングをより身近に学んでいきます。
到達目標	①流通システムにおける小売業の役割を理論・実務双方の点から理解する。 ②リテールマーケティング（販売士）検定3級取得に必要な知識を習得する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス：販売士検定とは	検定受検方法の確認
	2	ストアオペレーション①	販売実務についての学習
	3	ストアオペレーション②	同上
	4	ストアオペレーション③	同上
	5	ストアオペレーション④	中間試験①対策
	6	中間試験①	中間試験①の見直し
	7	販売・経営管理①	販売事務・店舗管理についての学習
8	販売・経営管理②	同上	
9	販売・経営管理③	同上	
10	販売・経営管理④	中間試験②対策	
11	中間試験②	中間試験②の見直し	
12	マーケティング		
13	小売業の類型		
14	マーチャンダイジング		
15	これまでの復習	期末試験対策	
16	期末試験		
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	※以下のテキストを講義の際に必ず持参すること。 使用テキスト： ①中谷安伸『よくわかる販売士検定（リテールマーケティング）3級 Part1』 一ツ橋書店、2014年 ②中谷安伸『よくわかる販売士検定（リテールマーケティング）3級 Part2』 一ツ橋書店、2014年		
	学びの手立て		
	①テキストは必ず購入して、時間外に必ず予習・復習ができる態勢を整えてください。 ②欠席5回以上で成績評価は「不可」となります。また、30分以上の遅刻は欠席扱いとします。 ③「流通総論」と「マーケティング総論」の事前履修を推奨。講義内容をより深く理解できます。 ④普段からスーパーマーケット、コンビニエンスストアなどをよく観察し、販売のための工夫を学ぶこと。		
	評価		
	◆中間試験①：25点 ◆中間試験②：30点 ◆期末試験：30点 ◆ミニレポート：15点（毎講義中に課すレポートのこと：講義数15回×各回1点） 合計：100点満点		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	販売実務への興味を喚起し、流通やマーケティングが身近なものであることを理解することが目標。 履修学生には、リテールマーケティング（販売士）検定3級もしくは2級への挑戦を促したい。 関連科目には「小売流通論Ⅰ」および「小売流通論Ⅱ」がある。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	販売管理論	前期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	髭白 晃宜	2年	t.higeshiro@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	販売業務の基礎（接客・販売技術・店舗経営等）を学ぶことで、関連する流通・マーケティング科目の習得につなげる。 明確な達成目標として、リテールマーケティング（販売士）検定3級の取得を目指すことで、流通・マーケティングを学ぶことの有意義さを身近に感じてもらえるようにする。	皆さんはショッピングをする際に、商品の質や価格のほかに、店内の雰囲気、従業員の接客、商品の品揃えや陳列方法に興味を持ったことはありませんか。販売の現場では、顧客のニーズを的確に捉えようと日々様々な工夫を凝らしています。 本講義では、リテールマーケティング検定3級取得を目指しながら、流通やマーケティングをより身近に学んでいきます。
到達目標	①流通システムにおける小売業の役割を理論・実務双方の点から理解する。 ②リテールマーケティング（販売士）検定3級取得に必要な知識を習得する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス：販売士検定とは	検定受検方法の確認
	2	小売業の類型①	小売流通業についての学習
	3	小売業の類型②	同上
	4	小売業の類型③	同上
	5	小売業の類型④	中間試験①対策
	6	中間試験①	中間試験①の見直し
	7	マーチャンダイジング①	小売業の経営管理についての学習
8	マーチャンダイジング②	同上	
9	マーチャンダイジング③	同上	
10	マーチャンダイジング④	中間試験②対策	
11	中間試験②	中間試験②の見直し	
12	ストアオペレーション		
13	マーケティング		
14	販売・経営管理		
15	これまでの復習	期末試験対策	
16	期末試験		
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	※以下のテキストを講義の際に必ず持参すること。 使用テキスト： ①中谷安伸『よくわかる販売士検定（リテールマーケティング）3級 Part1』 一ツ橋書店、2014年 ②中谷安伸『よくわかる販売士検定（リテールマーケティング）3級 Part2』 一ツ橋書店、2014年		
	学びの手立て		
	①テキストは必ず購入して、時間外に必ず予習・復習ができる態勢を整えてください。 ②欠席5回以上で成績評価は「不可」となります。また、30分以上の遅刻は欠席扱いとします。 ③「流通総論」と「マーケティング総論」の事前履修を推奨。講義内容をより深く理解できます。 ④普段からスーパーマーケット、コンビニエンスストアなどをよく観察し、販売のための工夫を学ぶこと。		
	評価		
	◆中間試験①：25点 ◆中間試験②：30点 ◆期末試験：30点 ◆ミニレポート：15点（毎講義中に課すレポートのこと：講義数15回×各回1点） 合計：100点満点		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	販売実務への興味関心を喚起し、流通やマーケティングが非常に身近なものであることを理解することが目標。 履修学生には、リテールマーケティング（販売士）検定3級もしくは2級へのチャレンジを促したい。 関連科目には「小売流通論Ⅰ」および「小売流通論Ⅱ」がある。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	比較経営論 I	前期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	佐久本 朝一	3年		

学びの準備	ねらい 国際比較の経営的な視点より辺境における経済発展の理論について説明する。	メッセージ
	到達目標 経営組織を構成する人・文化・経済という視点から、イギリス・アメリカ・日本の経済発展のプロセスを辿っていくことになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 1 国際的な企業における経営組織 2 イギリスにおける企業経営組織 3 アメリカの経営組織 4 経済発展と企業者活動 5 経営戦略 6 経営理念の国際比較 7 日本型雇用システムの特質 10 欧米と日本の経営組織の比較 11 アジア型経営組織と日本的経営 12 沖縄の経営組織の特質
	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	比較経営論Ⅱ	後期	金2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	佐久本 朝一	3年		

学びの準備	ねらい 比較経営に関する専門知識を把握する。	メッセージ
	到達目標	

学びの準備	到達目標
-------	------

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 1 中川敬一郎「比較経営史序説」東京大学出版会 アリカマネジメントの特質を日米比較の観点から知ることができる。 2 大河内暁男「経営構想力」東京大学出版会 企業経営者の経営行動についての具体的ケースが豊富にもりこまれている。
	テキスト・参考文献・資料など 1 佐久本朝一「技術革新下の日本型企业社会」ユージン伝株式会社 2 佐久本朝一「日本企業と過労シンドローム」中央経済社

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 1 佐久本朝一「技術革新下の日本型企业社会」ユージン伝株式会社 2 佐久本朝一「日本企業と過労シンドローム」中央経済社
-------	--

学びの実践	学びの手立て   評価
-------	----------------------

学びの実践	評価
-------	----

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ビジネス実務総論	通年	木5	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	李 相典	2年	sangjeon1120@gmail.com または授業終了後	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>1. マーケティング実務において要求される、「商品企画の基礎能力」を身に付ける。</p> <p>2. マーケティング実務の「商品企画」において要求される、企画プロセスや必要なスキルについて学習する。</p>	<p>マーケティング実務において、「商品企画」はマーケターとして最も面白い仕事ではないかと思えます。「商品企画」には多様な調査方法、コンセプトデザイン、そして企画書作成など、多様なスキルと想像力が必要です。本講義では、マーケティングに関するビジネス実務に活用できるような基礎的な「商品企画」について演習します。</p>
到達目標	<p>1. マーケティング実務において、活用可能な「商品企画」の基礎的なプロセスを学習する。</p> <p>2. 「商品企画」のために要求される「創造的なアイデア」の導出プロセスを学習する。</p> <p>3. ビジネス実務において、最も基礎的な「企画書の作成方法」を学習する。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	前期オリエンテーション	
	2	商品企画プロセス	
	3	探索的市場調査法1。インタビュー法	
	4	探索的市場調査法2。観察法	
	5	探索的市場調査法3。リード・ユーザー法	
	6	コンセプト・デザイン1。アイデア創出	
	7	コンセプト・デザイン2。コンセプト開発。グループ分け	グループ・レポート課題
	8	検証的市場調査1。市場規模の確認	
	9	検証的市場調査2。競合・技術の確認	
	10	検証的市場調査3。顧客ニーズの確認	
	11	企画書作成1。販促提案	
	12	企画書作成2。価格提案	
	13	企画書作成3。チャネル提案	
	14	ビジネス企画書作成の演習1	グループ・レポート提出
	15	ビジネス企画書作成の演習2	
	16	前期授業のまとめ	
	17	後期オリエンテーション、グループ・プロジェクトの方法	グループ別商品企画の討論
	18	商品企画書作成Ⅰ。探索的市場調査1	同上
	19	商品企画書作成Ⅰ。探索的市場調査2	同上
	20	商品企画書作成Ⅱ。商品のコンセプト・デザイン	同上
	21	商品企画書作成Ⅲ。市場需要(予測)調査1	同上
	22	商品企画書作成Ⅲ。市場需要(予測)調査2	同上
	23	グループ・プロジェクト課題、中間報告会1	グループ間ディスカッション
	24	グループ・プロジェクト課題、中間報告会2	同上
	25	商品企画書作成Ⅳ。価格戦略の樹立	グループ別商品企画の報告準備
	26	商品企画書作成Ⅳ。販促・チャネル戦略	同上
	27	商品企画書作成Ⅴ。事業性評価1	同上
	28	商品企画書作成Ⅴ。事業性評価2	同上
29	グループ・プロジェクト課題、最終報告会1	グループ間ディスカッション	
30	グループ・プロジェクト課題、最終報告会2	同上	
31	後期授業のまとめ		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. テキスト： <ul style="list-style-type: none"> <li>→前期：西川英彦・廣田章光編著『1からの商品企画』碩学舎、2012年</li> <li>→後期：使用しません。適宜、プリントを配布します。</li> </ul> </li> </ol>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 遅刻や無断欠席は成績評価に積極的に反映しますので、ご注意ください。 やむを得ず遅刻・欠席の場合、事前にメールで連絡してください。</li> <li>2. 実際の分析方法などを学ぶにあたって、履修者自身の努力や復習が重要となる授業です。積極的に講義に参加してください。</li> </ol>
学 び の 継 続	<p>評価</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 出席・受講態度50%：前期25%、後期25% *5回以上の遅刻や無断欠席の場合は履修できません。授業中またはディスカッションへの積極的な参加には加点があります。</li> <li>2. 前期レポート20%</li> <li>3. 後期プロジェクト30%</li> </ol>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：ビジネス実務に有用な『マーケティング特別講義』など、より多様なマーケティングの視角を得られる科目を履修または聴講してください。</p> <p>次のステージ：ビジネス実務に有用な『セールス・プロモーション』や『ソーシャル・マーケティング』など、より多様なマーケティングの視角を得られる科目を履修または聴講してください。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ビジネスプレゼンテーション	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-佐渡山 美智子	3年	free-net@ezweb.ne.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>「伝えたいこと」を誤解なく、効果的に表現するためには、コミュニケーションの基本を知ることが必要です。傾聴、理解、共感、確認、伝達など、「相手を知ること」で、伝える内容や表現を選ぶことができます。あわせて、相手への敬意を表すためには、姿勢を整え挨拶を交わし、より伝わる話し方を身につけ、言葉に責任を持った表現ができることを目指します。</p>	<p>社会人として求められるスキルのトップにあげられるのは、コミュニケーション力です。ビジネスの基本である報告・連絡・相談も、相手の身になって考え、行動することから始まります。姿勢を正して挨拶ができ、その言葉は聞き取りやすく、しっかりと責任をもって伝えることができるようにスキルアップを図ります。プレゼンテーション、ディスカッション、ディベートを通して実践します。</p>
到達目標	<p>●傾聴（話の内容と意図を理解）し、要点をメモにとることができる。●姿勢を整え、しっかりと挨拶をすることができる。●言葉が聞きとりやすく、はっきりと話すことができる。●情報の収集・整理・選択ができる。●グループワークで意見を調整し、プレゼンテーションができる。●聞き手にあわせて、効果的に話をする事ができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		時間外学習の内容
	回	テーマ	
	1	ガイダンス	自己紹介・受講目的について準備
	2	姿勢・挨拶・発声トレーニング・自己紹介・インタビュー・他己紹介	発声練習・自己PR文の作成
	3	自己PRスピーチトレーニング・音読トレーニング	新聞記事の準備
	4	継承<クリエイティブリスニング>、新聞記事の音読・内容紹介	ディスカッションテーマの提案
	5	ディスカッションテーマの提案<グループテーマの選択>	テーマについての情報収集
	6	情報の収集・整理・選択<情報の提供と目的の明確化・表現の方法>	コメントの作成・言葉の選択
	7	ディスカッション<傾聴・理解・伝達・表現>	振り返りレポート
	8	ディベートについて<多角的なもの見方・多様な価値観の理解>	ディベートテーマの提案準備
	9	ディベートテーマの提案・決定<社会的な課題からの選択>	裏付けデータ等、情報の収集・選択
	10	ディベートマップの作成<多角的視点・ストーリーの作成>	ファイルの整理・発言リハーサル
	11	ディベートマッチ<実践>＝物事の本質を観る論理的な話し方	振り返りレポート・就活の現状を整理
	12	ディスカッション<就職活動を有利に展開するために>	現状の把握・情報収集・整理・所見
	13	グループワーク<情報共有・整理・選択・要点・表現方法等>	パワーポイントの作成
	14	チームプレゼンテーション<実践1>	PDCAマネジメントサイクルで検証
15	チームプレゼンテーション<実践2>	総括レポートのまとめ	
16	総括<コミュニケーション力とプレゼンテーション>		

テキスト・参考文献・資料など  
 テキストは使用しません。必要な資料は、プリントで配布致します。

学びの手立て  
 履修の心構えとして ●出欠確認を厳格に行います。連絡なしの欠席・遅刻は大きな減点となります。やむを得ない状況の場合は、必ず連絡することを基本とします。欠席届は必ず翌週までに提出してください。●この講義を受講する目的を明確にして臨むことが有意義な活動へと繋がります。●プリントは最小限に準備する予定です。講義内の話をきちんと聞く姿勢から、傾聴と学び取るチカラをつけてもらいます。あわせて、その要点をメモにして記録を残し、振り返り・確認ができること評価します。社会でもとめられているスキルのひとつです。●人と人を繋ぐ意識を持ち、グループワークでよりよいコミュニケーションのために行動してください。●質問するチカラで講義の内容をより有意義なものにしてください。

評価	<input type="checkbox"/> 出席率 <input type="checkbox"/> 宿題・課題など事前準備の状況	<input type="checkbox"/> 提出物（レポートやノートなど） <input type="checkbox"/> 活動内容と実績
----	---	--

次のステージ・関連科目  
 ●この講義で要点となっていることを意識的に実践していくことが、スキルアップに繋がります。3年生は、就職活動の中で、また、社会人としても常にコミュニケーションと表現。自分の言葉に責任をもつことをこころがけることが大切です。



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	フレッシュマン・セミナー	前期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮森 正樹	1年	miyamori@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>大学での学習の始まりとして、また、産業情報学部・企業システム学科の学生としての基礎的な学習能力、コミュニケーション能力、表現力を高めることを目的とします。</p>	<p>フレッシュマン・セミナーは、4年間の大学生活が豊かで実りあるものになるための基礎的な学習能力を身につける授業です。また、4年間共に勉学に励む仲間との交流の場でもあるので、積極的に授業に参加してください。</p>
到達目標	<p>1. 目的・課題に対して適切に情報を収集することができる。                  2. プレゼンテーション能力を身につける。                  3. ビジネスに興味・関心を持ち、問題解決のためにディスカッションをすることができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	履修ガイドやシラバス等を熟読する
	2	新聞記事（経済記事）の読み方、捉え方	新聞記事を読む
	3	レポート・小論文の書き方Ⅰ	レポート・小論文を書く
	4	レポート・小論文の書き方Ⅱ	レポート・小論文を書く
	5	図書館によるガイダンス	図書館を活用する
	6	キャリア支援課による就職ガイダンス	就職情報を調べる
	7	学生相談室によるガイダンス	学生生活について考える
8	プレゼンテーションの方法と実践Ⅰ	プレゼンソフトを使用する	
9	プレゼンテーションの方法と実践Ⅱ	プレゼンソフトを使用する	
10	ディスカッションの方法と実践Ⅰ	ディスカッションテーマを調べる	
11	ディスカッションの方法と実践Ⅱ	ディスカッションテーマを調べる	
12	沖縄県内産業の実態とその動向Ⅰ	沖縄県内産業の実態を調べる	
13	沖縄県内産業の実態とその動向Ⅱ	沖縄県内産業の実態を調べる	
14	ビジネス分野（経営・マーケティング・会計）の基礎知識Ⅰ	ビジネスに関する情報収集	
15	ビジネス分野（経営・マーケティング・会計）の基礎知識Ⅱ	ビジネスに関する情報収集	
16	期末試験・レポートの提出		
テキスト・参考文献・資料など	<p>随時、プリント資料等を配布する。                  参考文献については、必要に応じて講義中に紹介する。</p>		
学びの手立て	<p>・専門必修科目なので、休まず出席してください。                  ・積極的に多様なメディア（新聞、TV、インターネット、書籍等）で情報を収集してください。</p>		
評価	<p>授業への参加態度、課題提出、期末試験等によって総合評価する。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>1年の終了次には「マーケティング」「経営」「会計」のいずれかのコースを選択しますので、1年次のうちに将来の職業や自身の興味・関心のあるテーマを決めるようにしてください。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	フレッシュマン・セミナー	前期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	慶田花 英太	1年	e.kedahana@okiu.ac.jp 研究室：9号館503号室	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>大学での学習の始まりとして、また、産業情報学部・企業システム学科の学生としての基礎的な学習能力、コミュニケーション能力、表現力を高めることを目的とします。</p>	<p>フレッシュマン・セミナーは、4年間の大学生活が豊かで実りあるものになるための基礎的な学習能力を身につける授業です。また、4年間共に勉学に励む仲間との交流の場でもあるので、積極的に授業に参加してください。</p>
到達目標	<p>1. 目的・課題に対して適切に情報を収集することができる。 2. プレゼンテーション能力を身につける。 3. ビジネスに興味・関心を持ち、問題解決のためにディスカッションをすることができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	履修ガイドやシラバス等を熟読する
	2	新聞記事（経済記事）の読み方、捉え方	新聞記事を読む
	3	レポート・小論文の書き方Ⅰ	レポート・小論文を書く
	4	レポート・小論文の書き方Ⅱ	レポート・小論文を書く
	5	図書館によるガイダンス	図書館を活用する
	6	キャリア支援課による就職ガイダンス	就職情報を調べる
	7	学生相談室によるガイダンス	学生生活について考える
	8	プレゼンテーションの方法と実践Ⅰ	プレゼンソフトを使用する
	9	プレゼンテーションの方法と実践Ⅱ	プレゼンソフトを使用する
	10	ディスカッションの方法と実践Ⅰ	ディスカッションテーマを調べる
	11	ディスカッションの方法と実践Ⅱ	ディスカッションテーマを調べる
	12	沖縄県内産業の実態とその動向Ⅰ	沖縄県内産業の実態を調べる
	13	沖縄県内産業の実態とその動向Ⅱ	沖縄県内産業の実態を調べる
14	ビジネス分野（経営・マーケティング・会計）の基礎知識Ⅰ	ビジネスに関する情報収集	
15	ビジネス分野（経営・マーケティング・会計）の基礎知識Ⅱ	ビジネスに関する情報収集	
16	期末試験・レポートの提出		
テキスト・参考文献・資料など	<p>随時、プリント資料等を配布する。 参考文献については、必要に応じて講義中に紹介する。</p>		
学びの手立て	<p>・専門必修科目なので、休まず出席してください。 ・積極的に多様なメディア（新聞、TV、インターネット、書籍等）で情報を収集してください。</p>		
評価	<p>授業への参加態度、課題提出、期末試験等によって総合評価する。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>1年の終了次には「マーケティング」「経営」「会計」のいずれかのコースを選択しますので、1年次のうちに将来の職業や自身の興味・関心のあるテーマを決めるようにしてください。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	フレッシュマン・セミナー	前期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	仲地 健	1年	5号館636研究室	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>大学での学習の始まりとして、また、産業情報学部・企業システム学科の学生としての基礎的な学習能力、コミュニケーション能力、表現力を高めることを目的とします。</p>	<p>フレッシュマン・セミナーは、4年間の大学生活が豊かで実りあるものになるための基礎的な学習能力を身につける授業です。また、4年間共に勉学に励む仲間との交流の場でもあるので、積極的に授業に参加してください。</p>

到達目標	<p>1. 目的・課題に対して適切に情報を収集することができる。</p> <p>2. プレゼンテーション能力を身につける。</p> <p>3. ビジネスに興味・関心を持ち、問題解決のためにディスカッションをすることができる。</p>
------	--

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	履修ガイドやシラバス等を熟読する
	2	新聞記事（経済記事）の読み方、捉え方	新聞記事を読む
	3	レポート・小論文の書き方Ⅰ	レポート・小論文を書く
	4	レポート・小論文の書き方Ⅱ	レポート・小論文を書く
	5	図書館によるガイダンス	図書館を活用する
	6	キャリア支援課による就職ガイダンス	就職情報を調べる
	7	学生相談室によるガイダンス	学生生活について考える
	8	プレゼンテーションの方法と実践Ⅰ	プレゼンソフトを使用する
	9	プレゼンテーションの方法と実践Ⅱ	プレゼンソフトを使用する
	10	ディスカッションの方法と実践Ⅰ	ディスカッションテーマを調べる
	11	ディスカッションの方法と実践Ⅱ	ディスカッションテーマを調べる
	12	沖縄県内産業の実態とその動向Ⅰ	沖縄県内産業の実態を調べる
	13	沖縄県内産業の実態とその動向Ⅱ	沖縄県内産業の実態を調べる

テキスト・参考文献・資料など	<p>随時、プリント資料等を配布する。</p> <p>参考文献については、必要に応じて講義中に紹介する。</p>
----------------	--

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門必修科目なので、休まず出席してください。</li> <li>・積極的に多様なメディア（新聞、TV、インターネット、書籍等）で情報を収集してください。</li> </ul>
--------	---

評価	<p>授業への参加態度、課題提出、期末試験等によって総合評価する。</p>
----	---------------------------------------

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>1年の終了次には「マーケティング」「経営」「会計」のいずれかのコースを選択しますので、1年次のうちに将来の職業や自身の興味・関心のあるテーマを決めるようにしてください。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	フレッシュマン・セミナー	前期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	天野 敦央	1年	第5-603番教室(研究室)	

学びの準備	ねらい 大学での学習の始まりとして、また、産業情報学部・企業システム学科の学生としての基礎的な学習能力、コミュニケーション能力、表現力を高めることを目的とします。	メッセージ フレッシュマン・セミナーは、4年間の大学生活が豊かで実りあるものになるための基礎的な学習能力を身につける授業です。また、4年間共に勉学に励む仲間との交流の場でもあるので、積極的に授業に参加してください。
	到達目標 1. 目的・課題に対して適切に情報を収集することができる。 2. プレゼンテーション能力を身につける。 3. ビジネスに興味・関心を持ち、問題解決のためにディスカッションをすることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	履修ガイドやシラバス等を熟読する
	2	新聞記事(経済記事)の読み方、捉え方	新聞記事を読む
	3	レポート・小論文の書き方Ⅰ	レポート・小論文を書く
	4	レポート・小論文の書き方Ⅱ	レポート・小論文を書く
	5	図書館によるガイダンス	図書館を活用する
	6	キャリア支援課による就職ガイダンス	就職情報を調べる
	7	学生相談室によるガイダンス	学生生活について考える
	8	プレゼンテーションの方法と実践Ⅰ	プレゼンソフトを使用する
9	プレゼンテーションの方法と実践Ⅱ	プレゼンソフトを使用する	
10	ディスカッションの方法と実践Ⅰ	ディスカッションテーマを調べる	
11	ディスカッションの方法と実践Ⅱ	ディスカッションテーマを調べる	
12	沖縄県内産業の実態とその動向Ⅰ	沖縄県内産業の実態を調べる	
13	沖縄県内産業の実態とその動向Ⅱ	沖縄県内産業の実態を調べる	
14	ビジネス分野(経営・マーケティング・会計)の基礎知識Ⅰ	ビジネスに関する情報収集	
15	ビジネス分野(経営・マーケティング・会計)の基礎知識Ⅱ	ビジネスに関する情報収集	
16	期末試験・レポートの提出		
	テキスト・参考文献・資料など 随時、プリント資料等を配布する。 参考文献については、必要に応じて講義中に紹介する。		
	学びの手立て ・専門必修科目なので、休まず出席してください。 ・積極的に多様なメディア(新聞、TV、インターネット、書籍等)で情報を収集してください。		
	評価 授業への参加態度、課題提出、期末試験等によって総合評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 1年の終了次には「マーケティング」「経営」「会計」のいずれかのコースを選択しますので、1年次のうちに将来の職業や自身の興味・関心のあるテーマを決めるようにしてください。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	フレッシュマン・セミナー	前期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	李 相典	1年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>大学での学習の始まりとして、また、産業情報学部・企業システム学科の学生としての基礎的な学習能力、コミュニケーション能力、表現力を高めることを目的とします。</p>	<p>フレッシュマン・セミナーは、4年間の大学生活が豊かで実りあるものになるための基礎的な学習能力を身につける授業です。また、4年間共に勉学に励む仲間との交流の場でもあるので、積極的に授業に参加してください。</p>
到達目標	<p>1. 目的・課題に対して適切に情報を収集することができる。 2. プレゼンテーション能力を身につける。 3. ビジネスに興味・関心を持ち、問題解決のためにディスカッションをすることができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	履修ガイドやシラバス等を熟読する
	2	新聞記事（経済記事）の読み方、捉え方	新聞記事を読む
	3	レポート・小論文の書き方Ⅰ	レポート・小論文を書く
	4	レポート・小論文の書き方Ⅱ	レポート・小論文を書く
	5	図書館によるガイダンス	図書館を活用する
	6	キャリア支援課による就職ガイダンス	就職情報を調べる
	7	学生相談室によるガイダンス	学生生活について考える
8	プレゼンテーションの方法と実践Ⅰ	プレゼンソフトを使用する	
9	プレゼンテーションの方法と実践Ⅱ	プレゼンソフトを使用する	
10	ディスカッションの方法と実践Ⅰ	ディスカッションテーマを調べる	
11	ディスカッションの方法と実践Ⅱ	ディスカッションテーマを調べる	
12	沖縄県内産業の実態とその動向Ⅰ	沖縄県内産業の実態を調べる	
13	沖縄県内産業の実態とその動向Ⅱ	沖縄県内産業の実態を調べる	
14	ビジネス分野（経営・マーケティング・会計）の基礎知識Ⅰ	ビジネスに関する情報収集	
15	ビジネス分野（経営・マーケティング・会計）の基礎知識Ⅱ	ビジネスに関する情報収集	
16	期末試験・レポートの提出		
テキスト・参考文献・資料など	<p>随時、プリント資料等を配布する。 参考文献については、必要に応じて講義中に紹介する。</p>		
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門必修科目なので、休まず出席してください。</li> <li>・積極的に多様なメディア（新聞、TV、インターネット、書籍等）で情報を収集してください。</li> </ul>		
評価	<p>授業への参加態度、課題提出、期末試験等によって総合評価する。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>1年の終了次には「マーケティング」「経営」「会計」のいずれかのコースを選択しますので、1年次のうちに将来の職業や自身の興味・関心のあるテーマを決めるようにしてください。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	フレッシュマン・セミナー	前期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	菅森 聡	1年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>大学での学習の始まりとして、また、産業情報学部・企業システム学科の学生としての基礎的な学習能力、コミュニケーション能力、表現力を高めることを目的とします。</p>	<p>フレッシュマン・セミナーは、4年間の大学生活が豊かで実りあるものになるための基礎的な学習能力を身につける授業です。また、4年間共に勉学に励む仲間との交流の場でもあるので、積極的に授業に参加してください。</p>
到達目標	<p>1. 目的・課題に対して適切に情報を収集することができる。                  2. プレゼンテーション能力を身につける。                  3. ビジネスに興味・関心を持ち、問題解決のためにディスカッションをすることができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	履修ガイドやシラバス等を熟読する
	2	新聞記事（経済記事）の読み方、捉え方	新聞記事を読む
	3	レポート・小論文の書き方Ⅰ	レポート・小論文を書く
	4	レポート・小論文の書き方Ⅱ	レポート・小論文を書く
	5	図書館によるガイダンス	図書館を活用する
	6	キャリア支援課による就職ガイダンス	就職情報を調べる
	7	学生相談室によるガイダンス	学生生活について考える
8	プレゼンテーションの方法と実践Ⅰ	プレゼンソフトを使用する	
9	プレゼンテーションの方法と実践Ⅱ	プレゼンソフトを使用する	
10	ディスカッションの方法と実践Ⅰ	ディスカッションテーマを調べる	
11	ディスカッションの方法と実践Ⅱ	ディスカッションテーマを調べる	
12	沖縄県内産業の実態とその動向Ⅰ	沖縄県内産業の実態を調べる	
13	沖縄県内産業の実態とその動向Ⅱ	沖縄県内産業の実態を調べる	
14	ビジネス分野（経営・マーケティング・会計）の基礎知識Ⅰ	ビジネスに関する情報収集	
15	ビジネス分野（経営・マーケティング・会計）の基礎知識Ⅱ	ビジネスに関する情報収集	
16	期末試験・レポートの提出		
テキスト・参考文献・資料など	<p>随時、プリント資料等を配布する。                  参考文献については、必要に応じて講義中に紹介する。</p>		
学びの手立て	<p>・専門必修科目なので、休まず出席してください。                  ・積極的に多様なメディア（新聞、TV、インターネット、書籍等）で情報を収集してください。</p>		
評価	<p>授業への参加態度、課題提出、期末試験等によって総合評価する。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>1年の終了次には「マーケティング」「経営」「会計」のいずれかのコースを選択しますので、1年次のうちに将来の職業や自身の興味・関心のあるテーマを決めるようにしてください。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	フレッシュマン・セミナー	前期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	原田 優也	1年	原田優也 (5号館5633号室) Email: mongkhol@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>大学での学習の始まりとして、また、産業情報学部・企業システム学科の学生としての基礎的な学習能力、コミュニケーション能力、表現力を高めることを目的とします。</p>	<p>フレッシュマン・セミナーは、4年間の大学生活が豊かで実りあるものになるための基礎的な学習能力を身につける授業です。また、4年間共に勉学に励む仲間との交流の場でもあるので、積極的に授業に参加してください。</p>
到達目標	<p>1. 目的・課題に対して適切に情報を収集することができる。 2. プレゼンテーション能力を身につける。 3. ビジネスに興味・関心を持ち、問題解決のためにディスカッションをすることができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	履修ガイドやシラバス等を熟読する
	2	新聞記事(経済記事)の読み方、捉え方	新聞記事を読む
	3	レポート・小論文の書き方Ⅰ	レポート・小論文を書く
	4	レポート・小論文の書き方Ⅱ	レポート・小論文を書く
	5	図書館によるガイダンス	図書館を活用する
	6	キャリア支援課による就職ガイダンス	就職情報を調べる
	7	学生相談室によるガイダンス	学生生活について考える
	8	プレゼンテーションの方法と実践Ⅰ	プレゼンソフトを使用する
	9	プレゼンテーションの方法と実践Ⅱ	プレゼンソフトを使用する
	10	ディスカッションの方法と実践Ⅰ	ディスカッションテーマを調べる
	11	ディスカッションの方法と実践Ⅱ	ディスカッションテーマを調べる
	12	沖縄県内産業の実態とその動向Ⅰ	沖縄県内産業の実態を調べる
	13	沖縄県内産業の実態とその動向Ⅱ	沖縄県内産業の実態を調べる
14	ビジネス分野(経営・マーケティング・会計)の基礎知識Ⅰ	ビジネスに関する情報収集	
15	ビジネス分野(経営・マーケティング・会計)の基礎知識Ⅱ	ビジネスに関する情報収集	
16	期末試験・レポートの提出		
テキスト・参考文献・資料など	<p>随時、プリント資料等を配布する。 参考文献については、必要に応じて講義中に紹介する。</p>		
学びの手立て	<p>・専門必修科目なので、休まず出席してください。 ・積極的に多様なメディア(新聞、TV、インターネット、書籍等)で情報を収集してください。</p>		
評価	<p>授業への参加態度、課題提出、期末試験等によって総合評価する。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>1年の終了次には「マーケティング」「経営」「会計」のいずれかのコースを選択しますので、1年次のうちに将来の職業や自身の興味・関心のあるテーマを決めるようにしてください。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	プログラミング演習A	前期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	又吉 光邦	2年	matayosi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 表計算ソフトを用い、実践的なデータ処理やデータ作成を行うための技術を習得する。	メッセージ 表計算ソフトの利用は、ビジネスの実践において必須です。利用できる技術を身につけましょう。
	到達目標 基本的な表計算処理をマスターする。	

学びの準備	到達目標 基本的な表計算処理をマスターする。
-------	---------------------------

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	表の作成	教科書 基礎 第1～2章
	2	表の編集	教科書 基礎 第3章
	3	四則演算と関数	教科書 基礎 第4章
	4	グラフ	教科書 基礎 第5章
	5	データベース	教科書 基礎 第6章
	6	印刷&売り上げ実績表	教科書 基礎 第7章&総合
	7	印刷&売り上げ報告書	教科書 基礎 第7章&総合
	8	申し込み一覧の作成	教科書 基礎 第7章&総合
	9	入力作業をサポートする機能	教科書 応用 第1章
	10	関数を使用した入力サポート	教科書 応用 第2章
	11	データ配布について&データのビジュアル化	教科書 応用 第3～4章
	12	データ分析の準備とデータベース機能	教科書 応用 第5章
	13	ピボットテーブルとピボットグラフ	教科書 応用 第6章
	14	四半期売り上げ実績の制作	教科書 応用 総合
	15	四半期売り上げ分析	教科書 応用 総合
16	課題提出	教科書 全体	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など Microsoft Excel2010 セミナーテキスト問題集 (日経BP社)
-------	---

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <p>コンピュータールームや自宅のPCで、テキストに沿って、課題をしっかりとやること。 また、コンピュータールームによっては、テキストのバージョンとエクセルのバージョンが異なります。社会に出たときも、同じような状況に遭遇すると思います。バージョン間の差を学習して幅広く適応できるようになりましょう。</p>
-------	---

学びの実践	<p>評価</p> <p>出席：規定通り。 提出物：10回程度の提出物。 授業態度：他の学生への迷惑、並びに授業を妨げるような言動がある場合不可とし、以降の授業の参加を認めない。(例：おしゃべり等)。</p>
-------	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>プログラミングB。簿記会計。</p>
-------	--



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	プログラミング演習B	後期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	又吉 光邦	2年	matayosi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本授業では、Android携帯端末のソフト開発を通してプログラミングについて学んでいくことを狙いとしています。授業では、MIT App Inventorを使ったアプリ制作を行います。プログラミングの基本である順次（逐次）、反復（繰り返し）、分岐（条件判断）などをブロックプログラミングで学びます。デザイナー画面によるインターフェイスの設計からアプリ開発まで学びます。	Android端末を持っていると授業で制作したアプリケーションを各自の端末で利用することができます。
到達目標	課題のすべてのアプリケーションを作成する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Android開発環境について	授業共有ファイル その1
	2	APP Inventor開発環境について	授業共有ファイル その1 & その2
	3	ボタンの配置	授業共有ファイル その3
	4	レイアウト方法とGoogleマップの表示方法	授業共有ファイル その4
	5	リスト作成、リストからGoogleマップへのジャンプなどのActivityの設定方法	授業共有ファイル その5
	6	しゃべるAndroidアプリの作成 I	授業共有ファイル その6
	7	しゃべるAndroidアプリの作成 II	授業共有ファイル その7
	8	お絵かきAndroidアプリの製作	授業共有ファイル その8
	9	SNSへの写真&描画メッセージを送信するAndroidアプリの制作	授業共有ファイル その9
	10	タイマー処理を使ったAndroidアプリの作成 I	授業共有ファイル その10
	11	タイマー処理を使ったAndroidアプリの作成 II（ゲームの作成 I）	授業共有ファイル その11
	12	タイマー処理を使ったAndroidアプリの作成 III（ゲーム感覚のアラーム時計の作成）	授業共有ファイル その12
	13	シューティングゲームAndroidアプリの作成 I（スプライトの利用）	授業共有ファイル その13
14	シューティングゲームAndroidアプリの作成 II（タイマー処理の組み込み）	授業共有ファイル その14	
15	まとめ	授業共有ファイル その1～14	
16	課題提出	授業共有ファイル その1～14	
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	APP InventorによるAndroidアプリケーション開発環境のバージョン・アップデートが激しいため、教科書を用いずにプリント（各自、授業共有ファイルよりダウンロード）で行います。また、それに伴い、講義内容に変更のある場合があります。Android関連書籍。関連Webページ。		
	学びの手立て		
	授業共有ファイルに毎時間の授業内容をアップロードします。それを参照しながら、実際にAndroidのアプリケーションを作成していきます。各自、PCがあれば、Java SDKとai starterをインストールして、自分のPCで開発することも可能です。		
	評価		
	出席：規定通り。 提出物：10回程度の提出物。 授業態度：他の学生への迷惑、並びに授業を妨げるような言動がある場合不可とし、以降の授業の参加を認めない。（例：おしゃべり等）。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 マルチメディア論。卒業研究。卒業論文。
-------	------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ベンチャー経営論Ⅱ	後期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-大城 朝子	3年	ptt802@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	ベンチャー企業経営に求められる大企業とは異なった意思決定の構造やスピード感などを学ぶことは、変化の激しい社会の中で自ら主体的に判断し、様々な課題を解決する能力の養成に役立ちます。	ベンチャー企業のマネジメント手法については斬新な手法や概念が数多く用いられています。中でもビジネスアイデアを生み出しブラッシュアップさせるデザイン思考は実際の企業経営においても用いられています。
到達目標	アイデア出しの手法について学び、自らがその手法を用いたアイデア出しを行いながら、グループワークによるアイデアのブラッシュアップを行うことにより、ビジネスプランを考えてもらいます。実際のベンチャー企業においても用いられている手法を取り入れることにより、アイデアの創出ができるようになり、アイデアの創出からビジネスモデルへブラッシュアップさせる手法を理解できるようになることを目標とします	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		時間外学習の内容
	回	テーマ	
	1	ガイダンス、ベンチャー企業の現状	シラバスの読了
	2	ベンチャー企業のマネジメント	レジュメの見直しと要点の整理
	3	起業環境とアントレプレナーシップ	専門用語の整理
	4	イノベーションマネジメント	イノベーションの定義の整理
	5	ビジネスアイデアの創出 ビジネスアイデアの発想法、個人ワーク	習得手法の現実への応用
	6	ビジネスプランの作り方1 ビジネスアイデアからビジネスプランへ	関連資料の収集
	7	ビジネスプランの作り方2 ビジネスモデルキャンパス	レジュメの見直しと要点の整理
	8	ブレインストーミングによるアイデアの創出	講義資料の読了
	9	マインドマップを用いたブレインストーミング	マインドマップの日常における使用
	10	基本コンセプトの作成とビジネスフロー	関連資料の収集
	11	ビジネスプランの作成1 ビジネスモデルキャンパスの作成	レジュメの見直しと要点の整理
	12	ビジネスプランの作成2 マネタイズの方法	モデル企業のマネタイズ手法の分析
	13	ビジネスプランの検証 ユーザーインタビュー	課題の考察
14	事業計画書の作成	関連資料の収集	
15	ビジネスプランの完成とプレゼン資料の作成	プレゼン資料の作成	
16	まとめ：プレゼンテーション		
実践	テキスト・参考文献・資料など	テキスト：教科書は使用せず、適宜プリント及び資料を配布します。 参考文献：学習を深めるための参考文献を講義の中で適宜紹介します。	
学びの手立て	・履修の心構え 配布されたプリントは予習・復習に使用するほか講義内で使用することもあるため、ファイリングを行い毎回持参すること。 受講生のレベルや興味に合わせて講義内容を若干変更することがあります。 ・学びを深めるために 日本経済新聞や日経ビジネスなどのベンチャー企業に関連する記事に目を通すことにより理解が深まります。 新語や専門用語が多くなるため事前学習による予習が重要となります。		
評価	平常点については、数回の課題提出を設け、授業において説明を行う手法を用いたアイデア出しができていないか、アイデアをビジネスモデルへとブラッシュアップできているか等を確認します。 平常点30%、プレゼンテーション70%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：ベンチャー経営論Ⅰ 次のステージ：習得した手法を現実に応用し自身の身近な課題解決に役立てる。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	簿記演習 I	後期	火 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	清村 英之	1 年	・研究室：5627室 ・メール：hkiyomura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この講義では、前期の「商業簿記 I」で学んだ内容を復習し、日商簿記検定試験 3 級取得を目指します。	日商簿記検定試験は11月と 2 月に行われます。11月試験の合格を目指し、頑張ってください。

到達目標
① 現金取引、商品売買取引、手形取引などの諸取引を仕訳（記録）できる。 ② 上記①の諸取引を現金出納帳、仕入帳・売上帳、商品有高帳などに記帳できる。 ③ 個人企業の損益計算書と貸借対照表を作成できる。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	—
	2	11月検定試験合格に向けて：試算表の作成	講義内容の復習
	3	11月検定試験合格に向けて：試算表の作成	同上
	4	11月検定試験合格に向けて：試算表の作成	同上
	5	11月検定試験合格に向けて：精算表の作成	同上
	6	11月検定試験合格に向けて：精算表の作成	同上
	7	11月検定試験合格に向けて：精算表の作成	同上
	8	2月検定試験合格に向けて：試算表の作成	同上
	9	2月検定試験合格に向けて：精算表の作成	同上
	10	2月検定試験合格に向けて：財務諸表の作成	同上
	11	2月検定試験合格に向けて：財務諸表の作成	同上
	12	2月検定試験合格に向けて：財務諸表の作成	同上
	13	2月検定試験合格に向けて：財務諸表の作成	同上
	14	2月検定試験合格に向けて：帳簿・伝票	同上
15	2月検定試験合格に向けて：帳簿・伝票	同上	
16	期末テスト	—	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など ・テキスト：未定 ・参考文献：使用しません。
-------	---

学びの手立て	履修上の注意事項／心構え： ・「商業簿記 I」を履修済みの学生しか登録できません。 ・資格取得を目指す講義なので、多くの時間外学習が必要です。
--------	---

評価	・平常点……20点（講義中の取組みを評価します） ・テスト……80点（上記「到達目標」を評価します）
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 ・関連科目：商業簿記 II（1 年次）、工業簿記 I II（2 年次）など、会計コースの諸科目
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	簿記演習Ⅱ	後期	月1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-名城 佳枝	2年		

学びの準備	ねらい 本授業では、日商簿記検定試験2級の範囲を学習し、検定試験の問題を概ね解答できるようになることを目的としています。	メッセージ 日商簿記検定試験2級の模擬試験問題を解いてもらい、解説を行っていきます。
	到達目標 日商簿記検定試験2級取得を目指します。	

学びの準備	到達目標 日商簿記検定試験2級取得を目指します。

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	オリエンテーション・登録
	2	商業簿記振り返り
	3	工業簿記振り返り
	4	模擬試験問題
	5	〃
	6	〃
	7	〃
	8	〃
	9	〃
	10	〃
	11	〃
	12	〃
	13	〃
	14	〃
	15	〃
16	〃	
時間外学習の内容		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 授業内でお知らせします。*電卓（12桁以上）を持参すること。
-------	--

学びの実践	学びの手立て 商業簿記・工業簿記2級の範囲をある程度理解していること。 本授業は問題を解く時間を設けますが、『合格』するためにはかなりの自主学習が必要です。
-------	--

学びの実践	評価 中間試験50点、期末試験50点
-------	-----------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目 「商業簿記Ⅰ・Ⅱ」「工業簿記Ⅰ・Ⅱ」「原価計算」
-------	---

※ポリシーとの関連性

「国際的ビジネス感覚を有する企業人の育成」するため、それに伴う英語力とグローバルな視点を待つことを目指す。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マーケティング英語	前期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上原 千登勢	3年	c. uehara@okiu.ac.jp 9号館502号室	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>様々なビジネスシーンやマーケティング関連のトピックを通して英語の4つのスキル(Listening, Reading, Writing, Speaking)、語彙力、そして文法をバランスよく学習する。マーケティング関連のアクティビティやグループワークを行い、実践的な英語力を身につけていく。またビジネスマナー、外国人対応、異文化についての知識と理解を深める。</p> <p>到達目標 *英語を使い、マーケティング関連のアクティビティ・タスクを行う。 *異文化への知識・理解を深める。</p>	<p>皆さんもご存じのとおり、沖縄も最近グローバル化が進んできました。今までは「英語が使えると得をする」と言われてきましたが、今後は間違いなく「英語が使えないと損をする」時代になります。例えば沖縄に来る外国人観光客のニーズを調査するとしたら、皆さんはどうしますか？そう言ったことを一緒に英語を使って考えましょう。See you in class!</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	Unit 1予習
	2	Unit 1 Introductions	Unit 1復習
	3	Unit 1 Introductions	Unit 1復習、Unit 2予習
	4	Unit 2 Work and leisure	Unit 2復習
	5	Unit 2 Work and leisure	Unit 2復習、Unit 3予習
	6	Unit 3 Problems	Unit 3復習
	7	Unit 3 Problems	Unit 1-3復習、Presentation準備
8	Mid-term Presentations	Unit 4予習	
9	Unit 4 Travel	Unit 4復習	
10	Unit 4 Travel	Unit 4復習、Unit 5予習	
11	Unit 5 Food and entertaining	Unit 5復習	
12	Unit 5 Food and entertaining	Unit 5復習、Unit 6予習	
13	Unit 6 Buying and selling	Unit 6復習	
14	Unit 6 Buying and selling	Unit 4-6復習、TOEIC問題	
15	TOEIC practice	Final Presentation準備	
16	Final Presentations		
	テキスト・参考文献・資料など		
	Market Leader Elementary (Business English Flexi Course Book 1), Pearson Education Limited その他参考書などは、必要に応じて授業で紹介する。		
	学びの手立て		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業に出席することは基本である。全体の1/3以上欠席した時点で単位は認められない。30分以上の遅刻を欠席、また2回の遅刻は1回の欠席とみなす。</li> <li>・私語、居眠り、他の教科の宿題など、授業に関係のないことを行った場合欠席扱い、または退室してもらうことがあるので注意してほしい。積極的に授業に取り組み、発言や質問をすること。</li> <li>・小テストやクイズなどで学習経過をチェックするので予習、復習は自主的、かつ積極的に行うこと。</li> <li>・スタディグループを作り、授業以外でも定期的に学習する環境作りをすること。欠席した際、クラスメートより授業内容を教えてもらい、配布物を預かってもらうようにすること。</li> </ul>		
	評価		
	<p>①授業態度、授業への参加・積極性、Self-Reflection (25%) ②課題 (25%) ④クイズ・小テスト(25%) ⑤Final Presentation (25%) を総合的に判断して評価する。</p> <p>また、授業以外に積極的に英語活動を行ったもの、ゲーム等の勝者にはボーナスポイントを与える場合があるのでそれらも考慮する。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>ネットなどを活用し、積極的に海外の情報を得ること。スピーキングやリスニングはもちろんだが、今後は英語で読んだり書いたりする力も必要になってくると予想される。また、英検やTOEICなどの資格試験などにも是非チャレンジしてほしい。将来の進路が決まっている学生は、その職種や業界で求められている英語力を把握し、それに向かって学習を進め、結果が出れば就職活動に有利になるだろう。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性 学ぶ姿勢と学ぶ力を付ける。自分で考えて、自ら動いていく力を付ける。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マーケティング演習	後期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮森 正樹	2年	miyamori@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業を通して、マーケティングの応用と社会における役割を知る。マーケティングという活動がいかに自分たちの生活に密着しているかを知る。成功している企業のマーケティング戦略をケースを通して学ぶ。県内企業のマーケティング戦略の調査を通して現状を知る。	メッセージ 専門科目を単なる単位・学ぶべきものとするのではなく、授業を通してその科目の楽しさ、面白さ、社会への影響に気づくことが大切です。
	到達目標 1. マーケティングの理論を幅広く知る。 2. マーケティングの応用を考える。 3. マーケティング理論と社会での現象の関係を知る。 4. 県内企業のマーケティング戦略を知る。 5. 実務で成功している企業の事例を知る。	

学びの準備	到達目標 1. マーケティングの理論を幅広く知る。 2. マーケティングの応用を考える。 3. マーケティング理論と社会での現象の関係を知る。 4. 県内企業のマーケティング戦略を知る。 5. 実務で成功している企業の事例を知る。
-------	--

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	マーケティングとは	
	3	県内企業の選択と調整	
	4	ブランド構築1	ケースを読む。企業調査実施。
	5	ブランド構築2	ケースを読む。企業調査実施。
	6	サービス・マネジメント1	ケースを読む。企業調査実施。
	7	サービス・マネジメント2	ケースを読む。企業調査実施。
	8	経験価値マーケティング1	ケースを読む。企業調査実施。
	9	経験価値マーケティング2	ケースを読む。企業調査実施。
	10	リレーションシップ・マーケティング1	ケースを読む。企業調査実施。
	11	リレーションシップ・マーケティング2	ケースを読む。企業調査実施。
	12	ウェブ・マーケティング1	ケースを読む。企業調査実施。
	13	ウェブ・マーケティング2	ケースを読む。企業調査実施。
	14	調査企業の事例発表1	事例発表準備1
15	調査企業の事例発表2	事例発表準備2	
16	期末試験		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：ケースで学ぶマーケティング。必要に応じて授業の中でプリントも配布する。参考文献は必要な時に発表。
-------	---

学びの実践	学びの手立て 履修の心構え： ①出席・授業への積極的参加を強く求める、②自分から動く、③課題提出は期日を守る。  学びを深めるために： ①議論に積極的に参加する、②日経MJを読む。
-------	---

学びの実践	評価 評価は次の項目の総合的な観点から行われる。 ①出席、②期末試験、③レポート、④授業での態度、⑤課題提出物、⑥プレゼンテーションの内容。
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 ビジネス関連科目を多く受講すること。マーケティングに関連した書籍を読むこと。一般教養科目をしっかりと学ぶこと。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マーケティング演習	後期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	李 相典	2年	sangjeon1120@gmail.com または授業終了後	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<ol style="list-style-type: none"> <li>多様なマーケティング事例を通じて、受講生の「マーケティングの重要性」についての理解力を向上させる。</li> <li>グループワークの活動を通じて、チームワークの重要性を理解する。</li> </ol>	<p>マーケティングの成功事例は大企業から小企業まで多様です。マーケティングによる成果は必ずしも高い利益を獲得することだけではありません。小さい町にある『定食店』にお客さんが並んでいることも、マーケティング視点から見ると、意味のあることです。本講義では、マーケティングの意味について、考え直せるきっかけになるような内容で学習します。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>マーケティング理論の多様性・拡張性について理解する。</li> <li>戦略的なマーケティング思考について理解する。</li> <li>これからのマーケティングの変遷について議論する。</li> </ol>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	基本プレゼンテーションの方法(レジュメの作成方法)、グループ分け	
	3	1次グループ・プレゼンテーション(指定課題)の選択と報告リハーサル	グループ内の役割の決定
	4	指定課題のプレゼンテーション①	グループ間ディスカッション
	5	指定課題のプレゼンテーション②	同上
	6	指定課題のプレゼンテーション③	同上
	7	指定課題のプレゼンテーション④	同上
	8	指定課題のプレゼンテーション⑤	同上
	9	2次グループ・プレゼンテーション(自由テーマ)の準備方法	グループ別自由テーマ討議
	10	2次グループ・プレゼンテーションのテーマを決定	
	11	自由テーマのプレゼンテーション①	グループ間ディスカッション
	12	自由テーマのプレゼンテーション②	同上
	13	自由テーマのプレゼンテーション③	同上
14	自由テーマのプレゼンテーション④	同上	
15	自由テーマのプレゼンテーション⑤	同上	
16	授業のまとめ		
実践	テキスト・参考文献・資料など	<ol style="list-style-type: none"> <li>テキスト：栗木契・岩田弘三・矢崎和彦編著『ビジョナリー・マーケティング』碩学舎、2013年。</li> </ol>	
学びの手立て	<ol style="list-style-type: none"> <li>遅刻や無断欠席は成績評価に積極的に反映しますので、ご注意ください。(やむを得ず遅刻・欠席の場合、事前にメールで連絡してください)</li> </ol>		
評価	<ol style="list-style-type: none"> <li>出席・受講態度50%： *5回以上の遅刻や無断欠席の場合は履修できません。授業中またはディスカッションへの積極的な参加には加点があります。</li> <li>1次プレゼンテーション20%</li> <li>2次プレゼンテーション30%</li> </ol>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：『グローバル観光ビジネス』のような、特別なマーケティングの視角を得られる科目を履修または聴講してください。</p> <p>次のステージ：『セールス・プロモーション』や『中小企業マーケティング』のような科目を履修すると、さらにマーケティングの面白さを感じられると思います。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マーケティング情報処理 I	前期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	原田 優也	2年	原田研究室 (5号館5633号室) Email: mongkhol@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 情報の時代が到来し、マーケティング領域においてもデータを読み判断する能力が問われている。この授業は、膨大なデータから価値ある情報を読み取り、論理的思考に基づいて意思決定を行う能力を修得することを最終目標とし、データ分析の理論的基礎と分析技法について分析ソフトを操作しながら実践的に学ぶ。	メッセージ データの扱い方から基礎的分析までのマーケティング・リサーチの実際を、ビジュアル教材を用いてわかりやすく解説する。高度な数学知識がなくともよい。意欲と関心を持って最後まで取り組める人を歓迎する。
	到達目標 1) 調査データの種類の分析準備、 2) データの要約と探索的分析、 3) マーケティング課題のリサーチ化と基礎的分析などの項目が理解でき、実際に一人で分析が行えるようになること。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む) 1回 オリエンテーション (概要と授業の受け方) 2回 地域マーケティングとは 3回 マーケティング・リサーチとは 4回 マーケティングレポート作成と情報処理 1 5回 マーケティングレポート作成と情報処理 2 6回 RESASとは: 地域マーケティングへの活用 1 7回 RESASとは: 地域マーケティングへの活用 2 8回 マーケット分析課題 1 市場規模分析 9回 マーケット分析課題 1 実習 10回 マーケット分析課題 2 観光客の行動分析 11回 マーケット分析課題 2 実習 12回 マーケット分析課題 3 商圈分析 13回 マーケット分析課題 3 実習 14回 分析のまとめ方 1 15回 発表 1 16回 発表 2 およびレポート提出
	テキスト・参考文献・資料など ○恩蔵 直人ほか『1からのマーケティング分析』碩学舎 ○分析の実習用に、RESASオンライン講座
	学びの手立て 1) 第1回目の授業に必ず出席すること。 2) Excelで集計表を作成した経験があること。 3) 意欲と関心を持って最後まで取り組める人を歓迎する。
	評価 授業への参加姿勢 (30%)とデータ分析課題の提出と内容評価 (70%) を勘案し、総合的に評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目 ○関連科目: マーケティング情報処理II、市場調査論、消費者行動論、専門演習 ○次のステージ: マーケティング情報処理IIで、マーケティング課題の分析手法をより実践的に解説します。
-------	--



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マーケティング情報処理Ⅱ	後期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	原田 優也	2年	mongkhol@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 情報の時代が到来し、マーケティング領域においてもデータを読み判断する能力が問われている。この授業は、膨大なデータから価値ある情報を読み取り、論理的思考に基づいて意思決定を行う能力を修得することを最終目標とし、データ分析の理論的基礎と分析技法について分析ソフトを操作しながら実践的に学ぶ。	メッセージ マーケティング情報処理Iに続き、マーケティング・リサーチの実際を、ビジュアル教材を用いてわかりやすく解説する。意欲と関心を持って最後まで取り組める人を歓迎する。
	到達目標 データの計量的分析から解釈、報告書の作成までのプロセスを集中的に学ぶ。 1) マーケティング情報処理Iで学んだ統計的知識や分析テクニックを、実践的なマーケティング課題にあわせて、活用できるようになること。 2) より高度な分析手法について考え方や注意点を理解できるようになること。 3) 分析計画と適切な分析手法の選択、結果のまとめができるようになること。 4) 統計解析ソフト「PASW (通称SPSS)」を動かしながら学習する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む) 1回 オリエンテーション 2回 PASW操作入門 3回 データの特徴をつかむには 4回 推定・検定の考え方 (1) 5回 推定・検定の考え方 (2) 6回 推定・検定の考え方 (3) 7回 データ分析： 関連性の検定 (1) 8回 データ分析： 関連性の検定 (2) 9回 分析事例： 顧客満足度 (CS) 分析 10回 仮説検定の考え方と手順 (1) 11回 仮説検定の考え方と手順 (2) 12回 仮説検定の考え方と手順 (3) 13回 分析のまとめ方 1 14回 分析のまとめ方 2 15回 発表 16回 発表およびレポート提出
	テキスト・参考文献・資料など ○恩蔵 直人ほか『1からのマーケティング分析』碩学舎 ○SPSS操作法や練習問題は、電子ファイルで配布する。 ○分析の実習用に、アンケート・データを配布する。 ○分析の実習用に、RESASオンライン講座を活用する。
	学びの手立て 1) 第1回目の授業に必ず出席すること。 2) 分析ソフトを用いた統計解析という専門性を修得するには、学習の積み重ねが必要である。授業はすべて分析実習をともなうので、できるだけ欠席はしないこと。 3) 高度な数学知識がなくともよい。意欲と関心を持って最後まで取り組める人を歓迎する。
	評価 授業への参加姿勢 (30%)とデータ分析課題の提出と内容評価 (70%)を勘案し、総合的に評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目 ○関連科目： マーケティング情報処理I、 マーケティング総論、市場調査論、消費者行動論 ○卒論や卒業研究などで、この授業で学んだ考え方や手法は、卒論や卒業研究に活かせる。
-------	---

※ポリシーとの関連性 学ぶ姿勢と学ぶ力を付ける。自分で考えて、自ら動いていく力を付ける。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マーケティング総論	前期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮森 正樹	2年	miyamori@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業を通して、マーケティングの奥深さを学ぶ。マーケティングの応用と社会における役割を知る。マーケティングという活動がいかに自分たちの生活に密着しているかを知る。成功している企業のマーケティング戦略をケースを通して学ぶ。	メッセージ 専門科目を単なる単位・学ぶべきものとするのではなく、授業を通してその科目の楽しさ、面白さ、社会への影響に気づくことが大切です。
	到達目標 1. マーケティングの理論を幅広く知る。 2. マーケティングの応用を考える。 3. マーケティング理論と社会での現象の関係を知る。 4. より高度なマーケティング理論を学ぶために基本をしっかりと身に付ける。 5. 実務で成功している企業の事例を知る。	

学びの準備	到達目標 1. マーケティングの理論を幅広く知る。 2. マーケティングの応用を考える。 3. マーケティング理論と社会での現象の関係を知る。 4. より高度なマーケティング理論を学ぶために基本をしっかりと身に付ける。 5. 実務で成功している企業の事例を知る。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	マーケティングとは	
	3	マーケティングのフレームワークを知る	企業ケースを読んでくる
	4	市場創造	企業ケースを読んでくる
	5	競争戦略	企業ケースを読んでくる
	6	セグメンテーションとターゲティング	企業ケースを読んでくる
	7	ポジショニング	企業ケースを読んでくる
	8	消費者行動	企業ケースを読んでくる
	9	マーケティング・リサーチ	企業ケースを読んでくる
	10	新製品開発	企業ケースを読んでくる
	11	価格戦略	企業ケースを読んでくる
	12	流通チャネル戦略	企業ケースを読んでくる
	13	マーケティング・コミュニケーション	
	14	これまでの復習1	
	15	これまでの復習2	
16	期末試験		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：ケースで学ぶマーケティング。必要に応じて授業の中でプリントも配布する。参考文献は必要な時に発表。
-------	---

学びの実践	学びの手立て 履修の心構え： ①出席・授業への積極的参加を強く求める、②自分から動く、③課題提出は期日を守る。  学びを深めるために： ①議論に積極的に参加する、②日経MJを読む。
-------	---

学びの実践	評価 評価は次の項目の総合的な観点から行われる。①出席、②期末試験、③レポート、④授業での態度、⑤課題提出物。
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 ビジネス関連科目を多く受講すること。マーケティングに関連した書籍を読むこと。一般教養科目をしっかりと学ぶこと。
-------	--

※ポリシーとの関連性 多様なマーケティング視角について学習することで、マーケティング分野で活躍できる人材を育成する。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マーケティング総論	前期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	李 相典	2年	sangjeon1120@gmail.com または授業終了後	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. マーケティング分野で活用されている「マーケティングの多様性」について学習する。</li> <li>2. 伝統的な「マーケティング理論」から拡張している「マーケティング視角」について学習する。</li> </ol>	<p>マーケティングはこれまでの製造業や、サービス産業、観光産業だけではなく、最近では都市のようなスペース(空間)創造などの公共政策分野にまで、拡張されてきました。本講義では、多様なマーケティング理論または新しく注目されているマーケティング視角について学習します。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. マーケティング理論の多様性・拡張性について理解する。</li> <li>2. 戦略的なマーケティング思考について理解する。</li> <li>3. これからのマーケティングの変遷について議論する。</li> </ol>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	マーケティングと戦略的思考Ⅰ	配布資料をよく読むこと
	3	マーケティングと戦略的思考Ⅱ	同上
	4	マーケティングと戦略的思考Ⅲ	同上
	5	戦略的ブランド・マーケティング&マネジメントⅠ	同上
	6	戦略的ブランド・マーケティング&マネジメントⅡ	同上
	7	戦略的ブランド・マーケティング&マネジメントⅢ	同上
	8	中間テスト	
	9	体験マーケティングⅠ	同上
	10	体験マーケティングⅡ	同上
	11	体験マーケティングⅢ	同上
	12	ストーリーテリング・マーケティングⅠ	同上
	13	ストーリーテリング・マーケティングⅡ	同上
14	スペース・マーケティングⅠ	同上	
15	スペース・マーケティングⅡ	同上	
16	期末テスト		
実践	テキスト・参考文献・資料など	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. テキスト：使用しません。配布資料で対応します。</li> </ol>	
学びの手立て	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 遅刻や無断欠席は成績評価に積極的に反映しますので、ご注意ください。(やむを得ず遅刻・欠席の場合、事前にメールで連絡してください)</li> </ol>		
評価	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 出席・受講態度50%： *5回以上の遅刻や無断欠席の場合は履修できません。授業中またはディスカッションへの積極的な参加には加点があります。</li> <li>2. 中間テスト20%</li> <li>3. 期末テスト30%</li> </ol>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：『グローバル・マーケティング総論』や『グローバル観光ビジネス』など、より多様なマーケティングの視角を得られる科目を履修または聴講してください。</p> <p>次のステージ：『アジアの企業と文化』や『ソーシャル・マーケティング』のような科目を履修すると、マーケティングの面白さを感じられると思います。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性 学ぶ姿勢と学ぶ力を付ける。自分で考えて、自ら動いていく力を付ける。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マーケティング入門 I	前期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮森 正樹	1 年	miyamori@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この授業を通して、マーケティングとは何かを学ぶ、マーケティングの基本と社会における役割を知る。マーケティングという活動がいかに自分たちの生活に密着しているかを知る。	専門科目を単なる単位・学ぶべきものとするのではなく、授業を通してその科目の楽しさ、面白さ、社会への影響に気づくことが大切です。

到達目標
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. マーケティングの理論を幅広く知る。</li> <li>2. マーケティングの応用を考える。</li> <li>3. マーケティング理論と社会での現象の関係を知る。</li> <li>4. より高度なマーケティング理論を学ぶために基本をしっかりと身に付ける。</li> </ol>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	マーケティングとは	配布プリントの予習
	3	企業におけるマーケティングの役割	配布プリントの予習
	4	企業におけるマーケティングの位置づけ	配布プリントの予習
	5	マーケティングの概念とその拡張	配布プリントの予習
	6	マーケティング理念とその再検討	配布プリントの予習
	7	戦略思考と戦略体系 1	配布プリントの予習
	8	戦略思考と戦略体系 2	配布プリントの予習
	9	経営資源の配分とPPM	配布プリントの予習
	10	マーケティング戦略の策定 1	配布プリントの予習
	11	マーケティング戦略の策定 2	配布プリントの予習
	12	マーケティング戦略の方向付け	配布プリントの予習
	13	製品ライフサイクル	配布プリントの予習
	14	戦略的マーケティング	配布プリントの予習
15	これまでの復習		
16	期末試験		

テキスト・参考文献・資料など
テキストは特になし。授業の中でプリントを配布する。参考文献は必要な時に発表。

学びの手立て
履修の心構え： ①出席・授業への積極的参加を強く求める、②自分から動く、③課題提出は期日を守る。
学びを深めるために： ①議論に積極的に参加する、②日経MJを読む。

評価
評価は次の項目の総合的な観点から行われる。①出席、②期末試験、③レポート、④授業での態度、⑤課題提出物。

学びの継続
次のステージ・関連科目 ビジネス関連科目を多く受講すること。マーケティングに関連した書籍を読むこと。一般教養科目をしっかりと学ぶこと。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マーケティング入門 I	前期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	髭白 晃宜	1年	t.higeshiro@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>①マーケティングの全体像をおおまかにつかむことができる。</p> <p>②現実の企業活動に関心を持つことができる。</p> <p>③実際の経済現象について普段から考える契機を与える。</p>	<p>マーケティングとは、顧客がほしいものを生産して、顧客に届ける企業活動のことです。すなわち、メーカーが「製品が売れる仕組みをつくる」ことがマーケティングなのです。</p> <p>本講義は、マーケティングの全体像と特徴をおおまかにつかむことで、履修学生が「優れたマーケティングとは何か」を理解することを目的とします。</p>
到達目標	<p>①マーケティングの全体像をおおまかに把握できる。</p> <p>②具体的な企業のマーケティング戦略への興味関心の喚起。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	マーケティングとは何か	マーケティングの定義について
	3	STP	「STP」についての学習
	4	マーケティング・ミックス①	「4つのP」についての学習
	5	マーケティング・ミックス②	中間試験①対策
	6	中間試験①	中間試験①の見直し
	7	マーケティング環境分析	「SWOT分析」についての学習
8	マーケティング・リサーチ①	市場調査の手順についての学習	
9	マーケティング・リサーチ②	調査対象の選定についての学習	
10	消費者行動①	購買意思決定プロセスについて	
11	消費者行動②	中間試験②対策	
12	中間試験②	中間試験②の見直し	
13	インターネット・マーケティング	口コミとマーケティングについて	
14	これからのマーケティング		
15	これまでの復習	期末試験対策	
16	期末試験		
実践	テキスト・参考文献・資料など	<p>※以下のテキストを講義の際に必ず持参すること。</p> <p>使用テキスト： 菊池宏之編著『現代マーケティング入門』同文館出版，2013年</p>	
	学びの手立て	<p>①テキストは必ず購入して、時間外に必ず予習・復習ができる態勢を整えてください。</p> <p>②欠席5回以上で成績評価は「不可」となります。また、30分以上の遅刻は欠席扱いとします。</p> <p>③スーパーマーケット、コンビニエンスストアなどをよく観察し、マーケティングの身近さを知る。</p>	
	評価	<p>◆中間試験①：25点</p> <p>◆中間試験②：30点</p> <p>◆期末試験：30点</p> <p>◆ミニレポート：15点（毎講義中に課すレポートのこと：講義数15回×各回1点）</p> <p>合計：100点満点</p>	

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>2年次以降の専門科目履修に必要なマーケティングの基礎知識を習得します。関連科目として「マーケティング総論」および「マーケティング演習」がある。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マーケティング入門Ⅰ	前期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	李 相典	1年	sangjeon1120@gmail.com または授業終了後	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	現代のビジネス社会は、マーケティングがなくては成り立ちません。本講義はマーケティングに関する基礎知識や基本的な仕組みなど、マーケティングの基礎理論を学ぶことで、今後のマーケティング・コース科目の履修における土台となるようにする。	マーケティングは難しいことはありません。我々は日々、マーケティング活動に接しています。本講義の内容は日常的な生活の中で、経験している多様なマーケティングの事例を挙げながら、講義を分かりやすく進めます。
到達目標	1. マーケティングに関する基礎用語から基本理論まで学ぶ。 2. 多様なマーケティング視点をケースを通じて学習する。 3. 今後のマーケティング・コース科目を履修する際に、必要な知識を身につける。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	イントロダクションⅠ. マーケティングとは何か	
	3	イントロダクションⅡ. マーケティング発想と成り立ち	
	4	マーケティングの基本概念	
	5	戦略的マーケティング	レポート課題①
	6	マーケティングのマネジメントⅠ. 製品	
	7	マーケティングのマネジメントⅡ. 価格	レポート課題①の提出
	8	マーケティングのマネジメントⅢ. 広告	
	9	マーケティングのマネジメントⅣ. チャネル	レポート課題②
	10	マーケティングのマネジメントⅤ. サプライチェーン	
	11	マーケティングのマネジメントⅥ. 営業	レポート課題②の提出
	12	関係マーケティングⅠ. 顧客関係の構築	
	13	関係マーケティングⅡ. 顧客関係の理解	レポート課題③
	14	企業の社会貢献	
15	マーケティング入門Ⅰのまとめと期末テストの対策	レポート課題③の提出	
16	期末テスト		

テキスト・参考文献・資料など
1. テキスト：石井淳蔵・廣田章光編著『1からのマーケティング 第3版』碩学舎、2009年。 2. 参考文献：①石井淳蔵・栗木契・嶋口充輝・余田拓郎『ゼミナールマーケティング入門 第2版』日本経済新聞出版社、2013年。 ②栗木契・水越康介・吉田満梨編著『マーケティング・リフレーミング』有斐閣、2012年。 *テキストのほかに、適宜プリント資料を配布します。

学びの手立て
1. 遅刻や無断欠席は成績評価に積極的に反映しますので、ご注意ください。 (やむを得ず遅刻・欠席の場合、事前にメールで連絡してください) 2. テキストを中心として学習し、積極的に講義に参加してください。

評価
1. 期末テスト50% 2. 出席・受講態度20%：5回以上の遅刻や無断欠席の場合は履修できません。 3. レポート30%：1回分は各10%(10点)。各レポートは3段階(A, B, C)で評価します。

学びの継続
次のステージ・関連科目 関連科目：マーケティング入門Ⅰで学習した知識に基づき、マーケティング入門Ⅱに進んでください。マーケティング入門Ⅱでは、具体的なマーケティング理論について学習します。 次のステージ：より面白いグローバル・マーケティングの事例を学習する『グローバル・マーケティング総論』を通じて、より多様なマーケティングの世界を学習してください。

※ポリシーとの関連性 学ぶ姿勢と学ぶ力を付ける。自分で考えて、自ら動いていく力を付ける。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マーケティング入門Ⅱ	後期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮森 正樹	1年	miyamori@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業を通して、マーケティングとは何かを学ぶ、マーケティングの基本と社会における役割を知る。マーケティングという活動がいかに自分たちの生活に密着しているかを知る。	メッセージ 専門科目を単なる単位・学ぶべきものとするのではなく、授業を通してその科目の楽しさ、面白さ、社会への影響に気づくことが大切です。
	到達目標 1. マーケティングの理論を幅広く知る。 2. マーケティングの応用を考える。 3. マーケティング理論と社会での現象の関係を知る。 4. より高度なマーケティング理論を学ぶために基本をしっかりと身に付ける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	マーケティングとは	配布プリントの予習
3	マーケティング環境 1	配布プリントの予習	
4	マーケティング環境 2	配布プリントの予習	
5	マーケティングタスク(市場需要)	配布プリントの予習	
6	マーケティングタスク(競争)	配布プリントの予習	
7	マーケティングタスク(流通)	配布プリントの予習	
8	消費者行動のシンプルモデル 1	配布プリントの予習	
9	消費者行動のシンプルモデル 2	配布プリントの予習	
10	マーケティング 4P(製品政策)	配布プリントの予習	
11	マーケティング 4P(流通政策)	配布プリントの予習	
12	マーケティング 4P(価格政策)	配布プリントの予習	
13	マーケティング 4P(販売促進政策)	配布プリントの予習	
14	マーケティング ミクスによる統合	配布プリントの予習	
15	これまでの復習		
16	期末試験		
	テキスト・参考文献・資料など テキストは特になし。授業の中でプリントを配布する。参考文献は必要な時に発表。		
	学びの手立て 履修の心構え： ①出席・授業への積極的参加を強く求める、②自分から動く、③課題提出は期日を守る。  学びを深めるために： ①議論に積極的に参加する。②日経MJを読む。		
	評価 評価は次の項目の総合的な観点から行われる。①出席、②期末試験、③レポート、④授業での態度、⑤課題提出物。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ビジネス関連科目を多く受講すること。マーケティングに関連した書籍を読むこと。一般教養科目をしっかりと学ぶこと。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マーケティング入門Ⅱ	後期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	李 相典	1年	sangjeon1120@gmail.com または授業終了後	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>マーケティング入門Ⅰを踏まえ、マーケティングの基礎知識や理論について、さらに具体的な内容を学習します。本講義はマーケティングに関する多様な理論を中心に議論します。今後のマーケティング・コース科目の履修に必要なマーケティング理論について理解することを目的とします。</p>	<p>マーケティング理論は『人間の生活』と密接に関係のある学問です。本講義はマーケティング理論が我々の生活の中でどのように適用されているのかを議論しながら、マーケティングの重要性やその必要性について、学習します。</p>
到達目標	<p>1. マーケティングに関する基礎用語から基本理論まで学ぶ。 2. 多様なマーケティング視点をケースを通じて学習する。 3. 今後のマーケティング・コース科目を履修する際に、必要な知識を身につける。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	マーケティング入門Ⅰの復習とマーケティング論における市場概念	
	3	製品差別化Ⅰ。垂直的・水平的属性による製品差別化	
	4	製品差別化Ⅱ。ポジショニング戦略	
	5	市場細分化Ⅰ。市場細分化の概念と細分化の基準	レポート課題①
	6	市場細分化Ⅱ。セグメンテーション戦略	
	7	製品ライフサイクル	レポート課題①の提出
8	消費者行動Ⅰ。マーケティングと消費者行動		
9	消費者行動Ⅱ。消費者行動とマーケティング・リサーチ	レポート課題②	
10	消費者行動Ⅲ。マーケティング・リサーチの基本プロセス		
11	新製品開発プロセス	レポート課題②の提出	
12	マーケティング・ミックス戦略		
13	ブランド構築とマーケティング戦略	レポート課題③	
14	マーケティングと環境変化		
15	マーケティング入門Ⅱのまとめと期末テストの対策	レポート課題③の提出	
16	期末テスト		
テキスト・参考文献・資料など	<p>1. テキスト：高嶋克義・桑原秀史『現代マーケティング論 新版』有斐閣アルマ、2012年。 2. 参考文献：①石井淳蔵・栗木契・嶋口充輝・余田拓郎『ゼミナールマーケティング入門 第2版』日本経済新聞出版社、2013年。 ②フィリップ・コトラー&amp;ゲイリー・アームストロング『コトラーのマーケティング入門 第4版』丸善出版、2014年。 *テキストのほかに、適宜プリント資料を配布します。</p>		
学びの手立て	<p>1. 遅刻や無断欠席は成績評価に積極的に反映しますので、ご注意ください。 (やむを得ず遅刻・欠席の場合、事前にメールで連絡してください) 2. テキストを中心として学習し、積極的に講義に参加してください。</p>		
評価	<p>1. 期末テスト50% 2. 出席・受講態度20%：5回以上の遅刻や無断欠席の場合は履修できません。 3. レポート30%：1回分は各10%(10点)。各レポートは3段階(A, B, C)で評価します。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：マーケティング・コースの本格的な履修科目である『マーケティング総論』や『基礎演習』のような科目を通じて、マーケティングに関する知識や実践能力を向上させてください。 次のステージ：『マーケティング総論』や『基礎演習』以外にも、『消費者行動概論』を履修して、マーケティングにおいて重要な「消費者」について、学習することも重要です。</p>
-------	--



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マーケティング入門Ⅱ	後期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	髭白 晃宜	1年	t.higeshiro@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>①マーケティングの全体像をおおまかにつかむことができる。</p> <p>②現実の企業活動に関心を持つことができる。</p> <p>③実際の経済現象について普段から考える契機を与える。</p>	<p>マーケティングとは、顧客がほしいものを生産して、顧客に届ける企業活動のことです。すなわち、メーカーが「製品が売れる仕組みをつくる」ことがマーケティングなのです。</p> <p>本講義は、マーケティングの全体像と特徴をおおまかにつかむことで、履修学生が「優れたマーケティングとは何か」を理解することを目的とします。</p>
到達目標		
	<p>①マーケティングの全体像をおおまかに把握できる。</p> <p>②具体的な企業のマーケティング戦略への関心の喚起。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	マーケティング入門Ⅰを振り返る	マーケティング入門Ⅰの復習
	3	マーケティング事例研究①：準備作業①	研究報告にむけて準備作業
	4	マーケティング・ミックス①：製品戦略【前編】	製品戦略についての学習
	5	マーケティング・ミックス②：製品戦略【後編】	同上
	6	マーケティング・ミックス③：価格戦略【前編】	価格戦略についての学習
	7	マーケティング・ミックス④：価格戦略【後編】	中間試験対策
	8	中間試験	中間試験の見直し
	9	マーケティング事例研究②：準備作業②	研究報告にむけて準備作業
	10	マーケティング事例研究③：グループ報告【前編】	事例研究
	11	マーケティング事例研究④：グループ報告【中編】	同上
	12	マーケティング事例研究⑤：グループ報告【後編】	同上
	13	マーケティング・ミックス⑤：チャネル戦略	チャネル戦略についての学習
14	マーケティング・ミックス⑥：プロモーション戦略【前編】	プロモーション戦略についての学習	
15	マーケティング・ミックス⑦：プロモーション戦略【後編】	期末試験対策	
16	期末試験		
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	<p>※以下のテキストを講義の際に必ず持参すること。</p> <p>使用テキスト： 菊池宏之編著『現代マーケティング入門』同文館出版，2013年</p>		
	学びの手立て		
	<p>①テキストは必ず購入して、時間外に必ず予習・復習ができる態勢を整えてください。</p> <p>②欠席5回以上で成績評価は「不可」となります。また、30分以上の遅刻は欠席扱いとします。</p> <p>③スーパーマーケット、コンビニエンスストアなどをよく観察し、マーケティングの身近さを知る。</p> <p>④時間外にグループ作業を行います。各自協力して作業に取り組むように。</p>		
	評価		
	<p>◆中間試験：30点</p> <p>◆グループ報告：25点</p> <p>◆期末試験：30点</p> <p>◆ミニレポート：15点（毎講義中に課すレポートのこと：講義数15回×各回1点）</p> <p>合計：100点満点</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>2年次以降の専門科目履修に必要なマーケティングの基礎知識を習得します。関連科目として「マーケティング総論」および「マーケティング演習」がある。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	民法	前期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-福里 芝人	3年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 私たちの日常生活で起こる紛争を解決する手段としての民法について学ぶことにより、契約社会で生き抜く基礎的な力を養います。	メッセージ これまで民法について学んだことのない初学者にも、例えを交えながらわかりやすく教えます。この講義をきっかけに「法律って難しい」⇒「あれ？法律って結構たのしいぞ！」という考えになってくれたら嬉しいです。他学科の学生の受講も歓迎します。
	到達目標 契約や結婚・離婚・相続などについての基礎的仕組みや法律用語の意味を理解でき、さらに、六法の仕組みや条文を理解することができます。そのことによって、会社や地域社会、家庭において必要とされる法的センスを身に付け、これからの生活を賢く生き抜く力を磨くことができます。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスをよく読むこと
	2	民法とは何か	テキスト第1章I
	3	財産法の仕組み	テキスト第1章II
	4	契約の成立から効力発生まで①（契約の成立、契約の主体）	テキスト第2章I・II・III
	5	契約の成立から効力発生まで②（契約の成立・有効要件など）	同上
	6	物権①（物権の客体、物権変動）	テキスト第2章IV
	7	物権②（占有権、所有権、用益物権）	同上
	8	債権の発生から消滅	テキスト第2章V
9	債権の効力として問題が生じたときの処理①（特定物債権と不特定物債権）	テキスト第2章VI	
10	債権の効力として問題が生じたときの処理②（受領遅滞、危険負担）	同上	
11	債権の効力として問題が生じたときの処理③（債務不履行、担保責任）	同上	
12	債権の履行確保の手段①（特殊な債権回収手段、債権保全）	テキスト第2章VII	
13	債権の履行確保の手段②（債権の担保）	同上	
14	家族法①（親族、婚姻・離婚、親子）	テキスト第3章I	
15	家族法②（相続、遺言）	テキスト第3章II	
16	テスト	合計60点未満の人は再試	
実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：「伊藤真の民法入門」伊藤真（著）日本評論社。ポケット六法（平成28年版）必携。		
	学びの手立て 【履修の心構え】民法は分量が多いので、予習・復習をしっかりとすること。また、早めに教科書・六法を購入して民法に慣れること。そして、授業では私語・居眠りをしないで、真面目な態度で受講すること。		
	評価 期末試験70%、レポート20%、平常点10%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 この授業では民法の概要について学ぶので、授業終了後に公務員試験対策や各種対策においてさらに細かな民法の授業があれば受講することを望む。また、「関連科目」としては、「商法」や「会社法」を学ぶことによって、卒業後のビジネス現場で必要とされる法的知識を習得して、企業で必要とされる人材へと成長することができます。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	流通政策論	後期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	髭白 晃宜	3年	t.higeshiro@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>①流通政策の変遷から、日本型流通の特徴を理解する。 ②個別の流通政策について理解を深め、社会での役割を確認する。 ③商業振興とまちづくりの関係性について理解する。</p>	<p>現実の経済制度がすべて順調に機能しているとは限りません。流通政策は、経済政策のうち流通部門にかかわる政策で、流通システムをうまく機能させるためのものです。 本講義では流通政策に焦点を当て、商業振興とまちづくりについて考えると同時に、都市の商業が抱える問題点を明らかにします。</p>
到達目標	<p>①流通政策の変遷から日本型流通の特徴を理解すると同時に、日本の流通制度が抱える問題を明らかにする。 ②個別の流通政策に関する理解を深めて、自身の購買行動への影響を身近に考えることができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	流通総論を振り返る	流通総論の復習
	3	中小小売商と商店街	商店街の発展と衰退について
	4	流通政策と小売商業政策	日本の商業構造が抱える問題
	5	流通政策研究①：報告準備作業	研究報告にむけて準備作業
	6	流通政策研究②：グループ報告①	流通政策研究
	7	独占禁止法	同上
8	景品表示法と再販売価格維持制度	中間試験対策	
9	中間試験	中間試験の見直し	
10	流通政策研究③：グループ報告②	流通政策研究	
11	百貨店法と大規模小売店舗法	同上	
12	中小小売商業振興法	同上	
13	流通政策研究④：グループ報告③	同上	
14	まちづくり三法	同上	
15	地域商店街活性化法	同上	
16	期末試験	期末試験対策	
実践	テキスト・参考文献・資料など	<p>※以下のテキストを講義の際に必ず持参すること。 使用テキスト： 番場博之編著『基礎から学ぶ流通の理論と政策（新版）』八千代出版，2016年</p>	
	学びの手立て	<p>①テキストは必ず購入して、時間外に必ず予習・復習ができる態勢を整えてください。 ②欠席5回以上で成績評価は「不可」となります。また、30分以上の遅刻は欠席扱いとします。 ③「流通総論」の事前履修を推奨。講義内容をより深く理解できます。 ④流通政策が都市の商業構造に与える影響から、まちづくりについて今後の展望を描く。</p>	
	評価	<p>◆中間試験：30点 ◆グループ報告：25点 ◆期末試験：30点 ◆ミニレポート：15点（毎講義中に課すレポートのこと：講義数15回×各回1点） 合計：100点満点</p>	

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<p>小売業や卸売業が抱える課題を発見して、課題解決のための流通政策のありかたを考えることができる。 流通政策の目的を理解することで、流通システムと都市・地域の発展の関係性を考えることができる。 関連科目として「流通総論」や「商業史」、「小売流通論Ⅰ」および「小売流通論Ⅱ」がある。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	流通総論	前期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	髭白 晃宜	2年	t.higeshiro@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>①流通に関する基礎的な理論を学び、今日の流通実態を理解する。                  ②流通業態の発展を学ぶことで、流通業の役割を理解する。                  ③地域社会の発展と流通の関係について考える契機を与える。</p>	<p>流通は、生産と消費をつなぐことで商業活動を円滑に行う手助けをするという役割を持っています。流通チャンネルが多様であるがゆえに、私たちは便利で豊かな生活を送ることができます。本講義では、生活に密接に結び付いた流通の仕組みや役割を学ぶことで、日本型流通の特徴や問題点を明らかにしていきます。</p>
到達目標	<p>①流通に関する基礎的な理論を習得し、今日の流通実態について理解できる。                  ②小売業の業態についての理解を深めると同時に、日本型流通システムの特徴を知る。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
2	流通とは何か		
3	流通業者の役割／購買圏と商圈		
4	卸売業①：卸売業の機能		日本の卸売業の特徴について
5	卸売業②：卸売業の多段階性		中間試験①対策
6	中間試験①		中間試験①の見直し
7	小売業①：小売業の機能		
8	小売業②：百貨店		百貨店成立史について
9	小売業③：百貨店		欧米と日本の百貨店比較
10	小売業④：スーパーマーケット		スーパーマーケット成立史について
11	小売業⑤：スーパーマーケット		日本のスーパーの特徴について
12	小売業⑥：コンビニエンスストア		中間試験②対策
13	中間試験②		中間試験②の見直し
14	沖縄県小売業の特徴		沖縄県小売業についての学習
15	これまでの復習		期末試験対策
16	期末試験		
テキスト・参考文献・資料など	<p>※以下のテキストを講義の際に必ず持参すること。                  使用テキスト：                  番場博之編著『基礎から学ぶ流通の理論と政策（新版）』八千代出版，2016年</p>		
学びの手立て	<p>①テキストは必ず購入して、時間外に必ず予習・復習ができる態勢を整えてください。                  ②欠席5回以上で成績評価は「不可」となります。また、30分以上の遅刻は欠席扱いとします。                  ③「マーケティング入門Ⅰ」および「マーケティング入門Ⅱ」の内容を復習したうえで講義に臨むこと。                  ④スーパーマーケット、コンビニエンスストアなどをよく観察し、流通チャンネルの重要性を学ぶこと。</p>		
評価	<p>◆中間試験①：25点                  ◆中間試験②：30点                  ◆期末試験：30点                  ◆ミニレポート：15点（毎講義中に課すレポートのこと：講義数15回×各回1点）                  合計：100点満点</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>地域社会における流通業の役割を理解して、小売業や卸売業が抱える課題を発見する。関連科目として「商業史」、「小売流通論Ⅰ」および「小売流通論Ⅱ」がある。本講義履修後は、「流通政策論」の履修が望ましい。</p>
-------	---